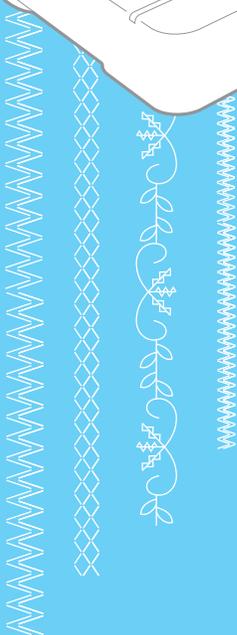
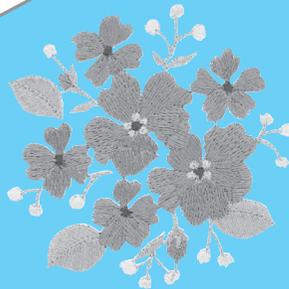
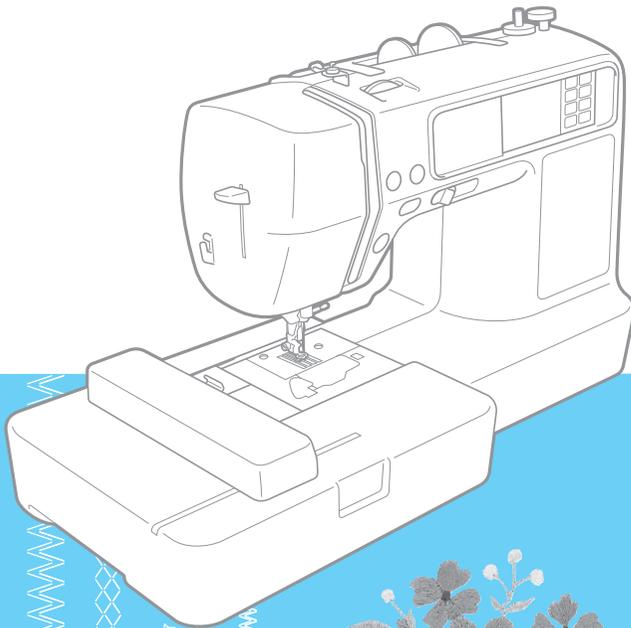


取扱説明書

刺しゅう機付
コンピューターミシン
EMV81シリーズ



1 めう前の準備

めう前に必要な準備を説明します。

2 めい方の基本

基本のめい方と上手にめうコツなどを説明します。

3 いろいろなめい方

いろいろなめい方とその使い方を説明します。

4 刺しゅう

刺しゅうの手順を説明します。

5 付録

ミシンのお手入れと困ったときの対処方法などを紹介します。

- ご使用になる前に必ず取扱説明書をお読みにになり、正しくお使いください。
- 取扱説明書はなくさないように大切に保管し、いつでも手にとって見られるようにしてください。

はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきまことにありがとうございます。
お使いになる前に、下記「安全にお使いいただくために」をよくお読みいただき、この取扱説明書をご覧になり各機能の正しい使い方を十分にご理解の上、未永くご愛用ください。
また、取扱説明書は読み終わったあともいつでもご覧になれるところに保管してください。

安全にお使いいただくために

取扱説明書および本製品で使用されている表示や絵文字は、本製品を安全に正しくお使いいただき、お使いになる方や他の人々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。
その表示や意味は次のとおりです。

 警告	● この表示を無視して誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う危険が想定される内容を示しています。
 注意	● この表示を無視して誤った使い方をすると、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

取扱説明書で使用している絵文字の意味は次のとおりです。



特定しない禁止事項



特定しない危険通告



針の下に指を入れないでください



感電の危険があります



分解してはいけません



火災の危険があります



水に濡らしてはいけません



特定しない義務行為



電源プラグを抜いてください

本製品を安全にお使いいただくために、次のことから守ってください。

警告



- 必ず一般家庭用電源 AC100V の電源で使用してください。それ以外の電源で使用すると、火災・感電・故障の原因となります。



- 次のようなときは電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。火災・感電・故障の原因となります。



- ・ ミシンのそばを離れるとき
- ・ ミシンを使用したあと
- ・ 使用中に停電したとき
- ・ 接触不良、断線などで正常に動作しないとき
- ・ 雷が鳴りはじめたとき



注意



- 針の下などに指を入れしないでください。けがをするおそれがあります。



- ミシン操作中は、針の動きに十分注意してください。また、針、プーリー、てんびんなど、動いているすべての部品に手を近づけないでください。けがの原因となります。



- 延長コードや分岐コンセントを使用した、たこ足配線はしないでください。火災・感電の原因となります。



- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。



- 電源プラグを抜くときはまず電源スイッチを切り、必ずプラグの部分を持って抜いてください。電源コードを引っ張って抜くとコードが傷つき、火災・感電の原因となります。



- 電源プラグは根元まで確実に差し込んでください。差込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因となります。傷んだプラグ・ゆるんだコンセントは使用しないでください。



- 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。また、重い物を載せたり、加熱したりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。電源コードまたは電源プラグが破損したときはミシンの使用をやめて、お近くの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」フリーダイヤル 0120-340-233 にご連絡ください。



！ 注意



- 長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となります。



- 直射日光の当たるところや、ストーブ、アイロンなど火の気のあるもののそばや温度の高いところでは使用しないでください。ミシンの使用温度は0～40℃です。マシン内部の温度が上がったり、マシン本体や電源コードの被膜が溶けて火災・感電の原因となります。



- 火の気のあるもののそばでは使用しないでください。(火の消えていないたばこ、ろうそくなど) 火災の原因になります。



- 野外でのご使用は避けてください。雨などが降り、本体が濡れて感電の原因となります。また濡れた時はお近くの販売店または「お客様相談室(マシン 119 番)」フリーダイヤル 0120-340-233 にご連絡ください。



- 以下の場所に設置、保管をしないでください。故障の原因になります。
 - ・ 温度が著しく高くなる場所
 - ・ 温度が著しく低くなる場所
 - ・ 急激に温度が変化する場所
 - ・ 湿気、湯気の多い場所
 - ・ 火気や熱器具、冷暖房機器などに近い場所
 - ・ 屋外や直射日光の当たる場所
 - ・ ほこり、油煙の多い場所



- スプレー製品などをご使用の部屋では使用しないでください。スプレーへの引火によるやけど・火災の原因となります。



- ぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所には置かないでください。バランスが崩れて倒れたり、落下などしてけがをする原因となります。マシンは安定した平らなテーブルや机の上でご利用ください。



- ミシン本体の換気口をふさがしないでください。換気口は、必ず壁から 30 cm 以上離してお使いください。また、換気口やフットコントローラーに糸くずやほこりがたまらないようにしてください。火災の原因となります。(フットコントローラーは別売です。)



- ミシン本体の上に花瓶や水の入った容器を置くなどして、ミシン本体に水をこぼさないでください。万一、内部に水などが入った場合は、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店または「お客様相談室(マシン 119 番)」フリーダイヤル 0120-340-233 にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



！ 注意



- ミシン本体の換気口や内部に異物を入れたり、ドライバーなどを差し込まないでください。高圧部に触れて感電のおそれがあります。万一、異物が入った場合は、使用をやめてお近くの販売店または「お客様相談室(ミシン 119 番)」フリーダイヤル 0120-340-233 にご連絡ください。



- 上糸、下糸等に関する操作については、取扱説明書の指示に従って正しく行ってください。取り扱いを誤ると、縫製中に糸がらみ等が発生し、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。



- ミシン本体の重さは約 6.2 kg あります。ミシン本体を持ち運びする際は急激、または不用意な動作をしないでください。腰や膝を痛める原因となります。



- ミシン本体は、必ずハンドルを持って持ち運びをしてください。他の部分を持つとこわれたり、すべって落としたりして、けがの原因となります。



- ミシン本体には取扱説明書に記載されている正規の部品をご使用ください。他の部品を使うと、けが・故障の原因となります。



- お客様ご自身での分解、修理および改造は行わないでください。火災・感電・けがの原因となります。指定以外の内部の点検・調整・掃除・修理は、お近くの販売店または「お客様相談室(ミシン 119 番)」フリーダイヤル 0120-340-233 にご依頼ください。



- 取扱説明書に記載されている整備を行うときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。けが・感電の原因となります。



- リッパーで穴を開ける方向に、手や指を置かないでください。すべったときにけがをするおそれがあります。本来の使用目的以外での使用はしないでください。



- 針と押えは、必ず電源を切ってから交換してください。万一、スイッチが押されると、ミシンが作動してけがをするおそれがあります。



- 縫製中、布地を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。けが・針折れの原因となります。



- 曲がった針は絶対に使用しないでください。針折れの原因となります。



- 万一、ミシン本体を落としたり、破損したり、故障したりした場合は、ただちに使用をやめてお近くの販売店または「お客様相談室(ミシン 119 番)」フリーダイヤル 0120-340-233 にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



- 万一、煙が出ている、異臭がする、異常音がするなどの状態のときはすぐに電源プラグをコンセントから抜いて、お近くの販売店または「お客様相談室(ミシン 119 番)」フリーダイヤル 0120-340-233 にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。お客様による修理は危険ですから絶対に行わないでください。



- ミシン本体が入っていた袋は、お子様がかぶって遊ばないように、お子様の手の届かないところに保管するか廃棄してください。かぶって遊ぶと窒息のおそれがあります。

注意



- お子様の玩具として使用しないでください。お子様をご使用になるときや、お子様の近くでご使用になるときは、お子様がけがをしないよう十分ご注意ください。



- フットコントローラーの上に物を置かないでください。
けが・故障の原因となります。(フットコントローラーは別売です。)



- 刺しゅう機を取り付けたままミシンを移動させないでください。刺しゅう機が落下してけがをするおそれがあります。

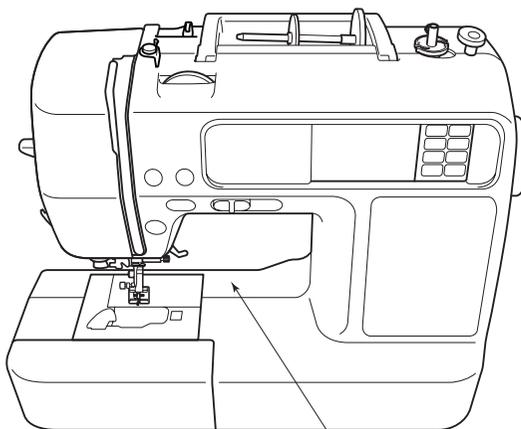


お願い

- このミシンは日本国内向け、家庭用です。外国では使用できません。
This sewing machine cannot be used in a foreign country as designed for Japan.
職業用としてご使用になった場合の保証はいたしかねますので、ご了承ください。
- 仕様および外観は品質改良のため、予告なく変更することがありますのでご了承ください。
- 取扱説明書の内容を許可なく無断で複製することは禁じられておりますので、ご了承ください。
- 取扱説明書の内容は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。
- 取扱説明書の内容について、万一不審な点や誤りなどお気づきの点がありましたら「お客様相談室(ミシン 119 番)」フリーダイヤル 0120-340-233 にご連絡ください。

警告ラベルについて

ミシンには下記の警告ラベルが表示されています。
警告表示の注意事項を守って作業を行ってください。



ラベルの場所

もくじ

はじめに	1
安全にお使いいただくために	1
警告ラベルについて	5
製品の特長	9
付属品を確認してください	10
付属品	10
別売品	14
各部の名前とはたらき	16
前面	16
針・押え部分	17
右側面・背面	17
操作スイッチ	18
操作パネル	19
ぬう前の準備	21
電源を入れましょう	22
電源に関する注意	22
電源を入れる	23
電源を切る	23
液晶画面の操作	24
液晶画面の見方	24
ミシンの設定を確認・変更する	25
ミシンの使い方を確認する	27
糸をセットしましょう	28
下糸を巻く	28
下糸をセットする	33
上糸を通す	36
針を交換する	41
布地と糸の種類による針の使い分け	41
正しい針の見分け方	42
針を交換する	42
押えを交換する	44
押えを交換する	44
押えホルダーを取り外す	46
筒ものをぬう	47
フリーアームにする	47
ぬい方の基本	49
ぬってみましょう	50
ソーイングの手順	50
模様の種類	51
模様を選ぶ	51
布地をセットする	55
ミシンをスタートさせる	56
返しぬい／止めぬいをする	58
糸を切る	60
ぬい目を調節する	61
模様の幅を調節する	61
ぬい目の長さを調節する	62
糸調子を調節する	62
便利な機能	64
自動で返しぬい／止めぬいをする	64
自動で糸を切る	65
模様を反転させる	66
模様の設定を記憶させる	67

上手にぬうコツ	68
試しぬいをする	68
ぬう方向を変える	68
カーブをぬう	68
厚い布地をぬう	68
面ファスナー(マジックテープ [®])をぬう	69
薄い布地をぬう	69
伸びる布地をぬう	70
ビニールや皮をぬう	70
ぬいしろの幅をそろえる	70
いろいろなぬい方	71
模様一覧	72
実用模様	72
その他の模様	76
文字模様	77
ぬいしろを始末する	79
たち目かがり押え<G>を使ったたち目かがり	79
ジグザグ押え<J>を使ったたち目かがり	80
サイドカッター押え<S>(別売)を使ったたち目かがり	81
布をぬい合わせる/しつけぬいをする	83
しつけぬい	83
布をぬい合わせる	83
すそ上げをする	85
ボタン穴かがりをする/ボタンを付ける	88
ボタン穴かがりをする	89
ボタンを付ける	93
ファスナーを付ける	95
つき合わせ	95
片返し	97
伸びる布地やゴムテープをぬう	99
伸縮ぬい	99
ゴムテープ付け	100
アップリケ/パッチワーク/キルトをぬう	101
アップリケ	102
パッチワーク(クレイジーキルト)	103
ピーシング	103
キルティング	104
フリーモーションキルト	106
振幅コントロールを使って模様をぬう	107
丈夫にしたいところをぬう	109
三重ぬい	109
かんどめ	109
つくろいぬい(ダーニング)	112
はとめ穴を作る	114
飾りぬいをする	115
ファゴティング	116
スカラップ	117
スモッキング	117
シェルタック	118
つき合わせ	119
ヘアルーム	119
いろいろな模様をぬう	122
模様をきれいにぬうには	122
模様のぬい方	122
模様の密度を変える	123
模様の大きさを変える	123
模様の長さを変える	124
文字間隔を調節する	124
模様を調整する	125
模様を組み合わせる	126
組み合わせ模様を記憶させる	129

刺しゅう	131
きれいに刺しゅうをするには	132
用意するもの.....	132
刺しゅうの手順.....	133
刺しゅう押え〈Q〉を取り付ける	134
刺しゅう押え〈Q〉を取り付ける.....	134
刺しゅう押え〈Q〉を取り外す.....	136
刺しゅう機を取り付ける	137
刺しゅう機を取り付ける.....	137
刺しゅう機を取り外す.....	139
布地を用意する	140
布地に接着芯を貼る.....	140
布地を刺しゅう枠に張る.....	141
刺しゅう枠を取り付ける	144
刺しゅう枠を取り付ける.....	144
刺しゅう枠を取り外す.....	145
刺しゅう模様を選びましょう	146
刺しゅう模様の種類.....	146
液晶画面の操作.....	147
文字模様を選ぶ.....	150
ワンポイント模様を選ぶ.....	152
枠模様を選ぶ.....	152
刺しゅうカードを使う.....	153
刺しゅうをしてみましょう	155
刺しゅうする前に模様を確認する.....	155
ワンポイント模様を刺しゅうする.....	156
アプリケをする.....	157
1. アプリケピースを作る.....	158
2. 土台の布地にアプリケの位置をぬう.....	158
3. アプリケピースを土台用の布地に貼り付ける.....	159
4. 残りのパーツをぬいあげる.....	159
こんなとき	160
模様のレイアウトや大きさを調整する.....	160
糸調子を調節する.....	162
長い文字をつなげてぬう.....	163
刺しゅうし直したいとき.....	164
途中で糸がなくなったとき.....	165
刺しゅうを中断するとき.....	165
模様の記憶機能を使う	167
刺しゅうデータに関する注意.....	167
パソコンの模様を呼び出す.....	169
模様を記憶させる.....	172
模様を呼び出す.....	172
付録	173
お手入れ	174
注油に関して.....	174
ミシンを保管するときのご注意.....	174
本体表面の掃除.....	174
かまの掃除.....	174
困ったとき	176
よくあるご相談.....	176
上糸がつる.....	176
布裏で糸がからまる.....	177
糸調子が合わない.....	179
布がミシンに入り込んでとれなくなった.....	180
こんなときには.....	183
液晶画面のメッセージ表示.....	189
液晶画面に何も表示されないとき.....	193
電子音.....	193
USB フラッシュメモリーを使ってのアップグレードの方法	194
本体仕様	195
さくいん	196

製品の特長

実用模様・文字をぬうことができます。また、刺しゅう機で、ワンポイント模様・枠模様・文字を刺しゅうすることもできます。

らくらく操作

自動糸切り

ぬい終わりは自動で糸を切ることができます。

P. 60

糸通し装置

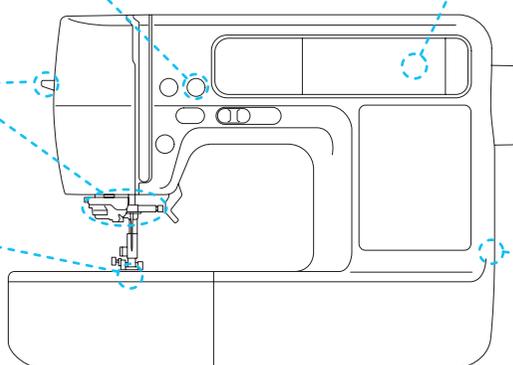
レバーを下ろすだけで、ワンタッチで簡単に針穴に糸が通ります。

P. 36

ワンタッチで 下糸準備が完了

ぬい始めに下糸を引き出す必要がありません。

P. 33



楽しく広がる刺しゅうの世界

刺しゅう模様を豊富に内蔵

いろいろな模様を刺しゅうすることができます。

手作りグッズを楽しく演出できます。

P. 146

USBフラッシュメモリー から模様をダウンロード

USBフラッシュメモリーを直接差し込むだけで、USBフラッシュメモリーに保存された刺しゅうデータ（インターネットの刺しゅうデータダウンロードサイトからダウンロードしたデータ）をミシンに取り込むことができます。デザインの幅が広がります。

P. 169

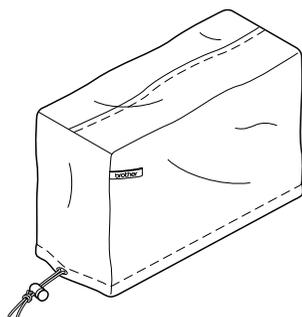
付属品を確認してください

箱をあけたら、まず以下の付属品が揃っているか確認してください。不足しているときや破損しているときは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

付属品

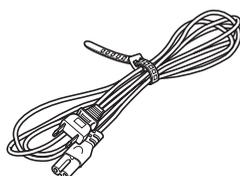
■ ミシンカバー

ミシンを使用しないときは、カバーをかぶせて収納してください。



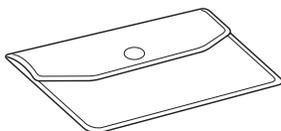
■ 電源コード

電源ジャックに差し込みます。



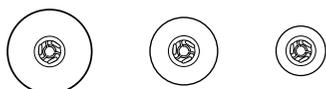
■ 付属品バッグ

ネジ回しや押えなどの小物を収納するバッグです。



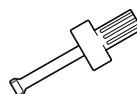
■ 糸こま押え

上糸をセットするときに使用します。糸こまの大きさによって大/中/小を使い分けます。購入時、糸こま押え(中)はミシンの糸たて棒にセットされています。



■ ドライバー

ミシン針を交換するときなどに使用します。



■ ネジ回し

針板カバーを開閉するときに使用します。



■ はとめ穴パンチ

はとめ穴をあけるときに使用します。



■ ミシンブラシ

かまなどの細かい部分のほこりを取り除くときに使用します。



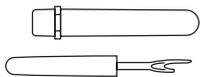
■ 糸こまネット

張りが強い糸をセットするときに使用します。



■ リッパー

ぬい目をほどこいたり、ボタン穴を切り開くときに使用します。



■ はさみ

糸などを切ります。



■ 押え

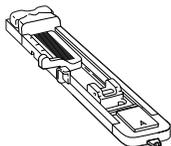
ぬい方に合った押えが7種類用意されています。詳細は、「押えを交換する」(→P.44)で説明します。

□ ジグザグ押え <J>

押え固定ピンが付いています。
※購入時は、ミシン本体の押えホルダーに取り付けられています。



□ ボタン穴かがり押え <A>



□ たち目かがり押え <G>



□ 片押え <D>



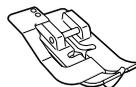
□ ボタン付け押え <M>



□ 模様ぬい押え <N>



□ まつりぬい押え <R>



■ ボビン

下糸を巻いて使用します。本製品純正のボビンが4個付属されています。そのうちの1個は、購入時にかまにセットされています。残りの3個は、付属品バッグに入っています。



■ ミシン針 (HA × 1)

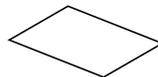
4種類 (計6本) の針が付属されています。糸の太さや布地によって使い分けます。

● 詳細は、「布地と糸の種類による針の使い分け」(→P.41)で説明します。

	黄	#11(2本)
	赤	#14(2本)
	緑	#16(1本)
	ニット用・金	#11(1本)

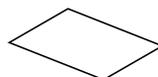
■ サンフェロン

フェルトに接着芯を貼ったものです。刺しゅうの試しぬいに使用します。



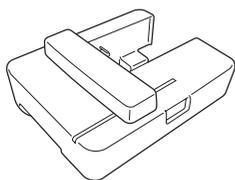
■ 刺しゅう用接着芯

刺しゅうする布地の裏にアイロンで貼ります。



■ 刺しゅう機

刺しゅうをするときにミシンに取り付けます。



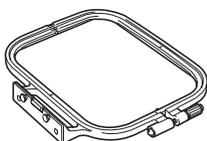
■ 刺しゅう押え〈Q〉

刺しゅうをするときに使用します。



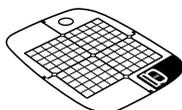
■ 刺しゅう枠 [M]

刺しゅうをするときに布地を張ります。
10 × 10cm までの刺しゅうができます。



■ 刺しゅうシート

刺しゅう枠に、印を付けた布を張るとき、位置を合わせるために使用します。(刺しゅう枠 [M] とセット)



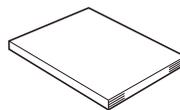
■ タッチペン

画面を押して操作するとき 사용합니다。



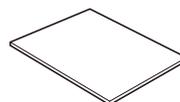
■ 取扱説明書

本書です。大切に保管してください。



■ 操作早見表

下糸・上糸のセットと刺しゅうの手順、模様のサンプルが確認できます。



■ かんたん操作ガイド

「下糸の準備」、「上糸の通し方」、「刺しゅうの準備」を紹介しています。



■ 使いこなし DVD

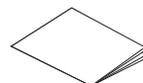
ミシンの基本的な使い方と「つくりかたレシピ」を紹介しています。



※DVD 内で説明されるつくりかたレシピの型紙等の情報については、ブラザーホームページ (<http://www.brother.co.jp/product/hsm/index.htm>) をご覧ください。

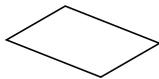
■ 型紙

DVD の「つくりかたレシピ」の中で紹介している作品のための型紙です。



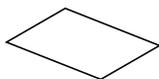
■ ソーイングネットチラシ

プラザー「ソーイングネット」へのユーザー登録の方法を紹介しています。



■ ダウンロードガイド

インターネットから刺しゅうデータをダウンロードする手続きを紹介しています。

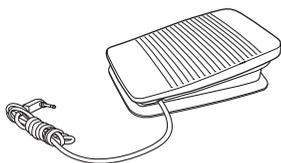


別売品

別売品として次の製品を用意しています。お買い上げの販売店、または「お客様相談室（マシン 119 番）」（フリーダイヤル 0120-340-233）にお問い合わせください。

■ フットコントローラー

ミシンを足で操作するとき 사용합니다。
(モデル: FC32291) 型式 MODEL T



■ ウィングニードル

針穴を大きく開けてレース風の飾り模様をぬうときに 사용합니다。(モデル: WN001)



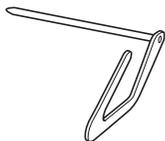
■ ガイド付まつりぬい押え

ガイドを布端に合わせて調節し、一定幅のぬいしるでぬうことができます。(モデル: F017N)



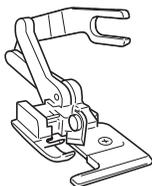
■ キルター

ウォーキングフットや押えホルダーのキルター用の穴に差し込んで 사용합니다。キルティングをするときに、ぬい目を等間隔にそろえてぬうことができます。(モデル: F016)



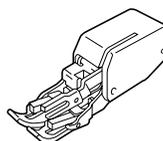
■ サイドカッター押え

布端を切りながら、たち目がかりなどをするときに 사용합니다。(モデル: F054)



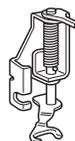
■ ウォーキングフット

ビニールや皮など、ぬいにくい布地やぬいずれしやすい布地をぬうときに 사용합니다。
(モデル: F033)



■ オープントゥキルト押え [O]

フリーモーションキルトをするときに 사용합니다。
(モデル: F061J)



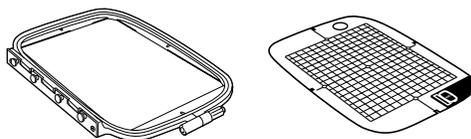
■ 刺しゅう枠・刺しゅうシート [S]

縦 2 × 横 6 cm までの模様がぬえます。文字などの小さな刺しゅうをするときに 사용합니다。
(モデル: EF61)

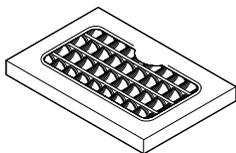


■ 刺しゅう枠・刺しゅうシート [L]

縦 17 × 横 10cm の範囲内に刺しゅう模様がぬえます。布地を張り替えずに複数の模様を刺しゅうするときに 사용합니다。
(モデル: EF71)



■ 刺しゅう糸



ウルトラボス 39 色セット

(モデル：ETS39)

ウルトラボス 23 色セット

(モデル：ETS23)

ウルトラボス 22 色セット

(モデル：ETS22)

カントリー系 40 色セット

(モデル：CTS40)

カントリー系 21 色セット

(モデル：CTS21)

■ 刺しゅう専用糸



刺しゅう専用下糸 500m 巻き

(モデル：EBT01)

刺しゅう専用下糸 1300m 巻き

(モデル：EBT02)

■ 刺しゅう用接着芯

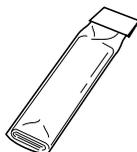
刺しゅうする布地の裏にアイロンで貼ります。

(モデル：BM3)



■ 刺しゅう用水溶性シート

薄手の布地やタオルなどの起毛した布地に刺しゅうをするときに使用します。洗濯するとシートが溶けます。(モデル：BM4/BM6)



■ 刺しゅうカード

刺しゅう模様が内蔵されているカードです。ミシン本体の刺しゅうカード差し込み口に差し込んで使用します。テーマ別にいろいろなカードがあります。

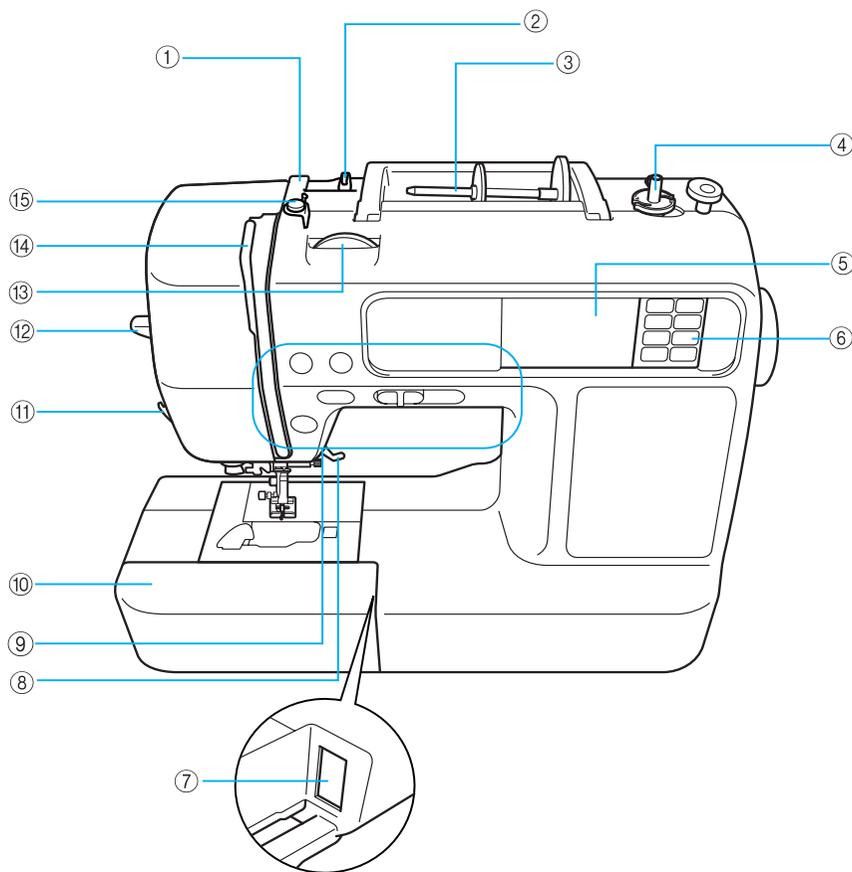
※ 外国で販売されている刺しゅうカードは使用できません。



各部の名前とはたらき

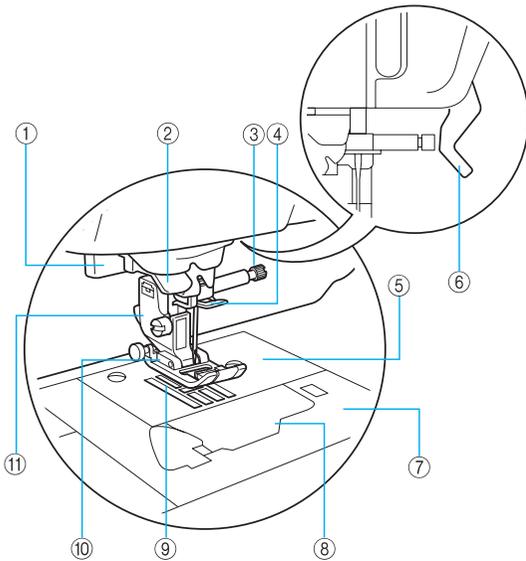
ここでは、ミシンの各部の名前とはたらきを説明します。ミシンを使用する前に、よく読んで名前を覚えておきましょう。

前面



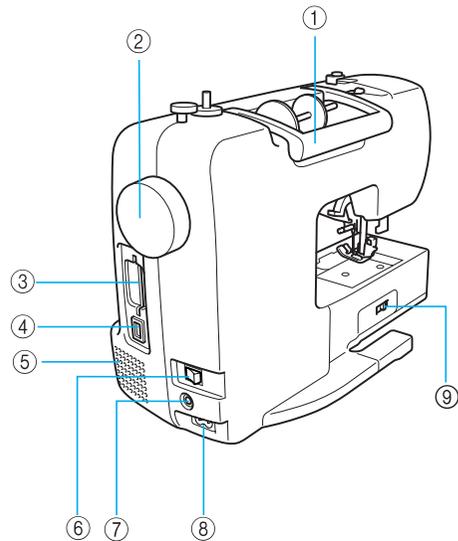
- ① **糸案内カバー** (→ P.29)
下糸をボビンに巻くときや、上糸を通すときに糸をかけます。
- ② **上糸案内** (→ P.29)
下糸をボビンに巻くときや、上糸を通すときに糸をかけます。
- ③ **糸たて棒** (→ P.28)
糸こまを差し込みます。
- ④ **下糸巻き装置** (→ P.28)
下糸をボビンに巻くときに使用します。
- ⑤ **液晶画面** (→ P.24)
選択した模様の設定値やメッセージが表示されます。
- ⑥ **操作パネル** (→ P.19)
模様を選択したり、ミシンの使い方を確認したりします。
- ⑦ **刺しゅう機差し込み口** (→ P.138)
刺しゅう機のコネクタを差し込みます。
- ⑧ **押えレバー** (→ P.55)
押えを上げ下げします。
- ⑨ **操作スイッチとスピードコントロールレバー** (→ P.18)
ミシンをスタートさせるときや針を上げ下げするときなど、ミシンのさまざまな操作に使用します。
- ⑩ **補助テーブル** (→ P.47)
そで口などの筒ものをぬうときには取り外します。
- ⑪ **糸切り** (→ P.60)
糸を引っかけて切ります。
- ⑫ **糸通しレバー** (→ P.39)
針穴に糸を通すときに使用します。
- ⑬ **糸調子ダイヤル** (→ P.62)
糸調子を調節します。
- ⑭ **てんびん** (→ P.38)
- ⑮ **下糸巻き案内** (→ P.30)
下糸を巻くときに糸をかけます。

針・押え部分



- ① ボタン穴かがりレバー
ボタン穴かがりやかんどめをするときに使用します。
- ② 糸案内皿
針穴に糸を通すときに糸をかけます。
- ③ 針のとめネジ
針を固定します。
- ④ 針棒糸かけ
上糸をかけます。
- ⑤ 針板
まっすぐにぬうための目盛りが付いています。
- ⑥ 押えレバー
押えを上げ下げします。
- ⑦ 針板カバー
かまの掃除をするときに取り外します。
- ⑧ 針板ふた
下糸をセットするときに開けます。
- ⑨ 送り歯
ぬう方向に布地を送ります。
- ⑩ 押え
布地を押さえます。付属の押えの中からぬい方に合った押えを使用します。
- ⑪ 押えホルダー
押えを取り付けます。

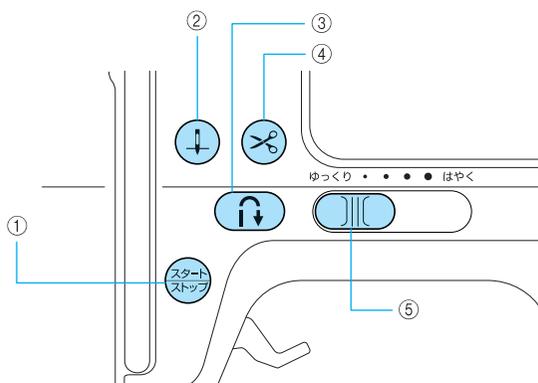
右側面・背面



- ① ハンドル
ミシンの持ち運びに使用します。
- ② プーリー
ぬい目を 1 針ずつ送ったり、針を上げ下げするときに手前に回します。
- ③ 刺しゅうカード差し込み口
別売の刺しゅうカードを差し込みます。
- ④ USB ポートコネクタ (USB フラッシュメモリー (USB フラッシュドライブ) 専用)
USB フラッシュメモリー (USB フラッシュドライブ) に保存された刺しゅう模様データをミシンに取り込むとき、USB フラッシュメモリーをここに差し込みます。
- ⑤ 換気口
モーターの換気用の穴です。ミシンをご使用になるときは、ここをふさがないようにしてください。
- ⑥ 電源スイッチ
電源を入れるときと切るときに押します。
- ⑦ フットコントローラージャック
フットコントローラーのプラグを差し込みます。
※フットコントローラーは別売品です。
- ⑧ 電源ジャック
電源コードを差し込みます。
- ⑨ ドロップレバー
送り歯を下げるときに使用します。

操作スイッチ

操作スイッチで、ミシンの基本的な操作が簡単に行えます。



① スタート/ストップスイッチ (スタート/ストップ)

ミシンをスタートさせるときとストップさせるときに押します。ぬい始めとスイッチを押している間はゆっくりとぬいます。購入時は、針が下がった（布地に刺さった）状態でストップするように設定されています。スイッチはミシンの状態によって色が変わります。

緑:	スタートできる状態のとき／縫製中
赤:	スタートできない状態のとき
オレンジ:	下糸を巻いているとき／下糸巻き軸が右側に入っているとき



お知らせ

- 別売のフットコントローラーをミシン本体に接続しているときは、スタート/ストップスイッチは使用できません。詳細は、「ミシンをスタートさせる」(→P.56) で説明します。

② 針上下スイッチ (針上下)

針を上げ下げするときに押します。針に糸を通す前に、必ず針を上げておきます。また、ぬい方向を変えるときや細かいところをぬうときに使用します。繰り返し押すと、1針ずつぬうことができます。

③ 返しぬいスイッチ (返しぬい)

ぬい始めやぬい終わりの、返しぬいまたは止めぬいをするときに押します。返しぬいの場合、スイッチを押している間、逆方向にぬいます。止めぬいの場合、スイッチを押したままにすると、同じ場所で3～5針重ねてぬって止まります。詳細は、「返しぬい/止めぬいをする」(→P.58) で説明します。

④ 糸切りスイッチ (糸切り)

ぬい終わりに、上糸と下糸を自動的に切るときに押します。詳細は、「糸を切る」(→P.60) で説明します。

⑤ スピードコントロールレバー (スピードコントロール)

ぬう速度を調節するときに使用します。左に動かすと遅く、右に動かすと速くなります。

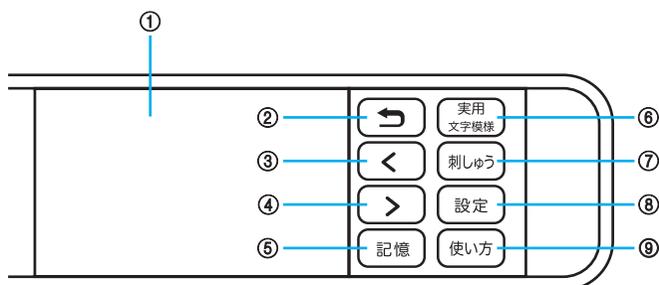
注意



- 糸を切った後に糸切りスイッチを押さないでください。針が折れたり糸がかからんだりするおそれがあります。また、故障の原因になります。

操作パネル

前面の操作パネルで、模様を選択したり設定したりすることができます。



① 液晶画面

選択した模様やメッセージが表示されます。
液晶画面に表示されるキーをタッチペンまたは指で押して操作します。
詳細は、「液晶画面の操作」(→P.24)で説明します。

② 戻るキー

液晶画面の表示を1つ前に戻すときに押します。

③ 前ページキー

液晶画面に表示されていない項目があるときに、前の画面を表示します。

④ 次ページキー

液晶画面に表示されていない項目があるときに、次の画面を表示します。

⑤ 記憶キー

組み合わせ模様や文字模様をミシンに記憶させるときに押します。

⑥ 実用/文字模様キー

直線ぬい、ジグザグ、ボタン穴かがり、まつりぬい、飾りぬい、サテンステッチなどの実用ぬいをするときや、文字模様をぬうときに押します。

⑦ 刺しゅうキー

刺しゅうをするときに押します。

⑧ 設定キー

針停止位置やブザー音などの設定を変更するときに押します。

⑨ 使い方キー

ミシンの使い方を確認するときに押します。上糸セット・下糸巻き・下糸セット・針交換・刺しゅう機取り付け/取り外し・刺しゅう枠取り付け/取り外し・刺しゅう押え取り付け・押え交換についての簡単な説明が表示されます。

1

ぬう前の準備

ここでは、ぬう前に必要な準備を説明します。

電源を入れましょう	22
液晶画面の操作.....	24
糸をセットしましょう.....	28
針を交換する.....	41
押えを交換する	44
筒ものをぬう.....	47

電源を入れましょう

ミシンの電源を入れます。

電源に関する注意

電源について気をつけるべきことを説明します。

！ 警告



● 一般家庭用電源 AC100V の電源以外では、絶対に使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。



● 次のようなときは電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。火災・感電・故障の原因となります。



- ・ ミシンのそばを離れるとき
- ・ ミシンを使用したあと
- ・ 使用中に停電したとき
- ・ 接触不良、断線などで正常に動作しないとき
- ・ 雷が鳴りはじめたとき



● 電源プラグは根元まで確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になります。傷んだプラグ・ゆるんだコンセントは使用しないでください。

！ 注意



● 延長コードや分岐コンセントを使用した、たこ足配線はしないでください。火災・感電の原因となります。



● 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。



● 電源プラグを抜くときはまず電源スイッチを切り、必ずプラグの部分を持って抜いてください。電源コードを引っ張って抜くとコードが傷つき、火災・感電の原因となります。

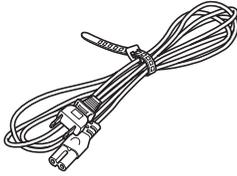


● 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。また、重い物を載せたり、加熱したりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。電源コードまたは電源プラグが破損したときはミシンの使用をやめて、お近くの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」フリーダイヤル 0120-340-233 にご連絡ください。

● 長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となります。

電源を入れる

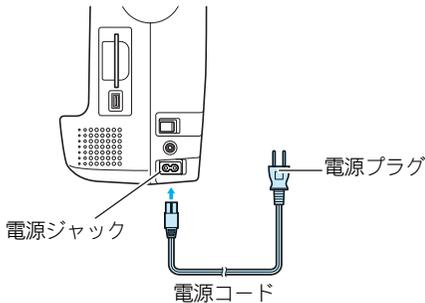
付属の電源コードを用意します。



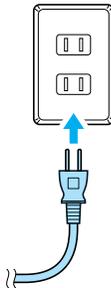
- 1 ミシン本体右側面の電源スイッチの左側（○側）が押されて電源スイッチが「切」になっていることを確認します。



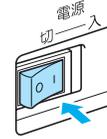
- 2 本体右側面の電源ジャックに電源コードを差し込みます。



- 3 電源プラグを家庭用電源コンセント（AC100V）に差し込みます。



- 4 電源スイッチの右側（I側）を押して「入」にします。



- ▶ 電源が入り、ランプと液晶画面、（スタート/ストップスイッチ）が点灯します。

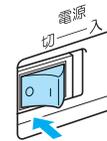
お知らせ

- 電源が入ると針や送り歯が動く音がしますが、故障ではありません。

電源を切る

ミシンを使い終わったら、電源を切ります。また、ミシンを移動させるときは、必ず電源を切ってください。

- 1 ミシンが動いていないことを確認します。
- 2 ミシン本体右側面の電源スイッチの左側（○側）を押して「切」にします。



- ▶ 電源が切れ、ランプと液晶画面、（スタート/ストップスイッチ）が消灯します。

- 3 電源プラグをコンセントから抜きます。電源プラグを持って抜いてください。

- 4 電源ジャックから電源コードを抜きます。

お願い

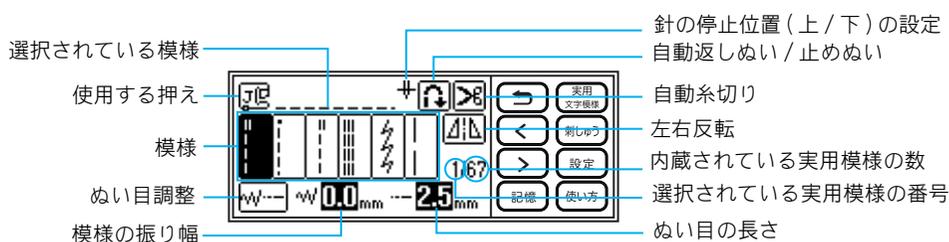
- 使用中に停電が発生したときは、電源を切ってから電源プラグを抜いてください。次に電源を入れるときは、手順に従って正しく操作してください。

液晶画面の操作

ミシン本体前面の液晶画面には、選択した模様の設定値やメッセージが表示されます。液晶画面右横の操作キーを押して表示を切り替えて、タッチペンまたは直接指で液晶画面に触れて操作します。操作キーについては、「操作パネル」(→P.19)を参照してください。

液晶画面の見方

電源を入れると液晶画面が点灯します。次に液晶画面に表示されるメッセージに従ってタッチペンまたは指で液晶画面に触れると、次の実用模様の選択画面が表示されます。



お知らせ

- 模様グループの選択画面を表示させるときは、を押します。詳細は、「模様の種類」(→P.51)で説明します。
- 刺しゅう機が取り付けられているときは、他の画面が表示されます。詳細は、「刺しゅう模様の種類」(→P.146)で説明します。
- 液晶画面に表示されるメッセージについては、「液晶画面のメッセージ表示」(→P.189)を参照してください。
- 機種によっては、電源を入れるとアニメーションが表示されます。アニメーションが表示されているときは、指で液晶画面に触れると上記の画面が表示されます。

ミシンの設定を確認・変更する

設定画面で、ミシンの設定を確認、変更することができます。各設定値とアイコンの説明は、下の表を参照してください。操作のしかたは次ページで説明します。

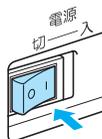
項目	表示	内容	設定
針位置		ミシンがストップしたときの針の停止位置を切り替えます。	下 上
振幅コントロール		スピードコントロールレバーでジグザグの振り幅を調節できるように設定します。 (→ P.107)	
模様調整 (たて)		模様がくずれたときに、模様を上下方向に調整します。(→ P.125)	- 9 ~ + 9
文字間調整		実用ぬいで文字模様をぬうとき、文字と文字の間隔を調整します。 (→ P.124)	0 ~ 10
糸色表示		刺しゅうの色替の糸色表示を切り替えます。 (→ P.147)	ブラザー刺しゅう糸番号/カントリー糸番号/ぬい時間/針数/糸色名
ブザー		操作音を鳴らすか鳴らさないかを設定します。 (→ P.193)	
オープニング画面		電源を入れたときのオープニング画面を表示するかしないかを設定します。 ● オープニング画面がない機種もあります。	
基線切り替え		電源を入れたときに自動的に選択される直線模様(1) (左基線) または 3) (中基線) を切り替えます。	左基線 中基線
言語		液晶画面に表示される言語を設定します。	日本語 / ENGLISH / PORTUGUES /
画面調整		液晶画面の明るさを調整します。	明 暗
プロダクト NO.	-	ミシンのプロダクトナンバーを示します。	-
バージョン	-	ミシンにインストールされているプログラムのバージョンを示します。	-



お知らせ

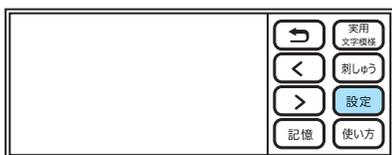
- 上記の反転表示は購入時の初期設定です。

1 電源を入れます。



▶ 液晶画面が点灯します。

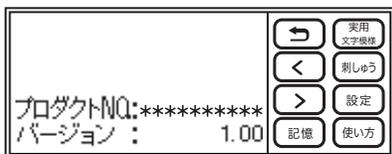
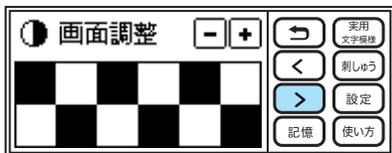
2 操作パネルの [設定] (設定キー) を押します。



▶ 設定画面が表示されます。

3 設定を確認・変更します。

[<] (前ページキー) [>] (次ページキー) で画面を切り替えます。



[例] 針位置を上に変更する場合



4 終わったら、[戻る] (戻るキー) を押します。



▶ もとの画面に戻ります。

お知らせ

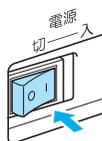
- 「プロダクトNO.」は、マシン固有の番号です。
- 「バージョン」はマシンにインストールされているプログラムのバージョンです。アップグレードについては、お近くの販売店または「お客様相談室 (マシン 119 番) (フリーダイヤル 0120-340-233) にお問い合わせいただくか、ブラザーソリューションセンター (<http://solutions.brother.co.jp/>) で今後掲載される情報を参照してください。
- 変更した設定は、電源を切ってもマシンに記憶されています。

ミシンの使い方を確認する

次の項目については、簡単な説明を液晶画面に表示させて確認することができます。

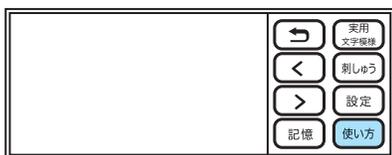
上糸セット・下糸巻き・下糸セット・針交換・刺しゅう機取り付け／取り外し・刺しゅう枠取り付け／取り外し・刺しゅう押え取り付け・押え交換

1 電源を入れます。



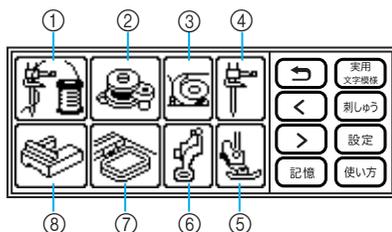
▶ 液晶画面が点灯します。

2 操作パネルの「使い方」(使い方キー)を押します。



▶ 項目の選択画面が表示されます。

3 説明を表示させる項目のキーを押します。



- ① 上糸セット
- ② 下糸巻き
- ③ 下糸セット
- ④ 針交換
- ⑤ 押え交換
- ⑥ 刺しゅう押え取り付け
- ⑦ 刺しゅう枠取り付け／取り外し
- ⑧ 刺しゅう機取り付け／取り外し

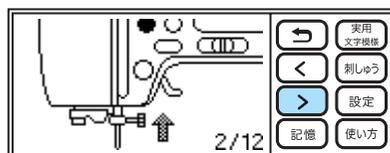
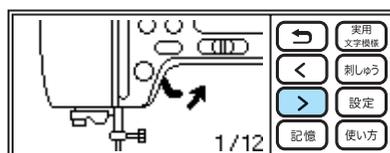
▶ 最初の説明画面が表示されます。

4 > (次ページキー) を押して、次の画面に切り替えます。

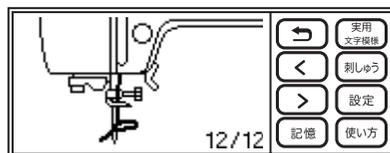
< (前ページキー) を押すと、前の画面に戻ります。

↶ (戻るキー) を押すと、項目の選択画面に戻ります。

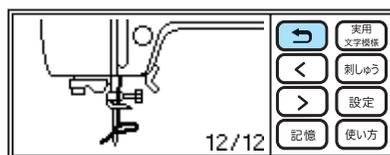
[例] 上糸セットを押した場合



⋮



5 終わったら、↶ (戻るキー) を押します。



▶ もとの画面に戻ります。

お知らせ

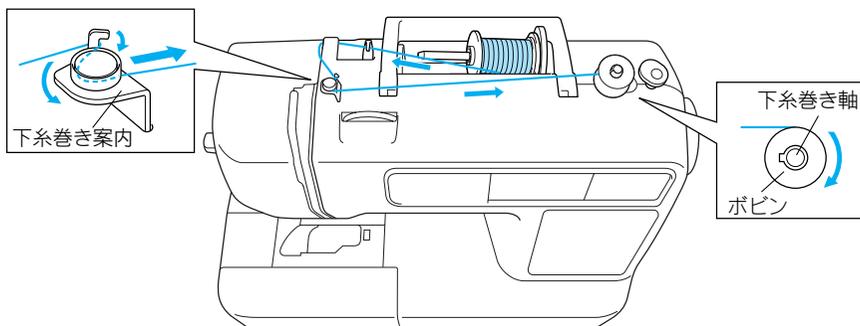
- 各項目についての詳細は、本取扱説明書で説明します。

糸をセットしましょう

下糸用の糸を巻いたポビンをセットしたあと、上糸用の糸を通します。

下糸を巻く

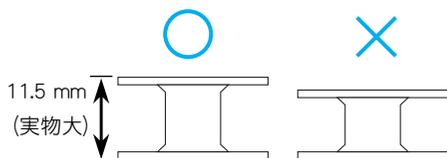
下糸用の糸をポビンに巻きます。糸こまとポビンを用意します。



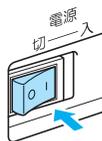
注意



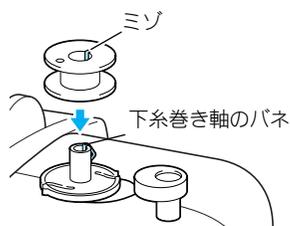
- 付属のポビンは本製品純正のもので、必ず付属品または純正ポビンを使用してください。他のポビンを使用すると、けがや故障の原因となります。



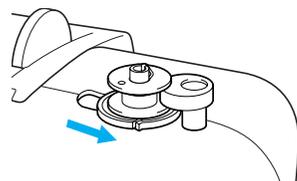
1 電源を入れます。



2 ポビンのミズと下糸巻き軸のバネの位置を合わせて、ポビンを下糸巻き軸に差し込みます。

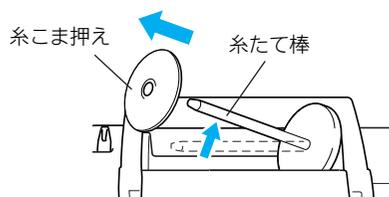


3 ポビンを右側へカチッと音がするまで押します。



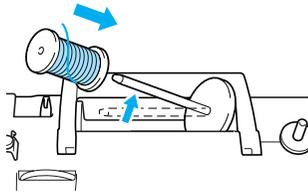
- ▶ (スタート/ストップスイッチ) がオレンジに点灯します。

4 糸たて棒を起し、糸たて棒から糸こま押えを抜きます。



5 下糸用の糸こまを糸たて棒にいっぱいまで差し込みます。

糸こまを横にして、下側から手前に糸が出る向きで差し込みます。

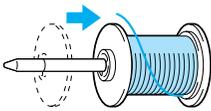


お知らせ

- 刺しゅうをするときは、ブラザー刺しゅう専用下糸を使用してください。

6 糸こま押えを糸たて棒に差し込み、糸たて棒をもとの位置に戻します。

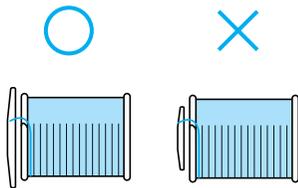
糸こま押えの丸みをおびている面を外側にし、糸こまが糸たて棒の一番奥まで入るようにしっかりと差し込みます。



注意

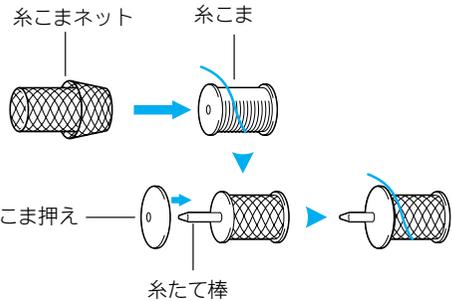


- 糸こまや糸こま押えが正しくセットされていないと、糸たて棒に糸がからまり、糸切れや故障の原因となります。
- 糸こま押えは糸こまの大きさに合わせて使用してください。糸こまの直径より小さい糸こま押えを使用すると、糸こまの切り欠きなどに糸が引っかかり、故障の原因となります。

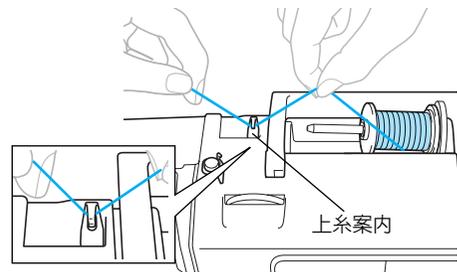


お願い

- ナイロン透明糸やメタリック糸などの張りが強い糸を使用する場合は、付属の糸こまネットを糸こまに付けてから糸たて棒にセットしてください。ネットが長い場合は、糸こまの大きさに合わせて折って使用します。糸こまネットを使用すると、上糸の調子が強くなる場合があります。ぬい始める前に、「糸調子を調節する」(→P.62)を参照してください。

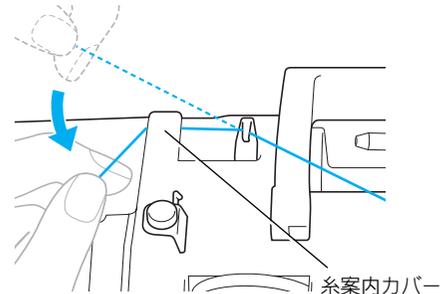


7 糸こまから糸を引き出し、上糸案内のツメ部分に糸をかけます。

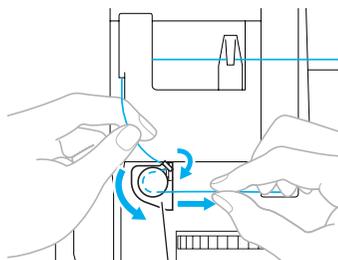


8 糸を糸案内カバーの奥から手前へかけます。

引き出した糸がたるまないように右手で糸を持ち、左手で糸案内カバーにかけます。

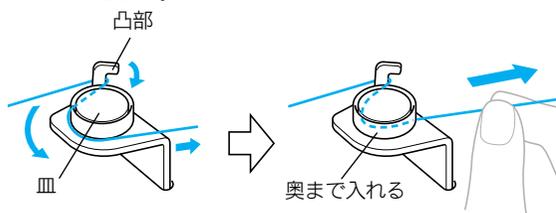


- 9 糸を引いて下糸巻き案内の凸部に糸を引っ掛け、皿の間に左回りに糸をかけてしっかり奥まで入れます。



下糸巻き案内

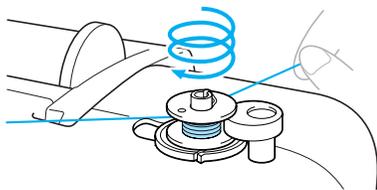
糸が皿の下に確実に通っていることを確認してください。



- 10 糸を時計まわりに5～6回ボビンに巻きつけます。

引き出した糸がたるまないように左手で持ち、右手で糸端をボビンに巻きつけます。

5～6回巻きつける

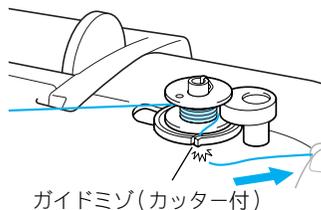


注意



- 糸は、必ずピンと張った状態で時計回りに巻いてください。逆方向へ巻くと、下糸巻き軸に糸が巻きつくことがあります。

- 11 糸の端をボビン受け座のガイドミゾに引っかけて右へ引き、カッターで糸を切ります。



ガイドミゾ(カッター付)



お知らせ

- カッターで糸を切ると糸の端がガイドミゾに固定されるため、下糸をきれいに巻くことができます。

注意



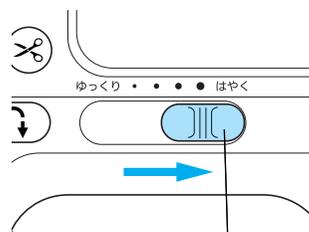
- 必ずガイドミゾのカッターで糸を切ってください。正しく糸を切らずに下糸を巻くと、糸量が少なくなったときにボビンに糸がからまり、針が折れたり曲がったりするおそれがあります。



お願い

- 下糸巻きを開始する前に、下糸が正しくセットされていることを確認してください。正しくセットされていないと、糸がからまり、きれいに巻くことができません。

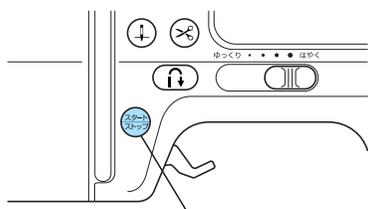
- 12 スピードコントロールレバーを右側(はやく)へ動かします。



スピードコントロールレバー

13 (スタート/ストップスイッチ) を 1 回押します。

フットコントローラーが接続されている場合は、フットコントローラーを踏みます。



スタート/ストップスイッチ

- ▶ ボビンが回転して下糸巻きがスタートし、液晶画面に「下糸巻き中」と表示されます。



お願い

- 下糸巻き中は、ミシンのそばを離れないでください。下糸がボビンに正しく巻かれていることを確認し、正しく巻かれていないときは、ただちに (スタート/ストップスイッチ) またはフットコントローラーを操作して、下糸巻きをストップしてください。



お知らせ

- (スタート/ストップスイッチ) またはフットコントローラーを操作しても下糸巻きがスタートしないときは、液晶画面にアニメーションが表示されています。指で液晶画面に触れてから、もう 1 回 (スタート/ストップスイッチ) を押してください。

14 ボビンの回転が止まるか、回転のスピードがゆっくりになったら、(スタート/ストップスイッチ) を 1 回押します。

フットコントローラーが接続されている場合は、フットコントローラーから足を離します。

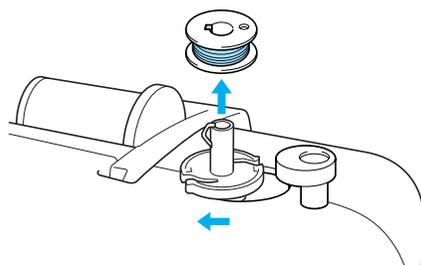
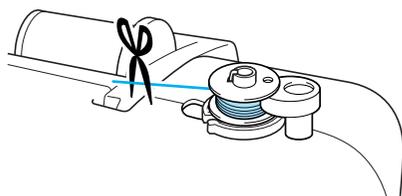
- ▶ 下糸巻きがストップします。

注意



- ボビンの回転が止まるか、回転のスピードがゆっくりになったら、必ず下糸巻きをストップさせてください。無理に続けると故障の原因となります。

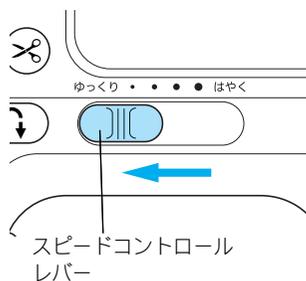
15 はさみで糸を切り、軸を左へ戻し、ボビンを軸から外します。



お知らせ

- 下糸巻き軸が右側に押されたままだと、針が動きません(縫製できません)。

16 スピードコントロールレバーを左側(ゆっくり)へ戻します。



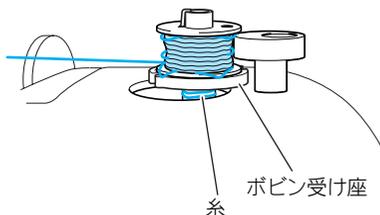
お知らせ

- 下糸を巻いたあとにミシンをスタートさせたりプーリーを回したりすると、ガチャッという音がすることがありますが、故障ではありません。

■ ボビン受け座の下に糸がからまってしまったら

糸が下糸巻き案内の皿の下に確実に通っていない状態で下糸を巻くと、ボビン受け座の下に糸が巻かれてしまうことがあります。(→P.30)

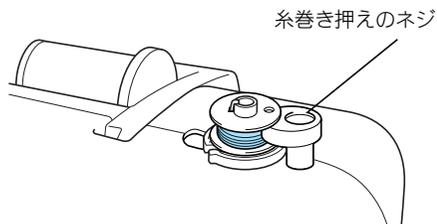
そうなった場合は、以下の手順に従ってボビン受け座の下に巻かれた糸をほどいてください。



! 注意

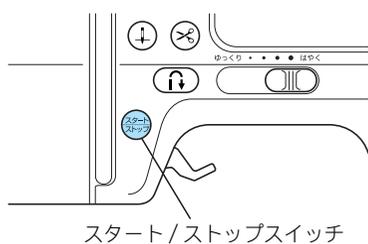


- ボビン受け座の下に糸が巻かれても、ボビン受け座は外さないでください。受け座のカッターでけがをするおそれがあります。
- 糸巻き押えのネジは外さないでください。ミシン故障の原因となります。ネジを外しても、からまった糸をほどくことはできません。

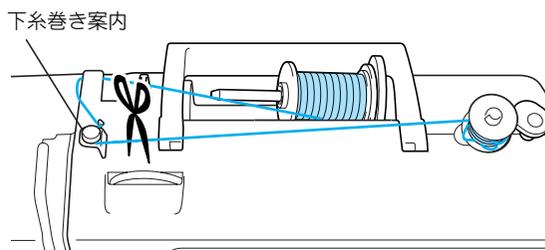


- 1 ボビン受け座の下に下糸がからまり始めたら、 (スタート/ストップスイッチ)を押して、下糸巻きをストップします。

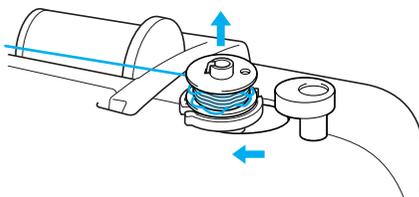
フットコントローラーが接続されている場合は、フットコントローラーから足を離します。



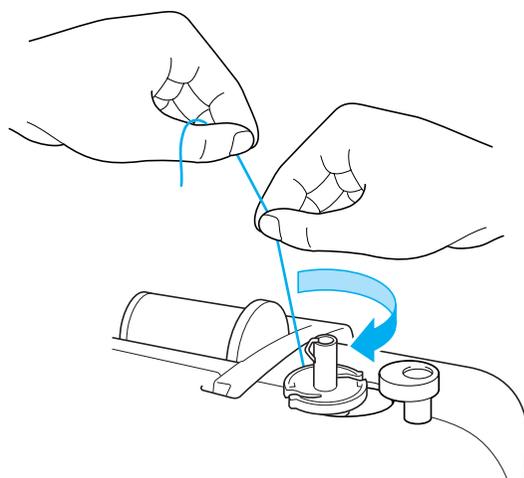
- 2 下糸巻き案内側で、はさみで糸を切ります。



- 3 下糸巻き軸を左へ戻し、ボビンを軸から外します。



- 4 図のように左手で糸端を持ち、右手でボビン近くの糸をゆっくりと時計回りに回して、からまった糸をほどきます。



- 5 下糸巻きをやり直します。

★ お願い

- 糸が下糸巻き案内の皿の下に確実に通っていることを確認してください。(→P.30)

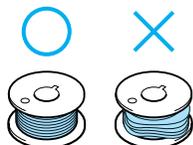
下糸をセットする

下糸を巻いたポビンをかまにセットします。

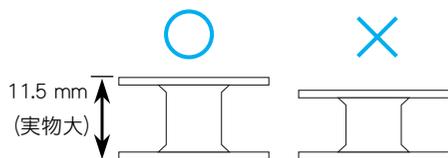
注意



- 必ず正しく巻かれた下糸を使用してください。巻き方が悪い下糸を使用すると、針折れや糸調子不良の原因となります。



- 付属のポビンは本製品純正のもので、必ず付属品または純正ポビンを使用してください。

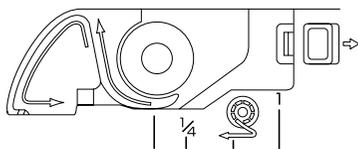


下糸をセットするときや交換するときは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。万一、スタート/ストップスイッチまたは、他のスイッチが押されると、ミシンが作動してけがの原因となります。

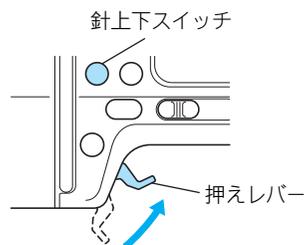


お知らせ

- ポビンをセットするときの糸の通し方は、針板カバーにも表示されています。



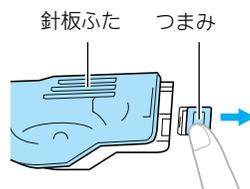
- ① (針上下スイッチ)を1回または2回押して針を上へ上げ、押えレバーを上げます。



- ② 電源を切ります。



- ③ 針板ふたの横のつまみを右側へスライドさせます。



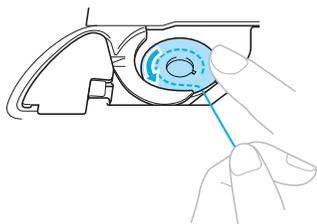
▶ 針板ふたが開きます。

- ④ 針板ふたを取り外します。

- ⑤ 糸が左巻きになるように右手でポビンを持ち、左手で糸端を持ちます。



6 右手でポビンをかまに入れます。

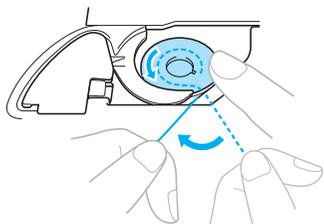


注意

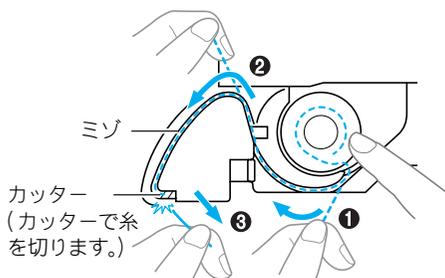


- ポビンをセットするときは、必ず指で押さえてください。ポビンが正しくセットされていないと、糸調子不良の原因となります。
- ポビンは、必ず正しい方向から糸が出るようにセットしてください。万一、逆の方向にセットすると、針折れや糸調子不良の原因となります。

7 右手でポビンを軽く押さえ、左手で糸を引きます。

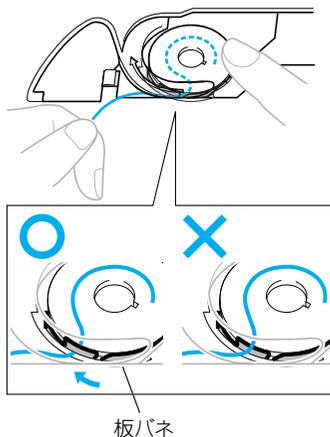


8 図のように、右手でポビンを軽く押さえながら、ミゾにそって糸を通します。このとき、ポビンは左回りに軽く回ることを確認してください。そのあと、手前に引きカッターで糸を切ります。



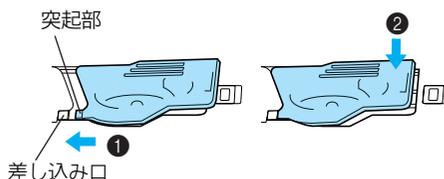
お願い

- 内かまの板バネの間に糸が入っていないと、糸調子不良の原因となります。詳細は、「糸調子を調節する」(→ P.62) を参照してください。



9 針板ふたをもとに戻します。

針板ふたの突起部を針板カバーの差し込み口に差し込んでから ①、針板ふたの右側を上から押して取り付けます ②。



- ▶ 下糸のセットが完了します。下糸を引き出さず、このままぬい始めることができます。

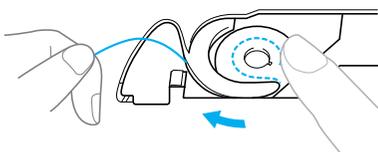
お知らせ

- ギャザーやフリーモーションキルトなどをするとき、下糸を引き出してからぬいます。詳細は、「下糸を引き出してからぬう」(→ P.35) を参照してください。

■ 下糸を引き出してからぬい

ギャザーやフリーモーションキルトなどをするときは、あらかじめ下糸を引き出しておきます。

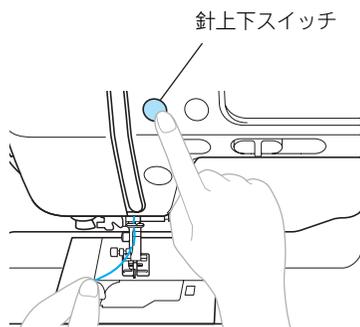
- ① 「上糸を通す」(→P.36)を参照して、上糸を通します。
- ② 「下糸をセットする」(→P.33)の③～⑥に従って、ボピンをかまに入れます。
- ③ 引き出した糸をミゾに沿って途中まで通します。



お願い

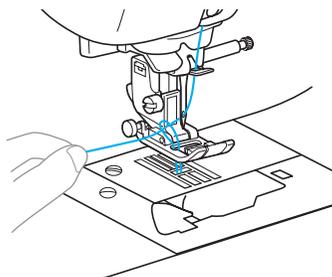
- カッターで糸を切らないでください。
- 針板ふたは取り外したままにしてください。

- ④ 左手で上糸の端を軽く持ち、⊕ (針上下スイッチ) を1回または2回押して、針を上げます。

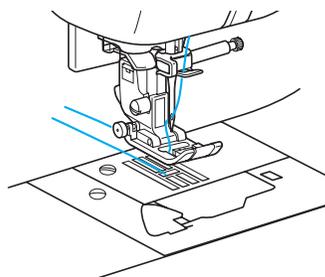


- ▶ 下糸が針板から輪になって引き出されます。

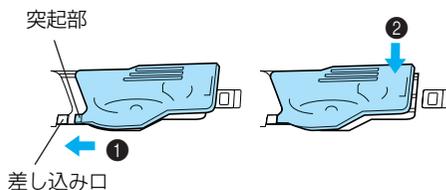
- ⑤ 上糸をゆっくりと上へ引き、下糸の糸端を引き出します。



- ⑥ 上糸を押えの間に通し、下糸とそろえて押えの下から後ろ側へ10cmほど引き出します。

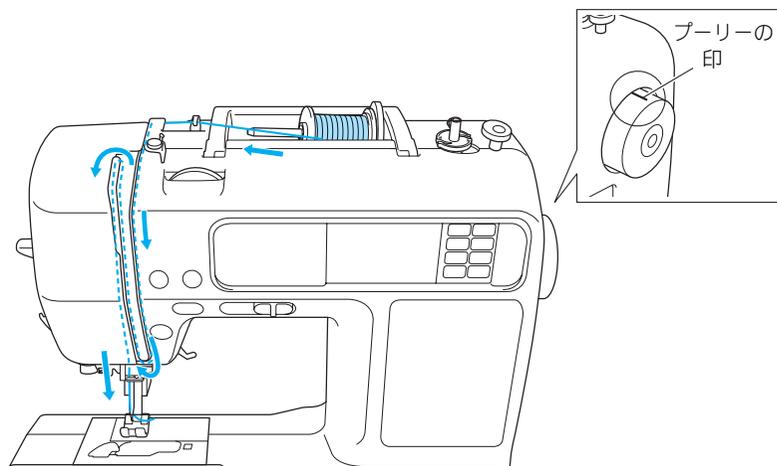


- ⑦ 針板ふたをもとに戻します。
針板ふたの突起部を針板カバーの差し込み口に差し込んでから ①、針板ふたの右側を上から押して取り付けます ②。



上糸を通す

上糸用の糸こまをセットし、針に糸を通します。



注意

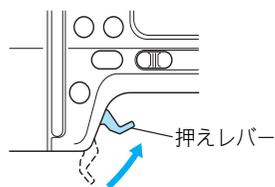


- 上糸は、手順に従って正しく通してください。上糸を正しく通していない場合、糸がからんで針が折れたり曲がったりするおそれがあります。
- 糸通し装置は、11～16番の家庭用ミシン針(HA×1)を使うときに使用できます。また、メタリック糸やナイロン透明糸などの特殊な糸を使用する場合、糸通し装置は使用できません。
- 針と糸は適切な組み合わせで使用してください。針と糸の適切な組み合わせは「布地と糸の種類による針の使い分け」(→P.41)を参照してください。
- 糸通し装置が使用できない場合は、以降の「手で針に糸を通すとき」(→P.40)を参照してください。
- 20番以下の太い糸は使用しないでください。

1 電源を入れます。



2 押えレバーを上げます。



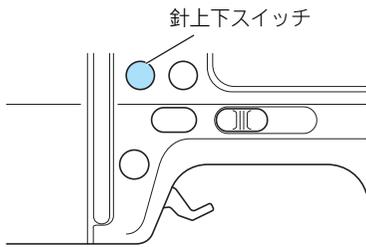
▶ 押えが上がります。



お知らせ

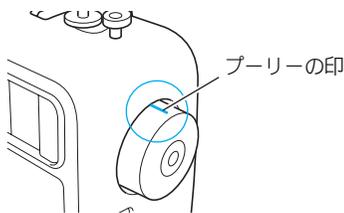
- 押えが下がった状態で上糸を通すことはできません。

- 3 ④ (針上下スイッチ)を1回または2回押し、針を上げます。



お願い

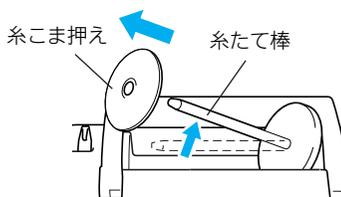
- 針が確実に上がっているときは、プーリーの印が下図のように上になります。必ず、プーリーの印が上にきていることを確認してください。印がこの位置にきていないときは、針上下スイッチで針を上へ上げてから、以降の操作をしてください。



- 4 電源を切ります。

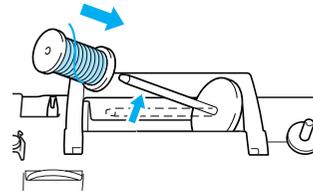


- 5 糸たて棒を起し、糸たて棒から糸こま押えを抜きます。



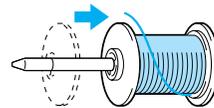
- 6 上糸用の糸こまを糸たて棒に差し込みます。

糸こまを横にして、下側から手前に糸が出る向きで差し込みます。



- 7 糸こま押えを糸たて棒に差し込み、糸たて棒をもとの位置に戻します。

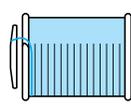
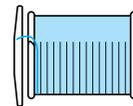
糸こま押えの丸みをおびている面を外側にし、糸こまが糸たて棒の一番奥まで入るようにしっかりと差し込みます。



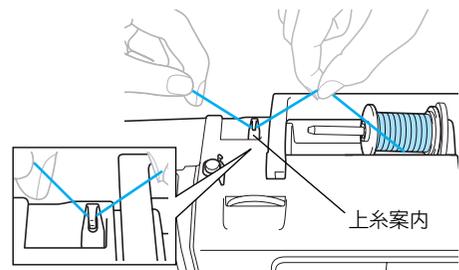
注意



- 糸こまや糸こま押えが正しくセットされていないと、糸たて棒に糸がからまり、糸切れや故障の原因となります。
- 糸こま押えは糸こまの大きさに合わせて使用してください。糸こまの直径より小さい糸こま押えを使用すると、糸こまの切り欠きなどに糸が引っかかり、故障の原因となります。

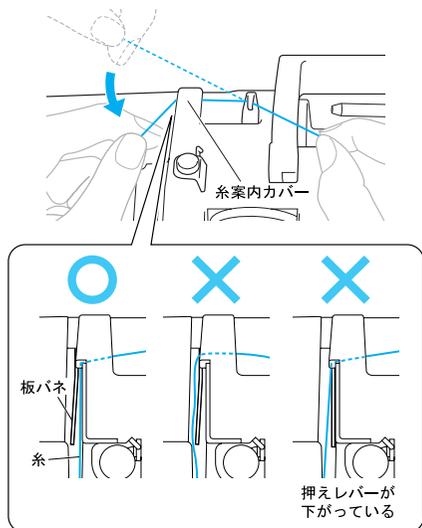


- 8 糸こまから糸を引き出し、上糸案内のツメ部分に糸をかけます。



9 糸を糸案内カバーの奥から手前へかけます。

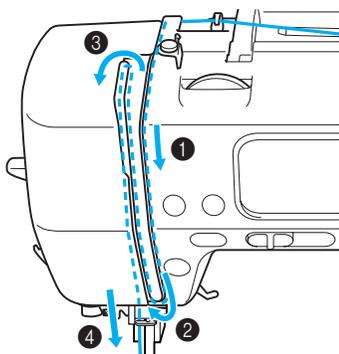
引き出した糸がたるまないように右手で糸を持ち、左手で糸案内カバーにかけます。



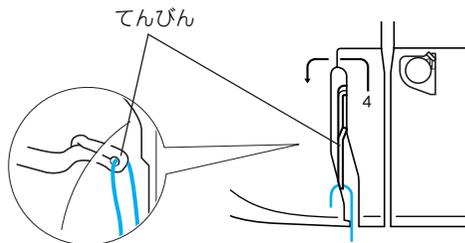
お願い

- 糸がたるまないよう、必ず右手で糸を持ち、左手で糸案内カバーに糸をかけてください。板バネに正しく糸がかからず、糸調子不良の原因となります。
- 糸案内カバーに糸をかける前に、押えレバーが上がっていることを確認してください。押えレバーを下げると板バネが閉じ、正しく糸をかけることができません。

10 矢印のように、ミゾに沿って番号順に糸を通します。



11 図のようにてんびんに糸がかかっていることを確認します。

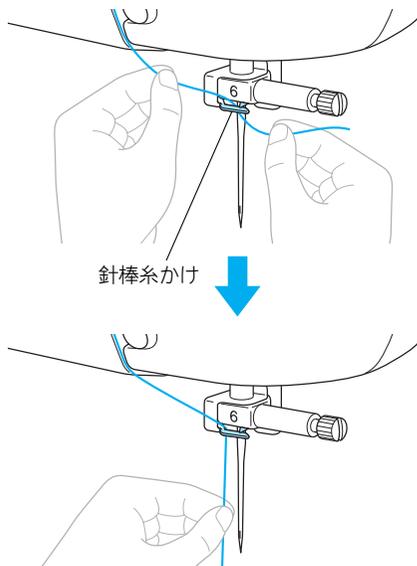


お知らせ

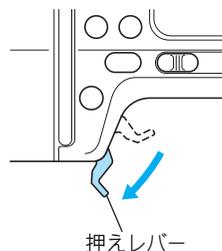
- 針が下がっているときは、てんびんに糸をかけることはできません。上糸を通す前に、⊕(針上下スイッチ)で針を上げておいてください。

12 針棒糸かけに糸をかけます。

左手で糸を押さえ、右手で糸端を持ってかけます。

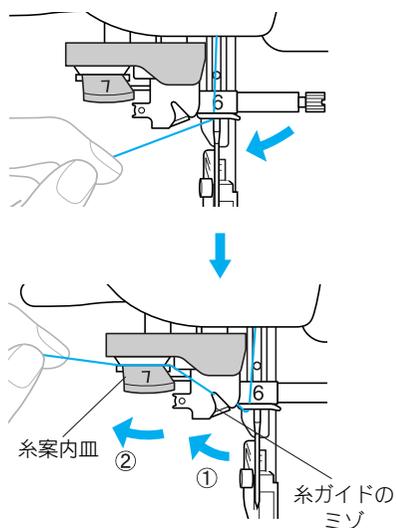


13 押えレバーを下げます。



▶ 押えが下がります。

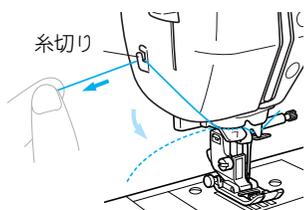
- 14 針棒糸かけにかけた糸を左へ引き、糸ガイドのミゾに糸をかけます(①)。糸案内皿(7)のすき間に手前から糸をしっかりと奥まで入れます(②)。



お願い

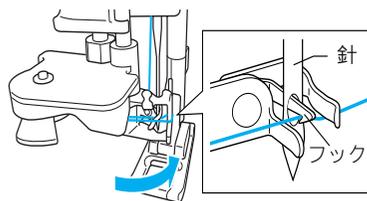
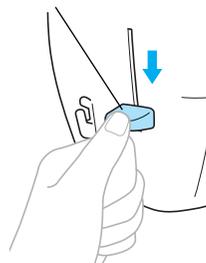
- 糸が糸ガイドのミゾに確実に通っていることを確認してください。

- 15 ミシン本体左側面の糸切りに糸を引っかけて切ります。



- 16 ミシン本体左側面の糸通しレバーをいっぱいまで下げます。

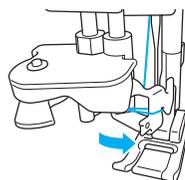
糸通しレバー



- ▶ フックが回転します。

お願い

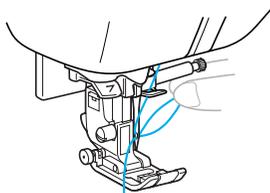
- 針が上がっていないと、糸通し装置で糸を通すことができません。糸を通す前に、針を④(針上下スイッチ)で上げておいてください。詳細は、「上糸を通す」③(→P.37)を参照してください。
- 糸通しレバーをいっぱいまで下げないと、フックが完全に回転しないため、糸が針穴に通りません。糸通しレバーを下げたとき、フックが図の位置までしか回転せず、糸が通らなかった場合は押えレバーを上げ、⑨からやり直してください。このとき、針が上がっていることを確認してください。



17 糸通しレバーをゆっくりと上へ戻します。



18 押えレバーを上げ、針穴に通った糸の、輪になった部分を持ってゆっくりと後ろに引き出します。



注意

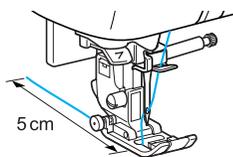


● 操作スイッチには触れないでください。 操作スイッチに手が接触すると、ミシンが動き、針が折れたり、針で指をさすおそれがあります。



● 無理に引っ張って針を曲げないように注意してください。

19 糸端を押えの間に通し、後ろ側へ5cmほど引き出します。



▶ 上糸通しが完了します。

注意



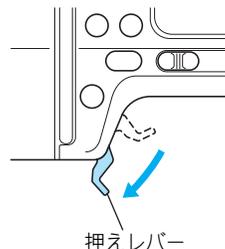
● 糸通しが正常に行われなかった場合は、手順 14 からもう一度やり直してください。

■ 手で針に糸を通すとき

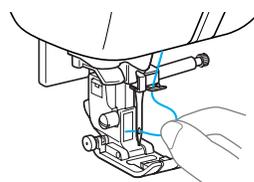
糸通し装置が使用できないメタリック糸やナイロン透明糸などの特殊な糸、別売のウィングニードルなどを使用するときは、次の手順で針に糸を通します。

① 「上糸を通す」(→ P.36)の①～⑫に従って、針棒糸かけまで上糸を通します。

② 押えレバーを下げます。



③ 手で糸を持ち、針穴の手前から後ろへ糸を通します。



注意



● 操作スイッチには触れないでください。 操作スイッチに手が接触すると、ミシンが動き、針が折れたり、針で指をさすおそれがあります。

④ 押えレバーを上げ、糸端を押えの間に通し、後ろ側へ5cmほど引き出します。

針を交換する

⚠ 注意



- 針は必ず家庭用ミシン針 (HA × 1) を使用してください。他の針を使用すると、針折れや故障の原因となります。



- 曲がった針は絶対に使用しないでください。針折れの原因となります。

布地と糸の種類による 針の使い分け

ミシン針は、布地や糸の太さによって使い分けます。次の表を参考にして、布地に合った糸と針を選択してください。

布地の特徴・種類	ミシン糸		針の種類
	種類	太さ	
普通地	ブロード	綿糸	60～90
	タフタ	合繊糸	
	フラノ ギャバシン	絹糸	50
薄地	ローン	綿糸	60～90
	ジョーゼット	合繊糸	
	ポーラ	絹糸	50
厚地	デニム	綿糸	30
		50	16
	コーデウロイ	合繊糸	50～60
	ツイード	絹糸	
のびる布地	ジャージ	ニット用糸	50～60
	トリコット		
ほつれやすい布地	綿糸	50～90	HG 針 ニット用 #11～14
	合繊糸		
	絹糸	50	
ステッチ糸の場合	合繊糸・ 絹糸	30	16
		50～60	11～14



お願い

- 20 番以下の太い糸は使用しないでください。故障の原因となります。



お知らせ

- 糸は数字が小さいほど太く、針は数字が大きいほど太くなります。

■ HG 針ニット用

伸縮性のある布地や、目がとびやすい布地に使用します。

ブラザー純正「HG 針ニット用 #11 (金色)」を推奨します。

■ ナイロン透明糸

布地や糸にかかわらず 14～16 番の針を使用します。

■ 刺しゅう用の針

家庭用ミシン針 (HA × 1) の 11 番を使用します。デニム地などの厚地に刺しゅうする場合は、家庭用ミシン針 (HA × 1) の 14 番を使用します。



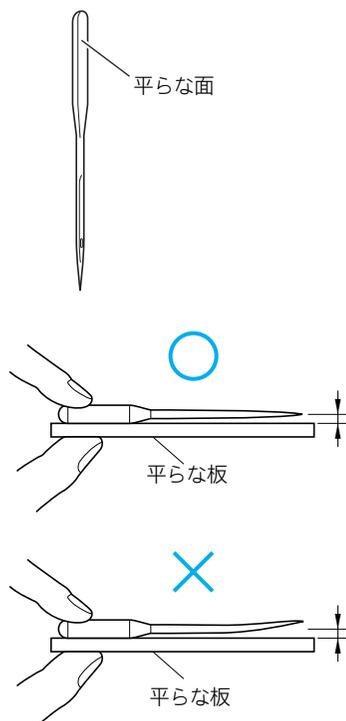
注意



- 布地・糸・針の組み合わせが適切でない場合、ぬい目がふぞろいになり、ぬいじわや目とびの原因となります。特に、厚い布地 (デニム等) を細い針 (9～11 番) でぬうと、針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

正しい針の見分け方

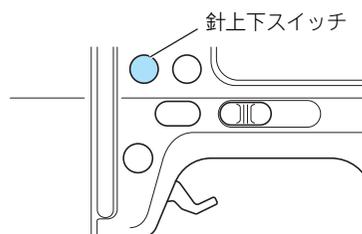
曲がった針は、使用中に折れるおそれがあり大変危険です。使用する前に、針の平らな面を平らな板などに合わせて確認し、すき間が平行にならない針は使用しないでください。



針を交換する

「正しい針の見分け方」で確認した正しい針と、付属のドライバーを用意します。

- 1 ① (針上下スイッチ)を1回または2回押して、針を上げます。



- 2 電源を切ります。



注意



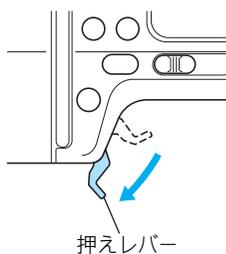
- **針の交換は、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。**万一、スタート/ストップスイッチまたは、他のスイッチが押されると、ミシンが作動してけがの原因となります。

- 3 押えの下に布または紙を置いて、針板の穴をふさぎます。

お願い

- 針を交換する前に、押えの下に布や紙を置いて、針が針板の穴から下へ落ちないようにしてください。

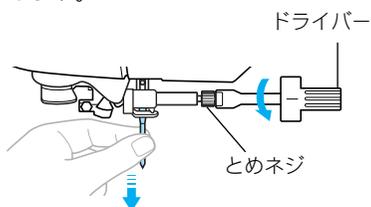
4 押えレバーを下げます。



▶ 押えが下がります。

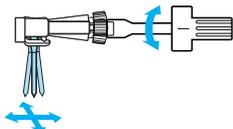
5 針のとめネジをゆるめ、針を抜きます。

左手で針を持ち、右手でドライバーを手前に回します。



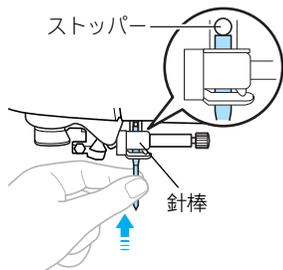
お願い

- とめネジをしめたりゆるめたりするときに、無理な力を加えないでください。故障の原因となります。



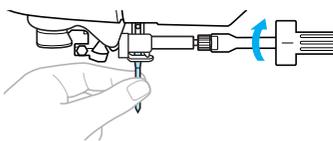
6 新しい針の平らな面が後ろ側になるように、針を針棒に差し込みます。

針が針棒のストッパーに当たるまで差し込みます。



7 針のとめネジをしめます。

左手で針を支え、右手でドライバーを奥に回します。



注意



- 針は必ずストッパーに当たるまで差し込み、付属のドライバーでとめネジを確実にしめてください。針が正しく取り付けられていないと、針折れや故障の原因となります。

押えを交換する

注意



- 模様合った押えを使用してください。他の押えを使用すると、針が押えに当たり、折れたり曲がったりするおそれがあります。
- 必ず本製品専用の押えを使用してください。他の押えを使用すると、けが・故障の原因となります。

押えを交換する

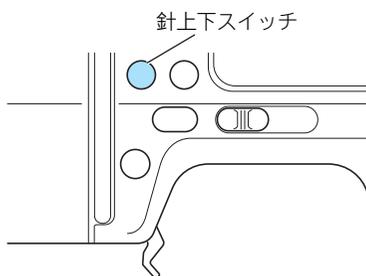
押えの取り外し方と取り付け方を説明します。



お知らせ

- 刺しゅう押え<Q>の取り付け方は、「刺しゅう押え<Q>を取り付ける」(→P.134)で説明します。
- 購入時は、ジグザグ押え<J>が取り付けられています。

- 1 ⊕ (針上下スイッチ)を1回または2回押して、針を上げます。



- 2 電源を切ります。

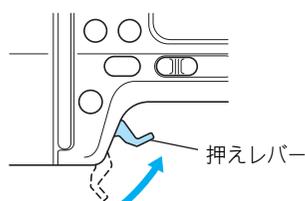


注意



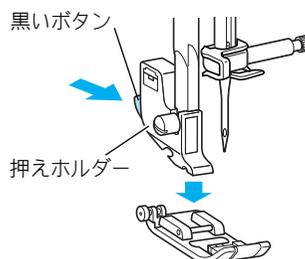
- 押えの交換は、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。万一、スタート/ストップスイッチまたは、他のスイッチが押されると、ミシンが作動してけがの原因となります。

- 3 押えレバーを上げます。



▶ 押えが上がります。

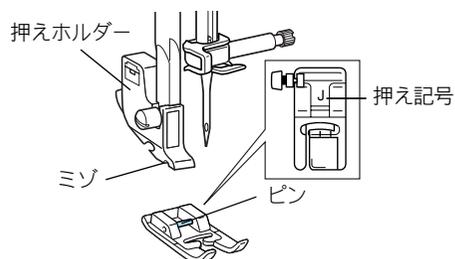
- 4 押えホルダーの後ろ側の黒いボタンを押します。



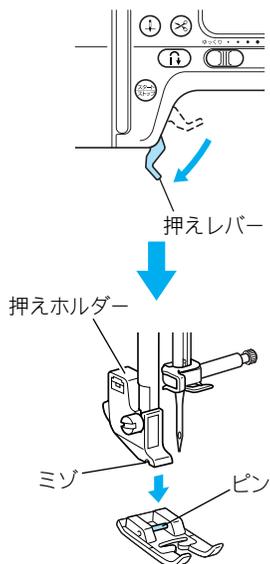
▶ 押えが押えホルダーから外れます。

- 5 取り付ける押えのピンと押えホルダーのミゾが合う位置に押えを置きます。

押えに記されている押え記号 (A・G・I・J・M・N・R) が読める向きに置きます。

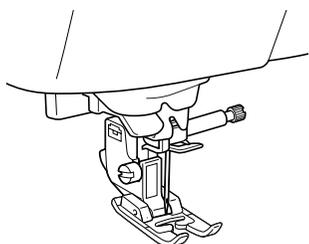


6 押えレバーをゆっくり下げて、押えホルダーのミゾを押えのピンにはめます。



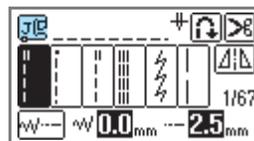
▶ 押えが押えホルダーに取り付けられます。

7 押えレバーを上げて、押えが確実に取り付けられていることを確認します。



お願い

- 模様を選択すると、使用する押えが液晶画面の左上に表示されます。ぬい始める前に押えを確認し、他の押えが取り付けられている場合は、手順に従って正しい押えを取り付けてください。



 ボタン穴かがり押え <A>

 たち目かがり押え <G>

 ジグザグ押え <J>

 ボタン付け押え <M>

 模様ぬい押え <N>

 まつりぬい押え <R>

 サイドカッター押え <S>
(別売)

- 各模様で使用する押えについては、「模様一覧」(→P.72)を参照してください。

押えホルダーを取り外す

刺しゅう押え<Q>や別売のウォーキングフットを使用するとき、またお手入れをするときは、押えホルダーを取り外します。付属のドライバーを用意します。

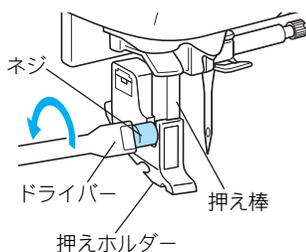
注意



- 押えホルダーは、必ず電源を切ってから取り付け / 取り外しを行ってください。万一、スイッチが押されると、ミシンが作動してけがをするおそれがあります。

① 「押えを交換する」(→ P.44) の手順に従って、押えを取り外します。

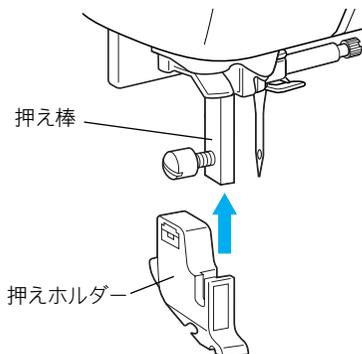
② 押えホルダーのネジをゆるめます。
右手で押えホルダーを支え、左手でドライバーを奥に回します。



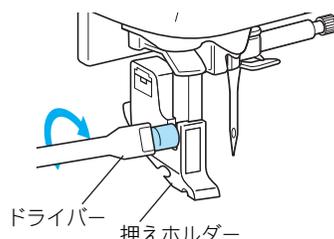
▶ 押えホルダーが押え棒から外れます。

■ 押えホルダーを取り付けるとき

- ① 押えレバーを上げます。
▶ 押えが上がります。
- ② 押えホルダーを押え棒に合わせます。



③ 押えホルダーのネジをしめます。
右手で押えホルダーを支え、左手でドライバーを手前に回します。



注意



- 押えホルダーの取り付け / 取り外しをするときは、指や押えホルダーが針に当たらないようにしてください。針が折れたり、けがの原因となります。
- ネジは付属のドライバーで確実にしめてください。ネジのしめ方がゆるいと、針が押えに当たり、折れたり曲がったりするおそれがあります。

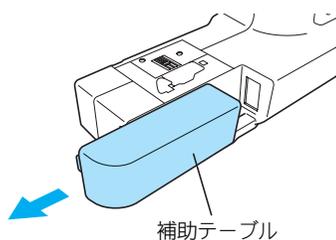
筒ものをぬう

筒ものをぬうときは、フリーアームにすると便利です。

フリーアームにする

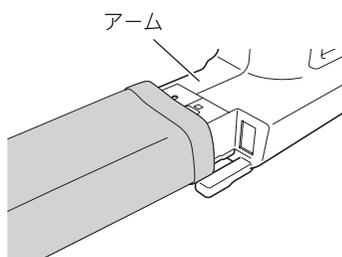
そで口やズボンのすそなどの小さな筒ものをぬうときは、補助テーブルを取り外してフリーアームにします。

1 補助テーブルを左へ引いて取り外します。

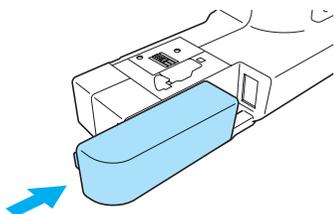


▶ フリーアームになります。

2 布地をアームに通し、布地を回しながらぬっていきます。



3 ぬい終わったら、補助テーブルをもとに戻します。



2

ぬい方の基本

ここでは、基本のぬい方と上手にぬうコツなどを説明します。

ぬってみましょう	50
ぬい目を調節する	61
便利な機能	64
上手にぬうコツ	68

ぬってみましょう

ここでは、基本のぬい方を説明します。

⚠ 注意



● **ミシン操作中は、針の動きに十分注意してください。また、針、プーリー、てんびんなど、動いているすべての部品に手を近づけないでください。**けがの原因となります。



● **押えの交換は、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。**万一、スタート/ストップスイッチまたは、他のスイッチが押されると、ミシンが作動してけがの原因となります。



● 縫製中は布地を無理に引っ張ったり、押ししたりしないでください。けが・針折れの原因となります。

● 曲がった針は絶対に使用しないでください。針折れの原因となります。

● ぬう際には、まち針などが針に当たらないように注意してください。針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。



● 模様に適した押えを使用してください。誤った押えを使用すると、針が押えにあたって折れたり、曲がったりするおそれがあります。



● ぬい目が詰まる場合は、ぬい目の長さをあらくしてください。ぬい目が詰まった状態でぬい続けると、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

ソーイングの手順

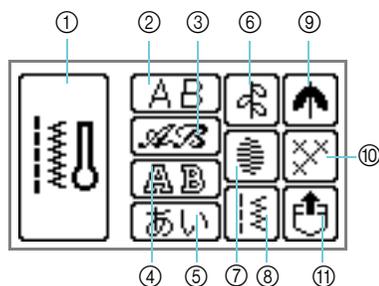
ミシンをかけるときの基本の手順は次のとおりです。

1	押えの取り付け	模様に合った押えを取り付けます。(必ず電源スイッチを切ってから、押えを交換してください。) 「押えを交換する」(→P.44)を参照してください。
↓		
2	電源「入」	ミシンの電源を入れます。「電源を入れる」(→P.23)を参照してください。
↓		
3	模様の選択	ぬう箇所に合わせて模様を選択します。 「模様を選ぶ」(→P.51)で説明します。
↓		
4	布地のセット	ぬう箇所をミシンにセットします。布地の表・裏や、ぬう順番に注意しましょう。「布地をセットする」(→P.55)で説明します。
↓		
5	スタート	ミシンをスタートさせます。 「ミシンをスタートさせる」(→P.56)で説明します。
↓		
6	糸切り	ぬい終わりの糸を切ります。自動で切ることもできます。「糸を切る」(→P.60)で説明します。

模様の種類

模様は、実用模様・飾り模様・サテンステッチ・実用飾り模様・クロスステッチ・飾りサテン・アルファベット3種類・ひらがな／カタカナの10グループの模様があります。

模様の種類は、操作早見表の「模様一覧」(→P.72)を参照してください。



- ① **実用模様**
直線やたち目がかり、ボタン穴かがりなど、67種類の実用模様があります。
- ② **アルファベット (ゴシック体)**
ゴシック体のアルファベットや記号、数字など55文字あります。
- ③ **アルファベット (筆記体)**
筆記体のアルファベットや記号、数字など55文字あります。
- ④ **アルファベット (アウトライン)**
アウトライン (白抜き文字) のアルファベットや記号、数字など55文字あります。
- ⑤ **ひらがな／カタカナ**
ひらがなやカタカナ、記号、数字、漢字など204文字あります。
- ⑥ **飾り模様**
葉や花、ハートなど、30種類の飾り模様があります。
- ⑦ **サテンステッチ**
16種類のサテンステッチがあります。
- ⑧ **実用飾り模様**
模様を組み合わせることができる39種類の実用模様があります。
- ⑨ **飾りサテン**
9種類の飾りサテンがあります。
- ⑩ **クロスステッチ**
7種類のクロスステッチがあります。

- ⑪ **ミシンに記憶させた模様の呼び出し**
よく使用する文字の組み合わせなどの模様をミシンに記憶させて、あとで呼び出してぬうことができます。10組までの模様を記憶させることができます。記憶のさせ方と呼び出し方については、「模様を記憶させる」(→P.172)を参照してください。

模様を選ぶ

液晶画面を操作して模様を選択します。電源を入れたときは、自動的に直線 [左] が選択されています。直線 [中] が選択されるように設定することもできます。詳細は、「ミシンの設定を確認・変更する」(→P.25)を参照してください。

1 使用する模様に合った押えを用意します。

- ・「模様一覧」(→P.72)を参照してください。

2 押えを取り付けます。

- ・「押えを交換する」(→P.44)を参照してください。



お知らせ

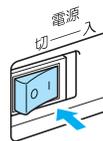
- 購入時は、ジグザグ押え<D>が取り付けられています。

注意



- 模様に合った押えを使用してください。他の押えを使用すると、針が押えに当たり、折れたり曲がったりするおそれがあります。

3 電源を入れます。



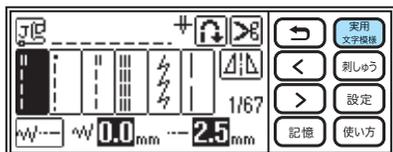
- ・直線 [左] (設定によっては直線 [中]) が選択されます。



お知らせ

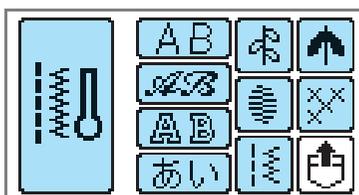
- 液晶画面にアニメーションが表示されているときは、指で液晶画面に触れてください。
- 電源を入れると、実用模様の選択画面が表示されます。実用模様を選択するときは⑥へ進んでください。

4 操作パネルの **実用文字模様** (実用／文字模様キー) を押します。



▶ 模様グループの選択画面が表示されます。

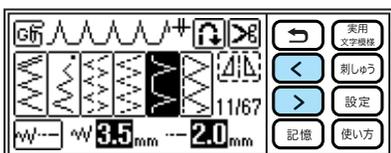
5 模様グループを選択します。



▶ 模様の選択画面が表示されます。

6 模様を選択します。

< (前ページキー) で前の画面、**>** (次ページキー) で次の画面が表示されます。

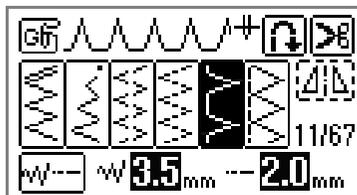


お知らせ

- 画面を指で押しにくい場合は、付属のタッチペンを使用してください。
- **>** を押すと、模様グループの選択画面に戻ります。

7 必要に応じて、自動返しぬい／止めぬいやぬい目の長さなどを設定します。

- 自動返しぬい／止めぬいなどの設定については、「便利な機能」(→P.64)を参照してください。
- 振り幅・ぬい目の長さの設定については、「ぬい目を調節する」(→P.61)を参照してください。
- 実用模様を選択したときは、模様の番号と振り幅・ぬい目の長さが表示されます。



お願い

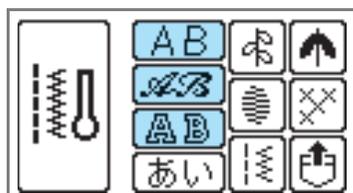
- 模様を選択すると、使用する押えが液晶画面の左上に表示されます。ぬい始める前に押えを確認し、他の押えが取り付けられている場合は、「押えを交換する」(→P.44)の手順に従って正しい押えを取り付けてください。

■ アルファベットを選ぶ

アルファベットは3書体内蔵されています。文字の選び方はどの書体でも同じです。

1 「模様を選ぶ」(→P.51)の ①～④ に従って、模様グループの選択画面を表示させます。

2 書体を選択します。



3 文字を選択します。



お知らせ

- 誤って文字を選択したときは、**削除**を押して文字を消去してから正しい文字を選択します。
- 文字と文字の間にスペースを入れたいときは、**□**を押してください。
- 書体を変えるときは、**>**を押してから新しい書体を選択します。
- **確認**を押すと、選択した模様を確認することができます。

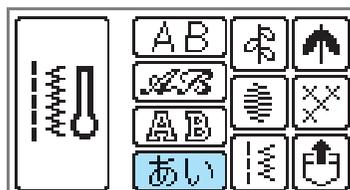
[例] 「BUS」 を選択する場合



■ ひらがな／カタカナを選ぶ

① 「模様を選ぶ」(→P.51)の①～④に従って、模様グループの選択画面を表示させます。

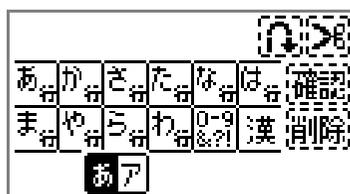
② **あい** を押します。



③ 文字を選択します。

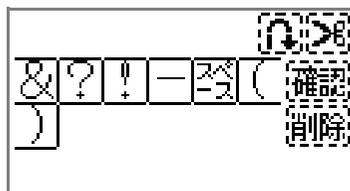
行を選択してから文字を選択します。

あア を押すと、ひらがな／カタカナが切り替わります。



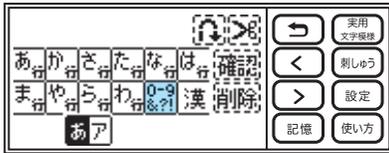
🔔 お知らせ

- 誤って文字を選択したときは、**削除**を押して文字を消去してから正しい文字を選択します。
- 文字と文字の間にスペースを入れたいときは、**0-9**を押してから、**空**を押してください。



- **確認**を押すと、選択した模様を確認することができます。

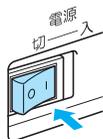
[例] 「一年かとう」を選択する場合



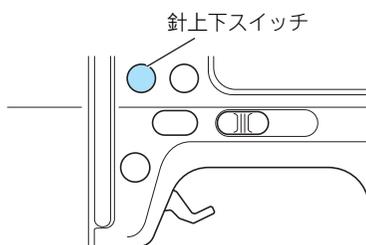
布地をセットする

布地の表・裏や、ぬう順番に注意して布地をセットします。

1 電源を入れます。



2 ⊕ (針上下スイッチ)を1回または2回押して、針を上上げます。



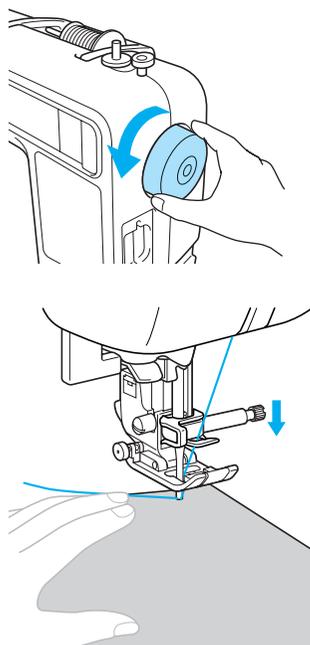
3 押えの下に布地を置きます。



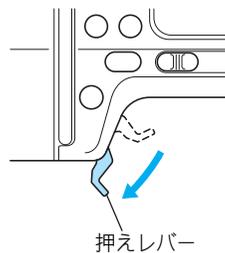
お知らせ

- ぬいしろが右側になるように置くと、まっすぐにぬいやすく、余分な布地がじゃまになりません。

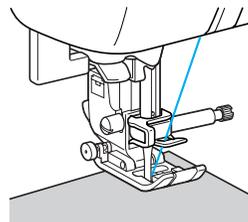
4 左手で糸と布地を押さえ、右手でプーリーを手前に回して布地に針を刺します。



5 押えレバーを下げます。



▶ 布地がセットできました。



ミシンをスタートさせる

準備ができたらミシンをスタートさせます。操作スイッチの  (スタート/ストップスイッチ) または別売のフットコントローラーで操作します。「フットコントローラー (別売) を使う」(→P.57) を参照してください。

お知らせ

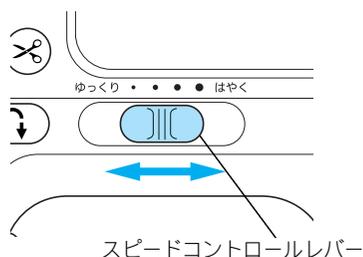
- フットコントローラーをミシン本体に接続しているときは、 (スタート/ストップスイッチ) は使用できません。

■ 操作スイッチを使う

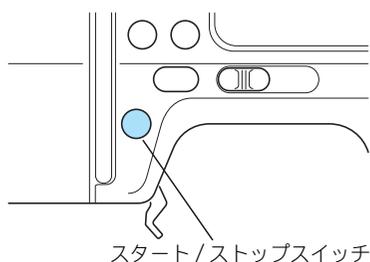
操作スイッチの  (スタート/ストップスイッチ) を指で押して操作します。

① スピードコントロールレバーを左右に動かして、速度を調節します。

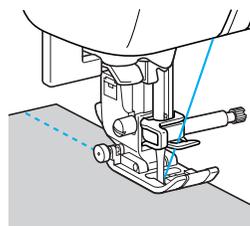
左に動かすと遅く、右に動かすと速くなります。



② (スタート/ストップスイッチ) を1回押します。



- ▶ ミシンがスタートします。



お知らせ

- ぬい始めは、ミシンがゆっくり進みます。
- ミシンを止めたい少し前の位置で  (スタート/ストップスイッチ) を押し、押したままにすると、ミシンはゆっくり進みます。次にスイッチから手を離すと、ミシンがストップします。ミシンを正確な位置で止めた場合この方法を使うと便利です。

③ ぬい終わりの位置まできたら、 (スタート/ストップスイッチ) を1回押します。

- ▶ 針が下がった (布地に刺さった) 状態でミシンがストップします。

お知らせ

- ミシンがストップしたときに針が上になるように設定することもできます。「ミシンの設定を確認・変更する」(→P.25) を参照してください。

④ 糸を切ります。

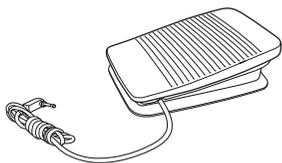
- ・ 「糸を切る」(→P.60) で説明します。

お知らせ

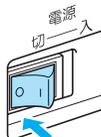
- 下糸がなくなると、ミシンは自動的に止まります。ミシンが止まった時は、下糸をセットし直し、 (スタート/ストップスイッチ) を押して続きをぬってください。

■ フットコントローラー（別売）を使う

別売のフットコントローラーをミシン本体に接続して、足で踏んで操作します。



① 電源を切ります。

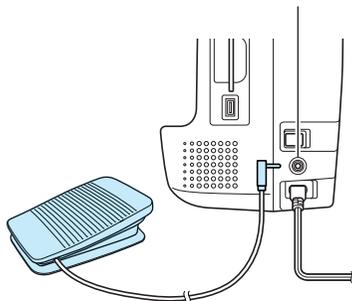


お願い

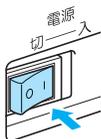
- フットコントローラーを接続するときに、誤ってミシンがスタートしないよう、必ず電源を切ってください。

② ミシン本体右側面のフットコントローラージャックに、フットコントローラーのプラグを差し込みます。

フットコントローラージャック

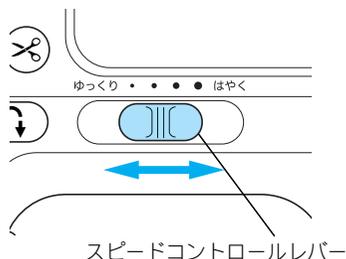


③ 電源を入れます。



④ スピードコントロールレバーを左右に動かして、フットコントローラーの最高速度を調節します。

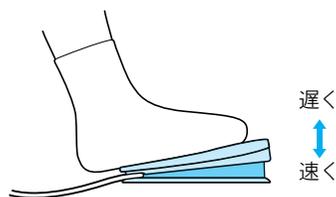
左に動かすと最高速度が遅くなり、右に動かすと最高速度が速くなります。



- ▶ スピードコントロールレバーで設定した速度が、フットコントローラーを踏み込んだときの最高速度になります。

⑤ めう準備ができれば、フットコントローラーをゆっくり踏み込みます。

浅く踏むと遅く、深く踏み込むと速くなります。



- ▶ ミシンがスタートします。

⑥ めい終わりの位置まできたら、フットコントローラーから足を離します。

- ▶ 針が下がった（布地に刺さった）状態でミシンがストップします。



お知らせ

- ミシンがストップしたときに針が上になるように設定することもできます。「ミシンの設定を確認・変更する」(→P.25)を参照してください。

⑦ 糸を切ります。

- ・「糸を切る」(→P.60)で説明します。



お知らせ

- フットコントローラーをミシン本体に接続しているときは、 (スタート/ストップスイッチ) は使用できません。

⚠ 注意



- フットコントローラーに糸くずやほこりなどがたまらないようにしてください。火災や感電の原因となります。
- フットコントローラーの上に物を置かないでください。けがや故障の原因となります。
- 長期間使用しないときは、フットコントローラーのプラグをジャックから抜いてください。火災や感電の原因となります。

返しぬい／止めぬいをする

ぬい始めとぬい終わりは、糸の端がほつれないように返しぬいまたは止めぬいをします。

■ 返しぬいをする

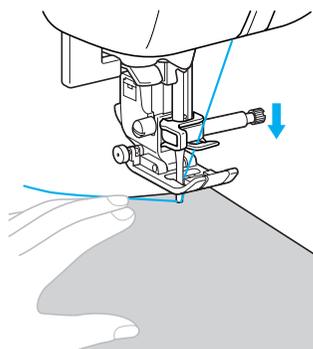
返しぬいは、1 · 3 · 7 の模様を設定されています。

他の模様（またはそれ以外の模様）は“止めぬい”に設定されています。

返しぬい／止めぬいの設定の詳細は、「模様一覧」（→P.72）を参照してください。

ここでは、直線ぬいの場合を例に説明します。

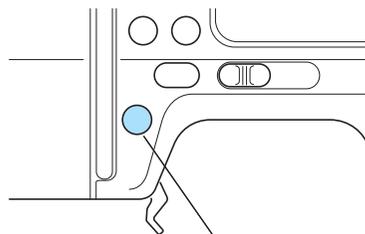
- ① ぬい始めの位置に針を刺し、押えレバーを下げます。



- ② (スタート/ストップスイッチ) を押すか、またはフットコントローラーを踏みます。

(スタート/ストップスイッチ) の場合は、スイッチを押したままにすると、ゆっくりと進みます。

- ・ 詳細は、「ミシンをスタートさせる」（→P.56）を参照してください。

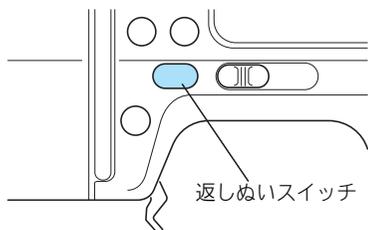


スタート/ストップスイッチ

- ▶ ミシンがスタートします。

- ③ 3～5針ほどぬったら、**①** (返しぬいスイッチ) を押します。

ぬい始めの位置に戻るまで**①** (返しぬいスイッチ) を押したままにします。



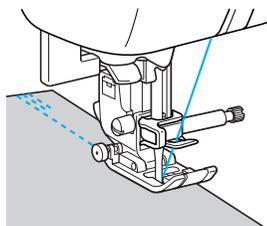
- ▶ **①** (返しぬいスイッチ) を押している間、後ろに向かって針が進みます。

- ④ ぬい始めの位置まで戻ったら、**①** (返しぬいスイッチ) から手を離します。

▶ ミシンがストップします。

- ⑤ **②** (スタート/ストップスイッチ) を押すか、またはフットコントローラーを踏みます。

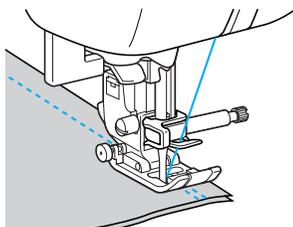
▶ 通常の向きに針が進みます。



- ⑥ ぬい終わりの位置まできたら、**①** (返しぬいスイッチ) を押します。

3～5針戻るまで**①** (返しぬいスイッチ) を押したままにします。

- ▶ **①** (返しぬいスイッチ) を押している間、後ろに向かって針が進みます。



- ⑦ 3～5針ほどぬったら、**①** (返しぬいスイッチ) から手を離します。

▶ ミシンがストップします。

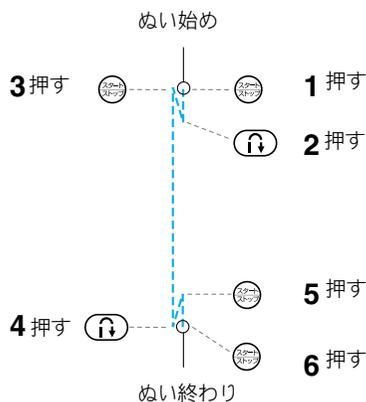
- ⑧ **②** (スタート/ストップスイッチ) を押すか、またはフットコントローラーを踏みます。

② (スタート/ストップスイッチ) の場合は、スイッチを押したままにすると、ゆっくりと進みます。

▶ 通常の向きに針が進みます。

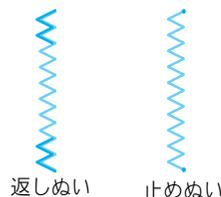
- ⑨ ぬい終わりの位置まできたら、ミシンをストップさせます。

② (スタート/ストップスイッチ) を押すか、フットコントローラーから足を離します。



■ 返しぬい/止めぬいをする

1、3、7以外の模様で**①** (返しぬいスイッチ) を押すと、止めぬいになります。スイッチを押したままにすると、同じ場所で3～5針重ねてぬって止まります。



🔔 お知らせ

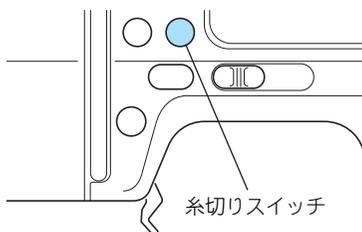
- 返しぬい/止めぬいを自動で行うこともできます。「自動で返しぬい/止めぬいをする」(→P.64) を参照してください。

糸を切る

ぬい終わったら、糸を切ります。操作スイッチの ⊗ (糸切りスイッチ) またはミシン本体左側面の糸切りを使用します。

■ 操作スイッチを使う

- ① ぬい終わりの位置で、⊗ (糸切りスイッチ) を 1 回押します。



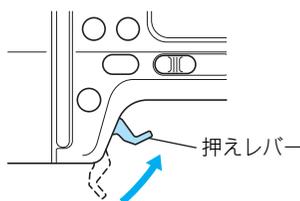
▶ 糸が切れ、針が上に上がります。



お願い

- 押えが上がっていると、糸切りスイッチで糸を切ることができません。

- ② 押えレバーを上げて、布地を取り出します。



! 注意



- 糸を切ったあとに、⊗ (糸切りスイッチ) を押さないでください。針折れや糸がらみ、故障の原因となります。
- 布地が押えの下にないときや、ミシンが動いているときは ⊗ (糸切りスイッチ) を押さないでください。故障の原因となります。



お知らせ

- ぬい終わりに自動的に糸を切るように設定することもできます。「自動で糸を切る」(→ P.65) で説明します。

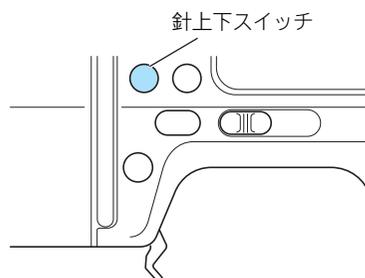
■ 糸切りを使う

! 注意

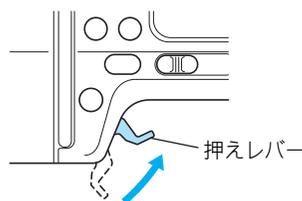


- ナイロン糸・メタリック糸は糸切りスイッチで糸を切らないでください。故障の原因となります。
- ナイロン糸・メタリック糸は、ミシン本体左側面の糸切りまたは、糸切り用はさみを使って糸を切ってください。

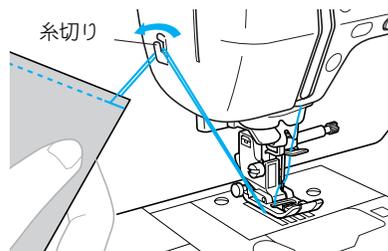
- ① ぬい終わったら、ミシンをストップさせ、⊕ (針上下スイッチ) を 1 回押して、針を上げます。



- ② 押えレバーを上げます。

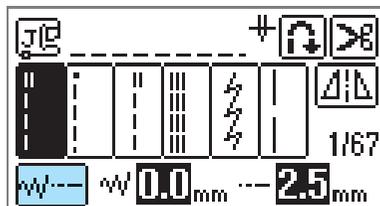


- ③ 布地を左へ引き、ミシン本体左側面の糸切りに上糸と下糸を引っかけて切ります。



ぬい目を調節する

ジグザグの振り幅やぬい目の長さは、あらかじめ模様ごとの適切な数値に設定されています。必要に応じて設定を変更するときは、液晶画面の  を押したあと、次の説明に従って操作してください。



お願い

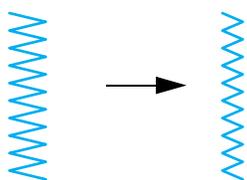
- 模様によって、変更できない設定もあります。詳細は、「模様一覧」(→P.72)を参照してください。
- 設定を変更したあとに、ミシンの電源を切ったり他の模様を選択したりすると、もとの数値に戻ります。設定を記憶させておきたいときは、「模様の設定を記憶させる」(→P.67)を参照してください。

模様の幅を調節する

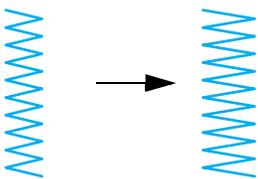
模様の幅(ジグザグの振り幅)を広くしたりせまくしたりすることができます。



振り幅の  を押すごとに、模様の幅(ジグザグの振り幅)がせまくなります。



振り幅の  を押すごとに、模様の幅(ジグザグの振り幅)が広がります。



-  を押すと、もとの数値に戻ります。

お知らせ

-  と表示されているときは、設定を変更することができません。
- 直線模様(直線 [左]、三重ぬい、しつけなど)を選択した場合は、模様の幅を変更すると針の位置が移動します。振り幅の  を押すと針は右に移動し、 を押すと左に移動します。詳細は、「針位置を変えるとき」(→P.84)を参照してください。
- ぬいながらスピードコントロールレバーで模様の振り幅を調節することもできます。「振幅コントロールを使って模様をぬう」(→P.107)を参照してください。

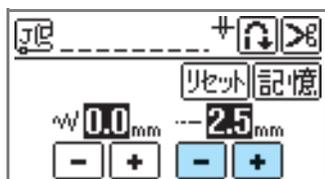
注意



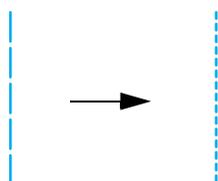
- 振り幅を調節したときは、プーリーをゆっくりと手前に回し、針が押えに当たらないことを確認してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

ぬい目の長さを調節する

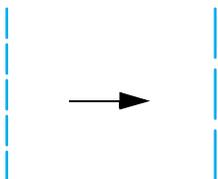
ぬい目の長さをあらかしたり細くしたりすることができます。



ぬい目の長さの **-** を押すごとに、ぬい目が細くなります。



ぬい目の長さの **+** を押すごとに、ぬい目があらかくなります。



・ **リセット** を押すと、もとの数値に戻ります。



お知らせ

- **■** と表示されているときは、設定を変更することができません。

注意



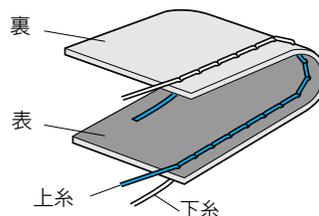
- ぬい目が詰まる場合は、ぬい目の長さを長くしてください。ぬい目が詰まった状態でぬい続けると、針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

糸調子を調節する

糸調子が合わないときや、特殊な糸や素材を使用するときは、上糸の調子を調節します。

■ 正しい糸調子

上糸と下糸が布地の中央でまじわります。布地の表には上糸、裏には下糸のみが見えます。



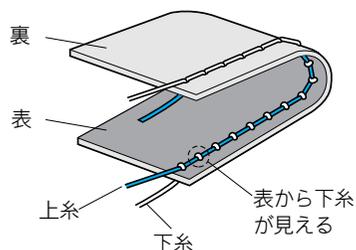
■ 上糸が強いとき

布地の表に下糸が見えます。



お願い

- 下糸が正しくセットされていないと、上糸が強くなることがあります。上糸が強いときは、下糸のセットを再度行ってください。「下糸をセットする」(→P.33)を参照してください。

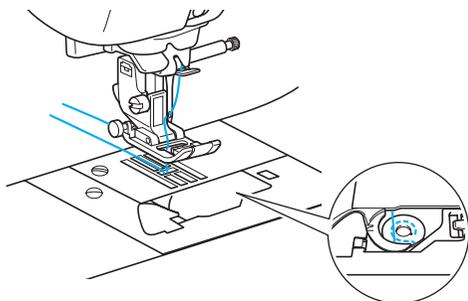


糸調子ダイヤルを左に回し、上糸を弱くします。



お願い

- ぬい終わったとき、針板ふたを外して糸が下図のように見えることを確認してください。糸が下図のようにならないときは、内かまの板バネの間に下糸が入っていません。下糸を正しく入れなおしてください。(→P.34)

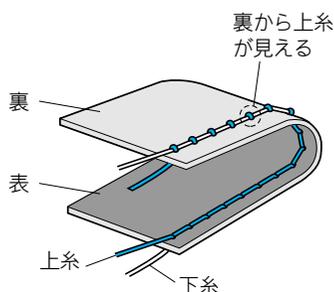


■ 上糸が弱いとき

布地の裏に上糸が見えます。

お願い

- 上糸が正しくセットされていないと、上糸が弱くなることがあります。上糸が弱いときは、上糸のセットを再度行ってください。「上糸を通す」(→P.36)を参照してください。



糸調子ダイヤルを右に回し、上糸を強くします。



お知らせ

- 糸調子ダイヤルの「標準」は、普通地(中厚地)をぬう場合の目安です。実際に使用される布や糸の種類によって糸調子は変わりますので、必ず試しぬいをして、糸調子を調節してください。
- 糸調子ダイヤルを極端に弱く設定すると、ミシンが途中で停止する場合がありますが故障ではありません。正しい糸調子に合わせてぬい直してください。

便利な機能

ここでは、役に立つ便利な機能を説明します。

自動で返しぬい／止めぬいをする

ぬい始めとぬい終わりに、自動で返しぬいまたは止めぬいをするように設定します。選択した模様によって、自動で返しぬいまたは止めぬいに設定されます。返しぬい／止めぬいの設定の詳細は、「模様一覧」(→P.72)を参照してください。

1 電源を入れます。

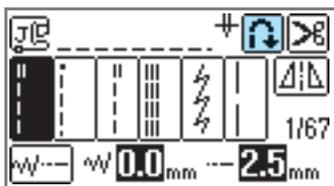


▶ 液晶画面が点灯します。

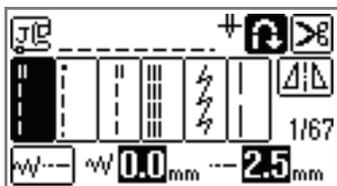
2 模様を選択します。

・ 模様の選び方は、「模様を選ぶ」(→ P.51)を参照してください。

3 を押します。



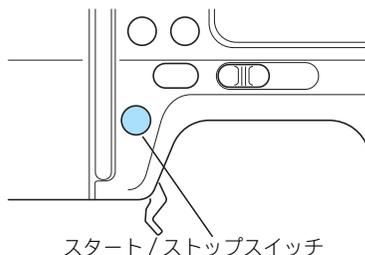
▶ になり、自動返しぬい／止めぬいが設定されます。



お知らせ

- 自動返しぬい／止めぬいを解除するときは、を押します。
- 電源を切ると、自動返しぬい／止めぬいの設定は解除されます。
- ボタン穴かがりやかんどめなど、止めぬいが含まれている模様を選択したときは、自動的に自動止めぬいが設定されます。

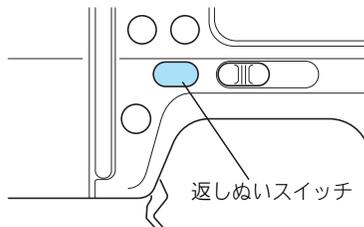
4 布地をセットし、 (スタート/ストップスイッチ) を1回押します。



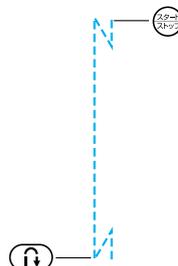
▶ 返しぬいまたは止めぬいをしてから、ぬい始めます。

5 ぬい終わりの位置まできたら、 (返しぬいスイッチ) を1回押します。

ボタン穴かがりやかんどめなど、止めぬいが含まれている模様を選択したときは、この操作は必要ありません。

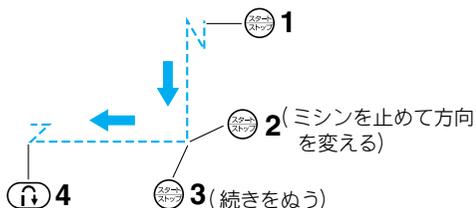


▶ 返しぬいまたは止めぬいをしてから、ミシンがストップします。



お知らせ

- ぬう方向を変えるときなど、返しぬいをせずにミシンを途中で止めたいときは、 (スタート/ストップスイッチ) を押してください。自動で返しぬい / 止めぬいをせずにミシンが止まります。ぬい終わりで  (返しぬいスイッチ) を押してください。



自動で糸を切る

ぬい終わりに自動で糸を切るように設定します。これを「プログラム糸切り」といいます。プログラム糸切りを設定すると、自動返しぬい / 止めぬいも一緒に設定されます。

1 電源を入れます。

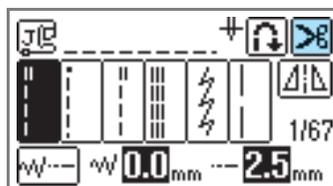


- ▶ 液晶画面が点灯します

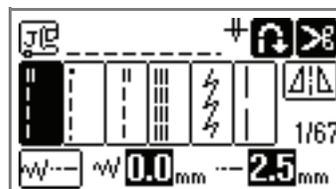
2 模様を選択します。

- ・ 模様の選び方は、「模様を選ぶ」(→ P.51) を参照してください。

3 を押します。



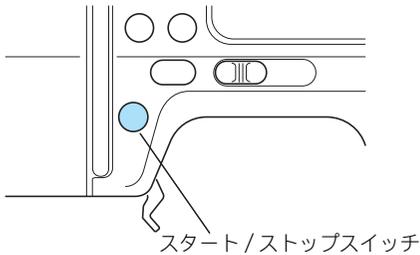
- ▶   になり、プログラム糸切りと自動返しぬい / 止めぬいが設定されます。



お知らせ

- プログラム糸切りを解除するときは、 を押します。

- 4 布地をセットし、 (スタート/ストップスイッチ) を1回押します。

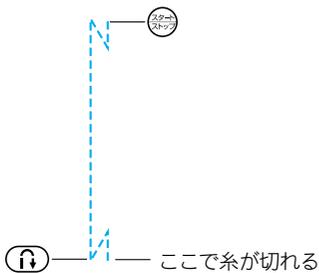


- ▶ 返しぬいまたは止めぬいをしてから、ぬい始めます。

- 5 ぬい終わりの位置まできたら、 (返しぬいスイッチ) を1回押します。

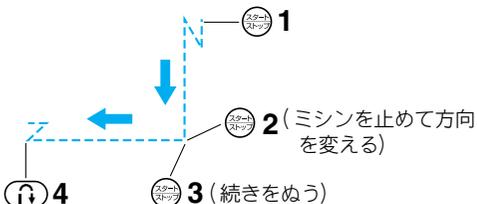
ボタン穴かがりやかんどめなど、止めぬいが含まれている模様を選択したときは、この操作は必要ありません。

- ▶ 返しぬいまたは止めぬいをしてから、自動で糸を切ります。



お知らせ

- ぬう方向を変えるときなど、プログラム糸切りをせずにミシンを途中で止めたいときは、 (スタート/ストップスイッチ) を押してください。プログラム糸切りは行われずにミシンが止まります。ぬい終わりで (返しぬいスイッチ) を押してください。

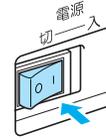


- 電源を切ると、プログラム糸切りの設定は解除されます。

模様を反転させる

模様を左右反転させてぬうことができます。

- 1 電源を入れます。

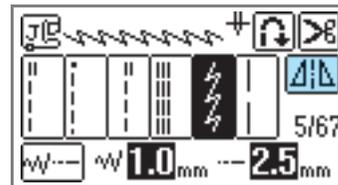


- ▶ 液晶画面が点灯します。

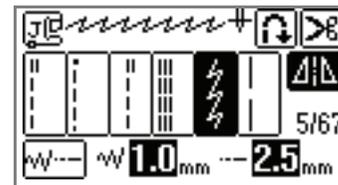
- 2 模様を選択します。

- 模様の選び方は、「模様を選ぶ」(→ P.51) を参照してください。

- 3  を押します。



- ▶  になり、液晶画面上部に表示された模様が反転します。



お知らせ

- 反転を解除するときは、 を押します。
- ボタン穴かがりなど、模様を選択したときに と表示される模様は反転させられません。
- 電源を切ると、反転は解除されます。

模様を設定を記憶させる

ジグザグの振り幅やぬい目の長さ、自動糸切りや自動止めぬいは、あらかじめ模様ごとに設定されています。実用模様では、これらの設定を変更して記憶させることができます。変更した設定は、電源を落としてもミシンに記憶されています。

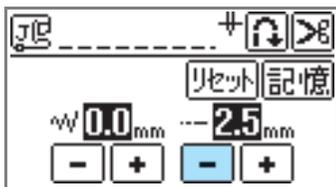
[例] 直線のぬい目の長さを、いつも 2.0mm でぬう場合

1 直線模様を選択します。

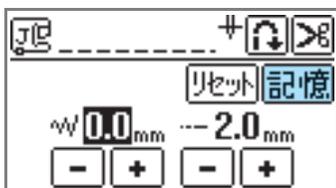
2 を押します。

▶ ぬい目の長さが 2.5mm に設定されています。

3 ぬい目の長さを 2.0mm に変更します。



4 を押します。



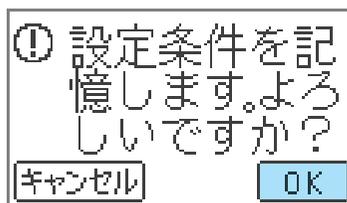
▶ 確認メッセージが表示されます。



お知らせ

- もとの設定に戻すときは、 を押したあと、 を押します。

5 を押します。



▶ 次に同じ直線模様を選択すると、ぬい目の長さが 2.0mm に設定されます。



お知らせ

- ぬい目の長さ以外の、ジグザグの振り幅、自動糸切りや自動止めぬいなどの設定も記憶できます。
- 自動糸切りや自動止めぬいの設定を変更した場合、 を押しても変更した設定はミシンに記憶されています。

上手にぬうコツ

ここでは、上手にぬうためのコツを説明します。ソーイングをするときの参考にしてください。

試しぬいをする

本製品は、模様を選択すると、自動的に適切な模様の幅と長さが設定されるようになっています。しかし、布地の種類やぬい方によっては必ずしも思い通りにならないことがあるので、試しぬいをするようにしましょう。

試しぬいは、実際に使用する布地のはぎれと糸を使用して、糸調子や模様の幅・長さを確認します。ぬい方や、布地を何枚重ねてぬうかによってもぬった結果は異なるので、実際にぬうものと同じ状態で試しぬいをします。

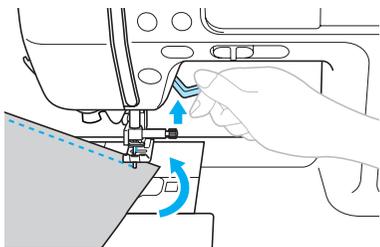
ぬう方向を変える

- 1 角までぬったら、ミシンをストップさせます。

このとき、針が下がった（布地に刺さった）状態にしておきます。もし針が上がっている場合は、（針上下スイッチ）を押して針を下げます。

- 2 押えレバーを上げ、布地を持って回転させます。

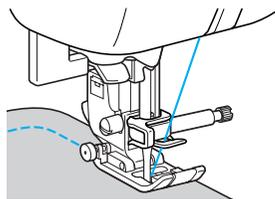
針位置を基点に回転させます。



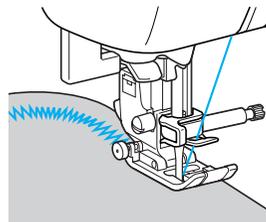
- 3 押えレバーを下げ、続きをぬいます。

カーブをぬう

途中でミシンをストップさせながら、少しずつ向きを変えてぬいます。「ぬいしるの幅をそろえる」（→P.70）を参考にし、ぬいしると平行になるようにぬいます。

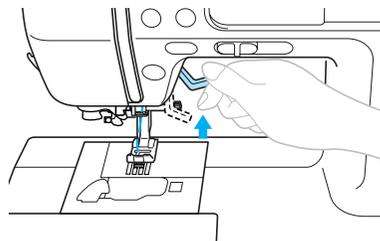


ジグザグ模様をぬうときは、ぬい目の長さを短めにするときれいに仕上がります。



厚い布地をぬう

- 押えの下に布地が入らないとき
押えレバーをさらに上に上げると、押えがもう一段階上がります。



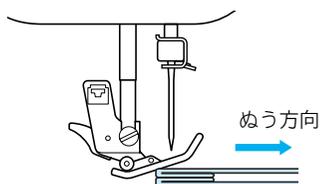
注意



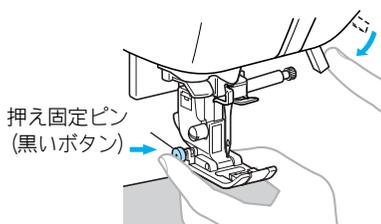
- 6 mm 以上の厚物をぬったり、無理に布地を押しこんだりすると、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

■ ぬい始めに段差があって布地を送ることができないとき

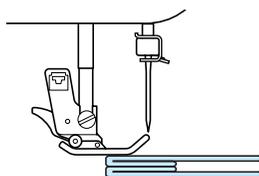
図のように布地に段差があり、押えが傾いてしまい、布地が送られない場合があります。その場合は、押え固定ピン(ジグザグ押え<J>左側の黒いボタン)の機能を使って、押えを水平にしてぬうと、スムーズに布地を送ることができます。



- ① 押えレバーを上げます。
- ② ぬい始めの位置を合わせて、布地をおきます。
- ③ ジグザグ押え<J>を水平に保持して左側の黒いボタンを押したまま、押えレバーを下げます。



- ④ ボタンから手を離します。
- ▶ 押えが水平になり、布地が送られるようになります。



・ ぬい進めると、押えはもとに戻ります。

⚠ 注意



- 6mm以上の厚物をぬったり、無理に布地を押しこんだりすると、針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

面ファスナー (マジックテープ®)をぬう

⚠ 注意

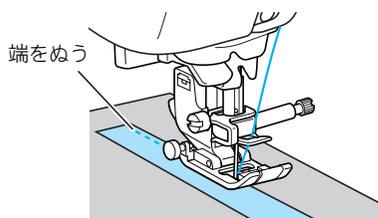


- 面ファスナーは、のりが付いていない縫製用のものを使用してください。のりが針やかまに付着すると、故障の原因となります。
- 面ファスナーを細い針(9~11番)でぬうと、針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

🌟 お願い

- ミシンでぬう前に、しつけをして面ファスナーと布をぬい合わせておいてください。

プリーヤーを手で回して面ファスナーに針を刺し、針がスムーズに通ることを確認してから、面ファスナーの端を低速でぬいます。針が通らない場合は、厚地用の針と糸(→P.41)に交換してください。

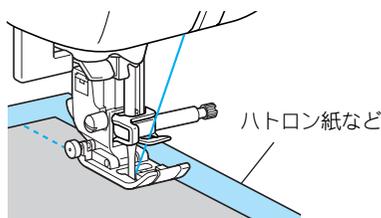


🔔 お知らせ

- “マジックテープ®”は、株式会社クラレの、面ファスナーの登録商標です。

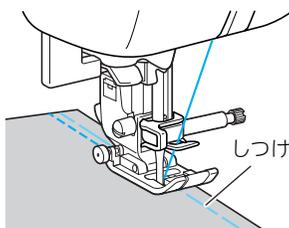
薄い布地をぬう

薄い布地をぬうと、ぬい目がつれてしまったり、布がうまく送れないことがあります。その場合は布地の下にハトロン紙などの薄い紙を敷いて、布地と一緒にぬいます。ぬい終わったら、紙をやぶって取り除きます。

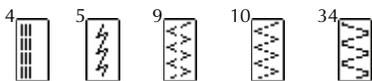


伸びる布地をぬう

あらかじめしつけをして、布地を引っ張らないようにぬいます。

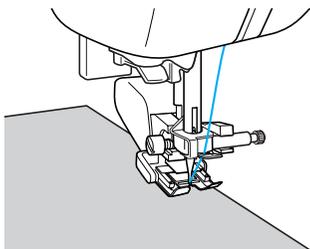


また、ニット用の糸を使用したり伸縮ぬいを使用すると、きれいにぬうことができます。



ビニールや皮をぬう

ビニールコーティングや皮革など、押えに貼り付いてぬいにくい素材には、別売のウォーキングフットを使用します。



お知らせ

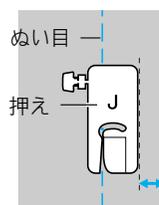
- ウォーキングフットを使用できる模様は、止めぬい用の直線とジグザグ模様のみです。詳細は、「模様一覧」(→P.72)を参照してください。

ぬいしろの幅をそろえる

布端と平行に一定の幅でぬうときは、ぬいしろの端が右側になるようにぬい始め、押えの右端が針板の目盛りを基準にしてぬいます。

■ 押えを基準にする

押えの右端と布端が一定の幅で平行になるようにぬいます。

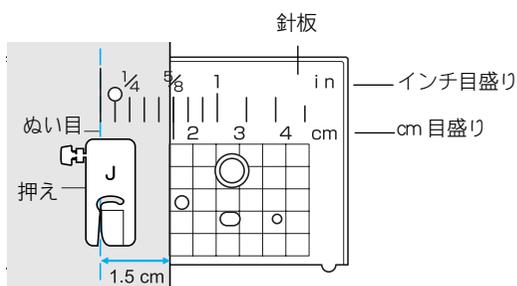


お知らせ

- 直線模様(直線[左]、三重ぬい、しつけぬいなど)を選択した場合は、振り幅を変更して、ぬい目から押え右端までの距離を変更することができます。詳細は、「針位置を変えるとき」(→P.84)を参照してください。

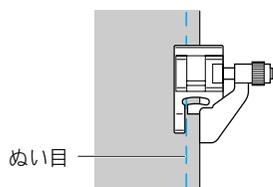
■ 針板を基準にする

針板には、直線[左]の針位置からの長さが表示されています。針板に刻まれている目盛りと布端を合わせてぬいます。上側の目盛りは1/8インチ(約3mm)間隔、下側の目盛りは5mm間隔になっています。



■ ガイド付まつりぬい押えを使用する

別売のガイド付まつりぬい押えでは、ガイドの幅を変更して布端をガイドに合わせてぬうと、ぬいしろの幅をそろえてぬうことができます。



3

いろいろなぬい方

ここでは、いろいろなぬい方とその使い方を説明します。

模様一覧.....	72
ぬいしろを始末する.....	79
布をぬい合わせる / しつけぬいをする.....	83
すそ上げをする.....	85
ボタン穴かがりをする / ボタンを付ける.....	88
ファスナーを付ける.....	95
伸びる布地やゴムテープをぬう.....	99
アップリケ / パッチワーク / キルトをぬう.....	101
丈夫にしたいところをぬう.....	109
はとめ穴を作る.....	114
飾りぬいをする.....	115
いろいろな模様をぬう.....	122

模様一覧

実用模様

名称	模様	押え	用途	振り幅		ぬい目の長さ		返しぬい スイッチ	ウォー キング フット
				自動	手動	自動	手動		
直線	左	1	J 地ぬい、ギャザー、ピントックなど	0.0	0.0 ~ 7.0	2.5	0.2 ~ 5.0	返しぬい	×
		2	J 地ぬい、ギャザー、ピントックなど	0.0	0.0 ~ 7.0	2.5	0.2 ~ 5.0	止めぬい	○
	中	3	J/I ファスナー付け、地ぬい、ギャザー、ピントックなど	3.5	0.0 ~ 7.0	2.5	0.2 ~ 5.0	返しぬい	×
三重ぬい	4	J 袖つけ、股下ぬい、伸びる布地、飾りぬい	0.0	0.0 ~ 7.0	2.5	1.5 ~ 4.0	止めぬい	×	
伸縮ぬい	5	J 伸びる布地、飾りぬい	1.0	1.0 ~ 3.0	2.5	1.0 ~ 4.0	止めぬい	×	
しつけぬい	6	J 仮止め	0.0	0.0 ~ 7.0	-	-	止めぬい	×	
ジグザグ	中	7	J たち目かがり、アップリケ	3.5	0.0 ~ 7.0	1.4	0.0 ~ 4.0	返しぬい	×
	右	8	J 針位置右からぬい始め	3.5	2.5 ~ 5.0	1.4	0.3 ~ 4.0	止めぬい	○
2点ジグザグ	9	J 普通地・伸びる布地のたち目かがり、ゴムひも付け、つくろいぬいなど	5.0	1.5 ~ 7.0	1.0	0.2 ~ 4.0	止めぬい	○	
3点ジグザグ	10	J 普通地・伸びる布地のたち目かがり、ゴムひも付け、つくろいぬいなど	5.0	1.5 ~ 7.0	1.0	0.2 ~ 4.0	止めぬい	×	
たち目かがり	11	G 薄地・普通地のたち目かがり	3.5	2.5 ~ 5.0	2.0	1.0 ~ 4.0	止めぬい	×	
	12	G 厚地のたち目かがり	5.0	2.5 ~ 5.0	2.5	1.0 ~ 4.0	止めぬい	×	
	13	G 厚地のたち目かがり、飾りぬい	5.0	3.5 ~ 5.0	2.5	1.0 ~ 4.0	止めぬい	×	
	14	J 伸びる布地のたち目かがり	5.0	0.0 ~ 7.0	2.5	0.5 ~ 4.0	止めぬい	×	
	15	J 厚地・伸びる布地のたち目かがり	5.0	0.0 ~ 7.0	2.5	0.5 ~ 4.0	止めぬい	×	
	16	J 伸びる布地のたち目かがり、飾りぬい	4.0	0.0 ~ 7.0	4.0	1.0 ~ 4.0	止めぬい	×	

名称	模様	押え	用途	振り幅		ぬい目の長さ		返しぬい スイッチ	ウォー キング フット
				自動	手動	自動	手動		
まつりぬい	17 	R	普通地のまつりぬい	00	3 ← ~ → 3	2.0	1.0 ~ 3.5	止めぬい	×
	18 	R	伸びる布地のまつりぬい	00	3 ← ~ → 3	2.0	1.0 ~ 3.5	止めぬい	×
アップリケ	19 	J	アップリケ	3.5	2.5 ~ 7.0	2.5	1.6 ~ 4.0	止めぬい	×
シェルタック	20 	J	シェルタック	4.0	0.0 ~ 7.0	2.5	0.2 ~ 4.0	止めぬい	×
ピーシング直線	21 	J	ピーシング用直線 (押え右端から7mmのぬいしろ)	5.0	0.0 ~ 7.0	1.6	0.2 ~ 5.0	止めぬい	×
	22 	J	ピーシング用直線 (押え左端から7mmのぬいしろ)	2.0	0.0 ~ 7.0	1.6	0.2 ~ 5.0	止めぬい	○
手ぬい風直線 (キルト用)	23 	J	手ぬい風キルト直線	0.0	0.0 ~ 7.0	2.5	1.0 ~ 4.0	止めぬい	×
ジグザグ (キルト用)	24 	J	アップリケキルト、フリーモーションキルト、サテンぬい	3.5	0.0 ~ 7.0	1.4	0.0 ~ 4.0	止めぬい	○
アップリケ (キルト用)	25 	J	アップリケ、バインディング	1.5	0.5 ~ 3.5	1.2	1.0 ~ 4.0	止めぬい	×
キルティング模様 (キルト用)	26 	J	飾りぬい	7.0	1.0 ~ 7.0	1.6	1.0 ~ 4.0	止めぬい	×
スカラップ	27 	N	サテンスカラップ	5.0	2.5 ~ 7.0	0.5	0.1 ~ 1.0	止めぬい	×
つきあわせ	28 	J	パッチワークや飾りぬい	4.0	0.0 ~ 7.0	1.2	0.2 ~ 4.0	止めぬい	×
	29 	J	パッチワークや飾りぬい	5.0	2.5 ~ 7.0	2.5	1.0 ~ 4.0	止めぬい	×
	30 	J	パッチワークや飾りぬい	5.0	0.0 ~ 7.0	1.2	0.2 ~ 4.0	止めぬい	×
スモッキング	31 	J	スモッキング、飾りぬい	5.0	0.0 ~ 7.0	1.6	1.0 ~ 4.0	止めぬい	×
ファゴティング	32 	J	ファゴティング、飾りぬい	5.0	0.0 ~ 7.0	2.5	1.0 ~ 4.0	止めぬい	×
	33 	J	ファゴティング、飾りぬい	5.0	2.5 ~ 7.0	2.5	1.0 ~ 4.0	止めぬい	×
ゴムひもつけ	34 	J	伸びる布地のゴムひも付け	4.0	0.0 ~ 7.0	1.0	0.2 ~ 4.0	止めぬい	×

名称	模様	押え	用途	振り幅		ぬい目の長さ		返しぬい スイッチ	ウォー キング フット
				自動	手動	自動	手動		
飾りぬい		J	飾りぬい	4.0	0.0 ~ 7.0	3.0	2.0 ~ 4.0	止めぬい	×
		J	飾りぬい	4.0	0.0 ~ 7.0	2.5	1.0 ~ 4.0	止めぬい	×
		J	飾りぬい	5.5	0.0 ~ 7.0	1.6	1.0 ~ 4.0	止めぬい	×
		N	飾りぬい、ゴムひも付け	5.0	1.5 ~ 7.0	1.0	0.2 ~ 4.0	止めぬい	×
		N	レース付け、ふち飾り、ヘア ルームなど	3.5	1.5 ~ 7.0	2.5	1.6 ~ 4.0	止めぬい	×
		N	ふち飾り、ヘアルームなど	6.0	1.5 ~ 7.0	3.0	1.5 ~ 4.0	止めぬい	×
		N	薄地・普通地平織り布のふち飾 り、ヘアルームなど	5.0	1.5 ~ 7.0	3.5	1.5 ~ 4.0	止めぬい	×
		N	薄地・普通地平織り布のふち飾 り、ヘアルームなど	5.0	1.5 ~ 7.0	4.0	1.5 ~ 4.0	止めぬい	×
		N	薄地・普通地平織り布のふち飾 り、ヘアルームなど	5.0	1.5 ~ 7.0	2.5	1.5 ~ 4.0	止めぬい	×
		N	薄地・普通地平織り布のふち飾 り、ヘアルームなど	5.0	1.5 ~ 7.0	2.0	1.5 ~ 4.0	止めぬい	×
		N	ふち飾り、リボン通し、ヘア ルームなど	5.0	1.5 ~ 7.0	3.0	1.5 ~ 4.0	止めぬい	×
		N	飾りぬい、スモッキング、ヘア ルームなど	6.0	1.5 ~ 7.0	1.6	1.0 ~ 4.0	止めぬい	×
		N	飾りぬい、スモッキング、ヘア ルームなど	5.0	1.5 ~ 7.0	1.6	1.0 ~ 4.0	止めぬい	×
ボタン穴かがり		A	薄地・普通地のねむり穴、横穴	5.0	3.0 ~ 5.0	0.5	0.2 ~ 1.0	自動止め ぬい	×
		A	力がかかるところの横穴	5.0	3.0 ~ 5.0	0.5	0.2 ~ 1.0	自動止め ぬい	×
		A	厚地の横穴	5.0	3.0 ~ 5.0	0.5	0.2 ~ 1.0	自動止め ぬい	×
		A	張りのある素材の両止め用	5.0	3.0 ~ 5.0	0.5	0.2 ~ 1.0	自動止め ぬい	×
		A	伸びる布地・編み地用	6.0	3.0 ~ 6.0	1.0	0.5 ~ 2.0	自動止め ぬい	×
		A	伸びる布地用	6.0	3.0 ~ 6.0	1.5	1.0 ~ 3.0	自動止め ぬい	×
		A	玉ぶち穴かがり（バウンドボタ ンホール）用	5.0	0.0 ~ 6.0	2.0	0.2 ~ 4.0	自動止め ぬい	×
	A	厚地・毛足の長い布地のはとめ 穴	7.0	3.0 ~ 7.0	0.5	0.3 ~ 1.0	自動止め ぬい	×	

名称	模様	押え	用途	振り幅		ぬい目の長さ		返しぬい スイッチ	ウォー キング フット
				自動	手動	自動	手動		
ボタン穴かがり	56	A	普通地・厚地のはとめ穴	7.0	3.0 ~ 7.0	0.5	0.3 ~ 1.0	自動止め ぬい	×
	57	A	厚地・毛足の長い布地の横穴	7.0	3.0 ~ 7.0	0.5	0.3 ~ 1.0	自動止め ぬい	×
ダーニング	58	A	普通地のつくりぬい	7.0	2.5 ~ 7.0	2.0	0.4 ~ 2.5	自動止め ぬい	×
	59	A	厚地のつくりぬい	7.0	2.5 ~ 7.0	2.0	0.4 ~ 2.5	自動止め ぬい	×
かんどめ	60	A	ぬい目がほどけやすい箇所、あ き止まり部分の補強用	2.0	1.0 ~ 3.0	0.4	0.3 ~ 1.0	自動止め ぬい	×
ボタン付け	61	M	ボタン付け	3.5	2.5 ~ 4.5	-	-	自動止め ぬい	×
アイレット	62	N	ベルトの穴かがりなど	7.0	7.0, 6.0, 5.0	7.0	7.0, 6.0, 5.0	自動止め ぬい	×
たち目かがり*	63	S	布地を切りながら直線ぬい	0.0	0.0 ~ 2.5	2.5	0.2 ~ 5.0	止めぬい	×
	64	S	布地を切りながらジグザグ	3.5	3.5 ~ 5.0	1.4	0.0 ~ 4.0	止めぬい	×
	65	S	布地を切りながら薄地・普通地 のたち目かがり	3.5	3.5 ~ 5.0	2.0	1.0 ~ 4.0	止めぬい	×
	66	S	布地を切りながら厚地のたち目 かがり	5.0	3.5 ~ 5.0	2.5	1.0 ~ 4.0	止めぬい	×
	67	S	布地を切りながら普通地・厚地 のたち目かがり	5.0	3.5 ~ 5.0	2.5	1.0 ~ 4.0	止めぬい	×

* : 別売のサイドカッターを使用します。

その他の模様

名称	模様										押え	大きさ	密度	長さ・幅 変更	左右 反転
飾り模様	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	N	-	×	○	○
	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20					
	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30*					
サテン ステッチ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	N	-	×	○	○
	11	12	13	14	15	16									
クロス ステッチ	1	2	3	4**	5**	6**	7**				N	-	×	○ (**不可)	○
飾り サテン	1	2	3	4	5	6	7	8	9		N	-	○	○ (長さのみ)	○
実用飾り 模様	1	2	3	4	5	6***	7	8	9	10	N	-	×	○ (*** 長さのみ)	○
	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20					
	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30					
	31	32	33	34	35	36	37	38	39						

* 調整用模様

文字模様

グループ	模様										押え	大きさ	左右反転
アルファベット (ゴシック体)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	N	大・小	○
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J			
	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20			
	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T			
	21	22	23	24	25	26							
	U	V	W	X	Y	Z							
27	28	29	30	31	32	33	34	35	36				
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9				
37	38	39	40	41	42	43	44	45	46				
&	?	!	-	≈	()	'	.	,					
47	48	49	50	51	52	53	54	55					
Ä	À	Æ	Ñ	Ö	Ø	Ç	Ü	ß					
アルファベット (筆記体)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	N	大	○
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J			
	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20			
	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T			
	21	22	23	24	25	26							
	U	V	W	X	Y	Z							
27	28	29	30	31	32	33	34	35	36				
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9				
37	38	39	40	41	42	43	44	45	46				
&	?	!	-	≈	()	'	.	,					
47	48	49	50	51	52	53	54	55					
Ä	À	Æ	Ñ	Ö	Ø	Ç	Ü	ß					
アルファベット (アウトライン)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	N	大・小	○
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J			
	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20			
	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T			
	21	22	23	24	25	26							
	U	V	W	X	Y	Z							
27	28	29	30	31	32	33	34	35	36				
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9				
37	38	39	40	41	42	43	44	45	46				
&	?	!	-	≈	()	'	.	,					
47	48	49	50	51	52	53	54	55					
Ä	À	Æ	Ñ	Ö	Ø	Ç	Ü	ß					

いろいろなぬい方

グループ	模様										押え	大きさ	左右反転		
ひらがな/ カタカナ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		N	大・小	○	
	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20					
	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30					
	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41				
	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51					
	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61					
	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72				
	73	74	75	76	77	78	79	80							
	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91				
	92	93	94	95	96	97	98	99	100	101					
	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111					
	112	113	114	115	116	117	118	119	120	121	122				
	123	124	125	126	127	128	129	130	131	132					
	133	134	135	136	137	138	139	140	141	142					
	143	144	145	146	147	148	149	150	151	152	153				
	154	155	156	157	158	159	160	161							
	162	163	164	165	166	167	168	169	170	171					
	172	173	174	175	176	177	178	179	180	181	182				
	183	184	185	186	187	188	189								
	190	191	192	193	194	195	196	197	198	199					
200	201	202	203	204											

ぬいしろを始末する

裁断した布端がほつれないように、たち目かがりをします。たち目かがりに使用できる模様は、全部で15模様あります。使用する押えごとにぬい方を説明します。

たち目かがり押え〈G〉を使ったたち目かがり

次の3模様を選択したときは、たち目かがり押え〈G〉を使用します。

名称	模様	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
			自動	手動	自動	手動	
たち目かがり	11	普通地・薄地のほつれ止め	3.5	2.5 ~ 5.0	2.0	1.0 ~ 4.0	G
	12	厚地・ほつれやすい布地のほつれ止め	5.0		2.5		
	13						

いろいろなぬい方

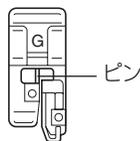
注意



- **押えの交換は、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。**万一、スタート/ストップスイッチまたは、他のスイッチが押されると、ミシンが作動してけがの原因となります。

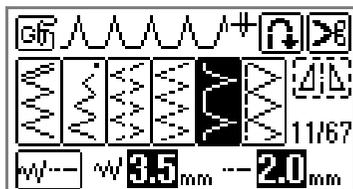
1 たち目かがり押え〈G〉を取り付けます。

- ・「押えを交換する」(→ P.44)を参照してください。

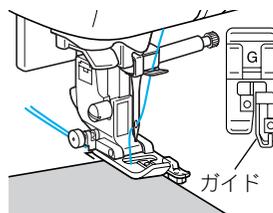


2 模様を選択します。

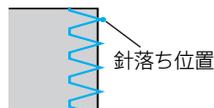
- ・「模様を選ぶ」(→ P.51)を参照してください。



3 押えのガイドと布端が合うように布地をセットし、押えを下げます。



4 布端を押えのガイドに沿わせてぬいます。



5 ぬい終わったらミシンを止め、針と押えを上げて、布地を後ろに引いて取り出します。

お願い

- ぬい終わった後は、布を後ろに引いてください。前方向や横方向に布を引っ張ると、押えのピンが破損するおそれがあります。

ジグザグ押え<J>を使ったたち目かがり

次の7模様を選択したときは、ジグザグ押え<J>を使用します。

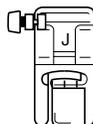
名称	模様	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
			自動	手動	自動	手動	
ジグザグ [中]	7	通常のほつれ止め (中基線/返しぬい)	3.5	0.0 ~ 7.0	1.4	0.0 ~ 4.0	J
ジグザグ [右]	8	通常のほつれ止め (右基線/止めぬい)		2.5 ~ 5.0		0.3 ~ 4.0	
2点ジグザグ	9	厚地・伸びる布地のほつれ止め	5.0	1.5 ~ 7.0	1.0	0.2 ~ 4.0	
3点ジグザグ	10						
たち目かがり	14	伸びる布地のほつれ止め	4.0	0.0 ~ 7.0	2.5	0.5 ~ 4.0	
	15	厚地・伸びる布地のほつれ止め					
	16	伸びる布地のほつれ止め				1.0 ~ 4.0	

注意



- 押えの交換は、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。万一、スタート/ストップスイッチまたは、他のスイッチが押されると、ミシンが作動してけがの原因となります。

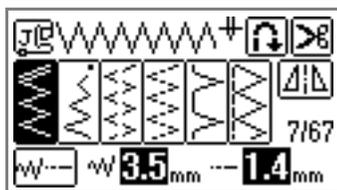
1 ジグザグ押え<J>を取り付けます。



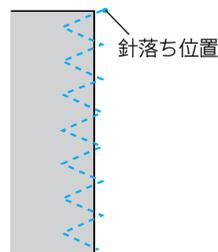
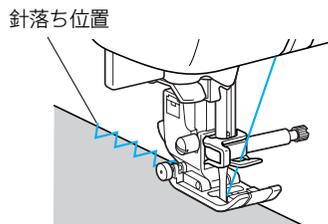
- ・「押えを交換する」(→ P.44)を参照してください。

2 模様を選択します。

- ・「模様を選ぶ」(→ P.51)を参照してください。



3 布端より少し外側に針を落としてぬいます。



サイドカッター押え<S>(別売)を使ったたち目かがり

別売のサイドカッター押え<S>を使用して、布端を切りながらぬいしろを始末することができます。液晶画面で模様「S」と表示されている次の5模様から選択します。

名称	模様	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
			自動	手動	自動	手動	
たち目かがり	63 	布地を切りながら直線ぬい	0.0	0.0 ~ 2.5	2.5	0.2 ~ 5.0	S
	64 	布地を切りながらジグザグ	3.5	3.5 ~ 5.0	1.4	0.0 ~ 4.0	
	65 	布地を切りながら薄地・普通地のほつれ止め			2.0	1.0 ~ 4.0	
	66 	布地を切りながら厚地のほつれ止め	5.0	2.5			
	67 	布地を切りながら厚地のほつれ止め					

注意

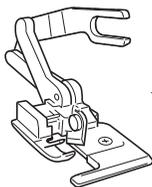


- 押えの交換は、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。万一、スタート/ストップスイッチまたは、他のスイッチが押されると、ミシンが作動してけがの原因となります。



お願い

- サイドカッター押えを使用するときは、手で針に糸を通すか(→P.40)、サイドカッター押えを取り付ける前に糸通し装置で糸を通してください。



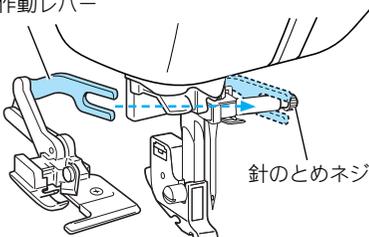
サイドカッター押え<S>

1 押えを取り外します。

- ・「押えを交換する」(→P.44)を参照してください。

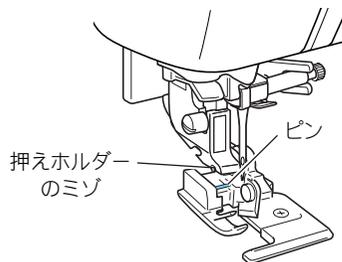
2 サイドカッター押え<S>の作動レバーのふたまた部分で、針のとめネジの棒を後ろからはさみます。

作動レバー



針のとめネジ

3 サイドカッター押え<S>のピンと押えホルダーのミゾが合う位置にサイドカッター押え<S>を置き、押えレバーをゆっくり下げます。

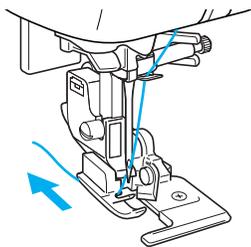


押えホルダーのミゾ

- ▶ サイドカッター押え<S>が取り付けられます。

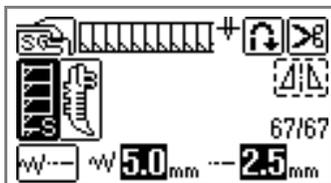
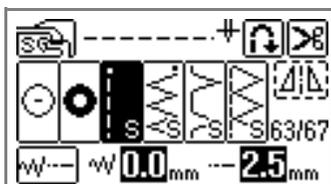
4 押えレバーを上げて、サイドカッター押え<S>が取り付けられていることを確認します。

- 5 上糸はサイドカッター押え<S>の下を通して、後ろ側に引き出します。

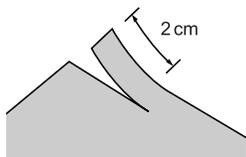


- 6 模様を選択します。

・「模様を選ぶ」(→P.51)を参照してください。

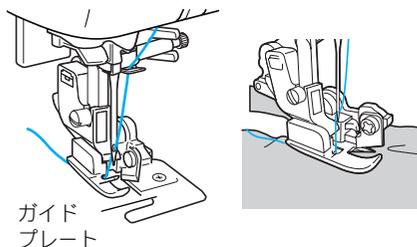


- 7 布地のぬい始めの部分に2cmの切り込みを入れます。



- 8 布地をセットします。

布地の切り込みを入れた右の部分、サイドカッター押え<S>のガイドプレートの上に置きます。

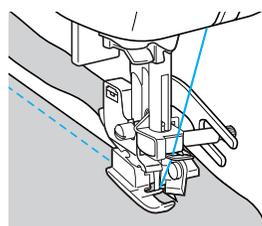


ガイドプレート

お知らせ

- 布地を正しく置かないと、布地が切れません。布地の進みが悪い時は布地に手を添えて後ろ方向に押してください。

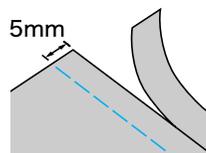
- 9 押えレバーを下げ、ミシンをスタートさせます。



- ▶ ぬいしろを裁断しながらぬっていきます。

お知らせ

- 模様を直線⁶³にしてぬった場合、ぬいしろは約5mmになります。



- サイドカッター押え<S>で切れる布地の厚さは、13オンスデニム1枚程度までです。
- サイドカッター押え<S>を使用したあとは、糸くずやほこりを取り除いてください。
- 布地が切れなくなってきたときは、サイドカッター押え<S>の刃を少量の油を含ませた布でふいてください。

布をぬい合わせる / しつけぬいをする

基本となる直線ぬいをします。直線ぬいは、次の5模様から選択します。

名称	模様	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
			自動	手動	自動	手動	
しつけぬい		仮止め			-	-	
直線 [左]		地ぬい、ギャザー、ピントックなど (左基線/返しぬい)	0.0	0.0 ~ 7.0	2.5	0.2 ~ 5.0	J
		地ぬい、ギャザー、ピントックなど (左基線/止めぬい)					
直線 [中]		地ぬい、ギャザー、ピントックなど (中基線/返しぬい)	3.5				
三重ぬい		ぬい目を丈夫にしたいとき、伸びる布地のとき	0.0			1.5 ~ 4.0	

※地ぬいとは、2枚以上の布をぬい合わせることで。

⚠ 注意



- **押えの交換は、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。** 万一、スタート/ストップスイッチまたは、他のスイッチが押されると、ミシンが作動してけがの原因となります。

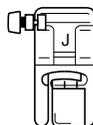
いろいろなぬい方

しつけぬい

5mmの長さのぬい目でしつけぬいをします。

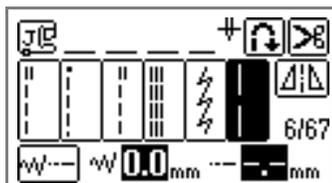
1 ジグザグ押え<J>を取り付けます。

- ・「押えを交換する」(→ P.44)を参照してください。



2 模様 を選択します。

- ・「模様を選ぶ」(→ P.51)を参照してください。



3 ミシンをスタートさせます。

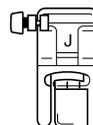
- ・「ミシンをスタートさせる」(→ P.56)を参照してください。

布をぬい合わせる

1 ぬい合わせる場所を、しつけまたはまち針で留めます。

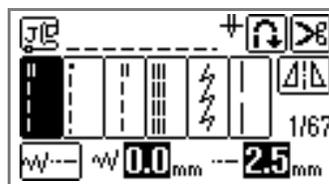
2 ジグザグ押え<J>を取り付けます。

- ・「押えを交換する」(→ P.44)を参照してください。



3 模様を選択します。

- ・「模様を選ぶ」(→ P.51)を参照してください。



4 プーリーを手前に回してぬい始めの位置に針を刺します。

5 押えレバーを下げ、ミシンをスタートさせます。

- ・「ミシンをスタートさせる」(→ P.56) を参照してください。
- ・返しぬいをする場合は、「返しぬい/止めぬいをする」(→P.58) を参照してください。

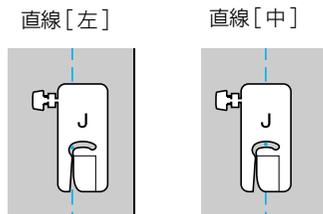
6 ぬい終わったら、糸を切ります。

- ・「糸を切る」(→P.60) を参照してください。

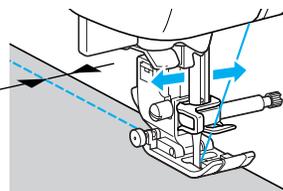
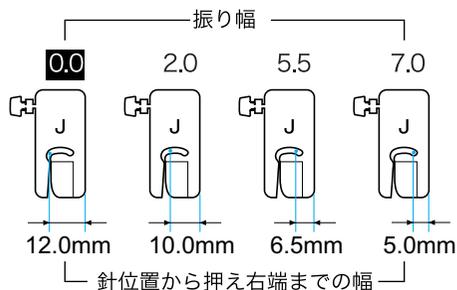


■ 針位置を変えるとき

直線 [左] と直線 [中] は、基線となる針位置が異なります。



直線 [左] は、ジグザグの振り幅が標準の設定 (0.0mm) のときに、針位置から押えの右端まで 12mm あります。振り幅を変更 (0.0 ~ 7.0mm) すると、針位置が変わります。押えの右端に布端を合わせてぬうと、一定の幅でぬうことができます。



🔔 お知らせ

- 「模様幅を調節する」(→ P.61) を参照してください。

すそ上げをする

スカートやズボンのすそをまつります。まつりぬいは、次の2模様から選択します。

名称	模様	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
			自動	手動	自動	手動	
まつりぬい	17 	普通地のまつりぬい	00	3 ← ~ → 3	2.0	1.0 ~ 3.5	R
	18 	伸びる布地のまつりぬい					

注意



- 押えの交換は、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。万一、スタート/ストップスイッチまたは、他のスイッチが押されると、ミシンが作動してけがの原因となります。

次の手順でまつりぬいをします。



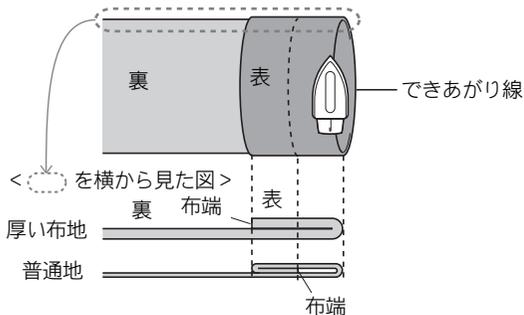
お知らせ

- 筒の大きさがアームに入らないほど小さいときや、筒の長さが短いときは、布地がうまく送られず、きれいに仕上がらないことがあります。

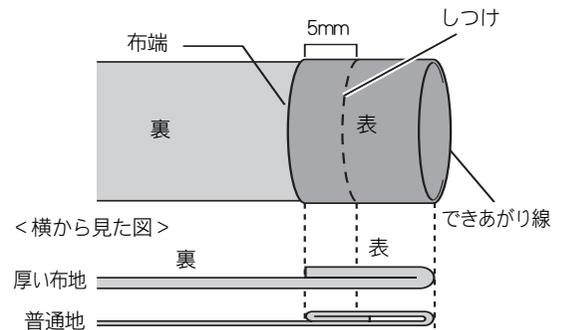
- 1 すそ上げをするスカートやズボンを裏返します。



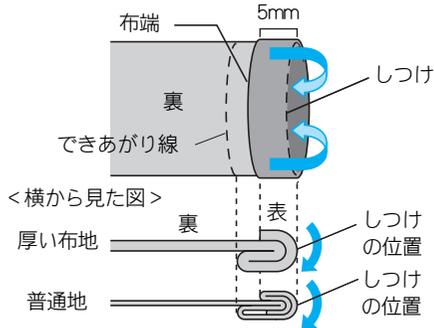
- 2 できあがり線で布を表に戻し、アイロンをかけます。



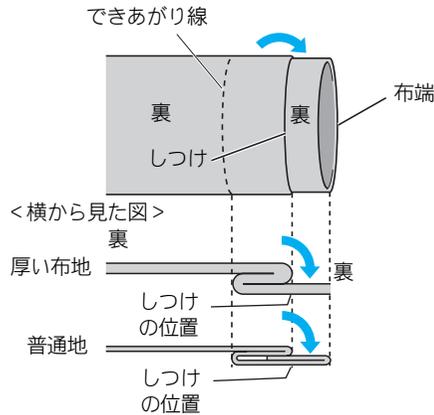
- 3 布端から約5mmのところからチャコペンで印をつけ、しつけをします。



- 4** しつけをしたところから、内側へ折り込みみます。

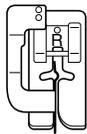


- 5** 布端を開いて裏返します。



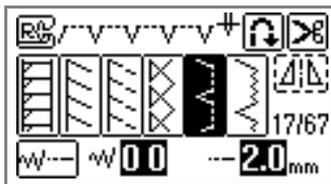
- 6** まつりぬい押え (R) を取り付けます。

・「押えを交換する」(→ P.44) を参照してください。



- 7** 模様を選択します。

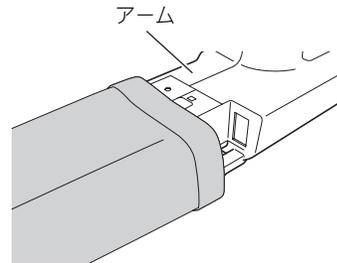
・「模様を選ぶ」(→ P.51) を参照してください。



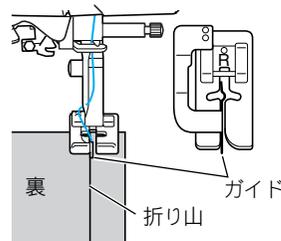
- 8** ミシンをフリーアームにします。

・「フリーアームにする」(→ P.47) を参照してください。

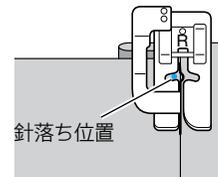
- 9** アームに布地を入れ、布地を回すことができるのを確認します。



- 10** 押えのガイドと布地の折り山が合うように布地をセットし、押えを下げます。

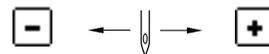


- 11** プーリーをゆっくり手前に回して針を下げ、針が折り山に少ししかかる位置にあるか確認します。



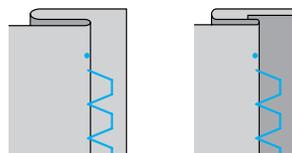
針落ち位置を変更するときは、針を上げてからジグザグの振り幅を変更します。

ジグザグの振り幅



厚い布地

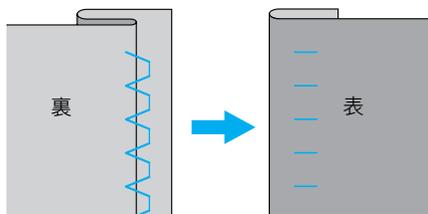
普通地



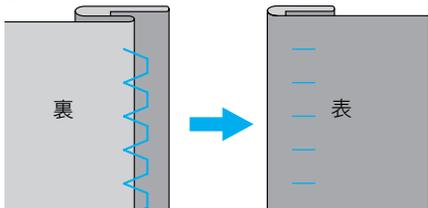
■ 針がかかりすぎているとき

針が左側にいきすぎています。
振り幅の **+** を押して針位置を右に動かし、針が折り山に少しかかるように調節します。

厚い布地



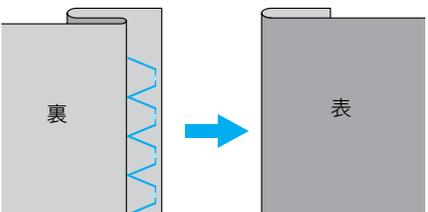
普通地



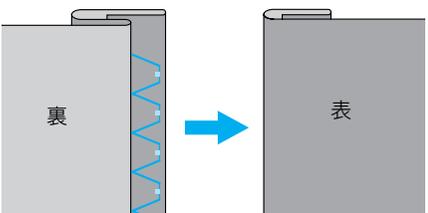
■ 針がかかっていないとき

針が右側にいきすぎています。
振り幅の **-** を押して針位置を左に動かし、針が折り山に少しかかるように調節します。

厚い布地



普通地



お知らせ

- 「模様の幅を調節する」 (→ P.61) を参照してください。

12 折り山に押えのガイドを沿わせてぬい
ます。

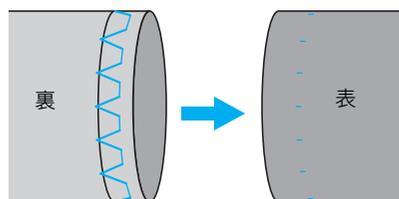
13 ぬい終わったらミシンを止め、針と押えを
上げて、布地を後ろに引いて取り出しま
す。



お願い

- ぬい終わった後は、布を後ろに引いてくださ
い。前方向や横方向に布を引っ張ると、押え
が破損するおそれがあります。

14 しつけをほどき、布地を表に戻します。



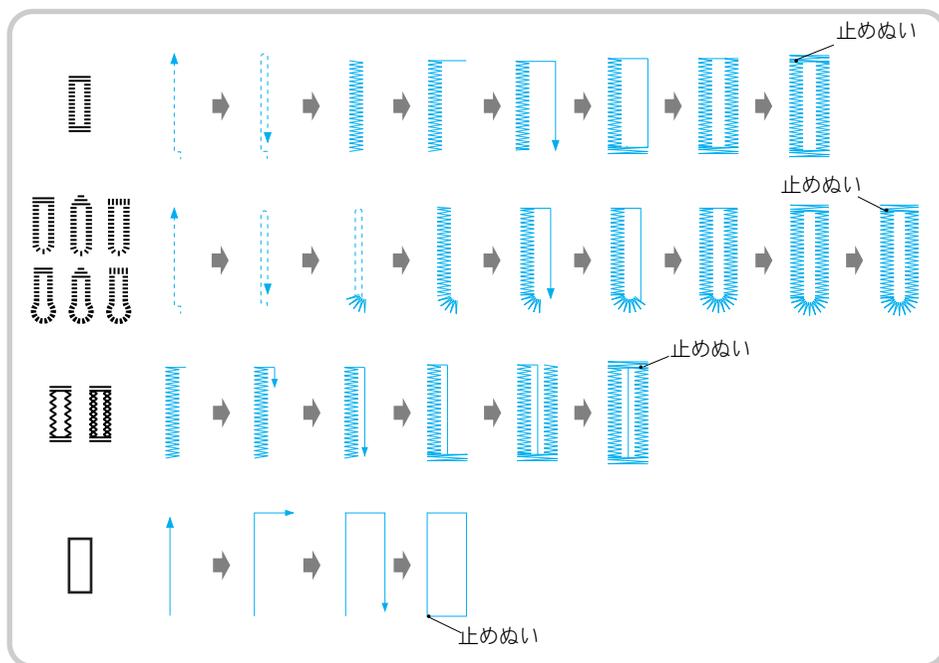
ボタン穴かがりをする／ボタンを付ける

ボタン穴を作ったり、ボタンをぬい付けたりします。ボタン穴は、用途に合わせて次の10模様から選択します。

名称	模様	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
			自動	手動	自動	手動	
ボタン穴かがり	48 	薄地・普通地のねむり穴、横穴	5.0	3.0 ~ 5.0	0.5	0.2 ~ 1.0	A
	49 	力がかかる場所の横穴					
	50 	厚地の横穴					
	51 	張りのある素材の両止め用					
	52 	伸びる布地・編み地用	6.0	3.0 ~ 6.0	1.0	0.5 ~ 2.0	
	53 	伸びる布地用			1.5	1.0 ~ 3.0	
	54 	玉ぶち穴かがり (バウンドボタンホール)	5.0	0.0 ~ 6.0	2.0	0.2 ~ 4.0	
	55 	厚地・毛足の長い布地のはとめ穴	7.0	3.0 ~ 7.0	0.5	0.3 ~ 1.0	
	56 	普通地・厚地のはとめ穴					
	57 	厚地・毛足の長い布地の横穴					
ボタン付け	61 	ボタン付け	3.5	2.5 ~ 4.5	-	-	M

ボタン穴かがりをする

「ボタンの直径+厚み」が約 28mm 以下のボタン穴を作ることができます。
ボタン穴かがりは、次の順で押えの手前から後ろに向かってぬっていきます。



いろいろなぬい方

注意



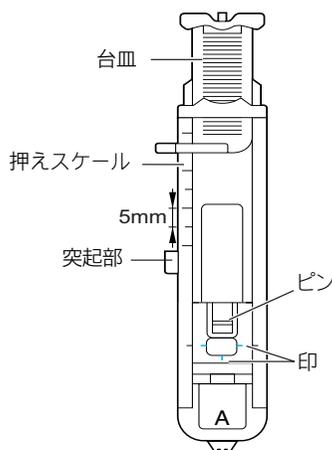
- 押えの交換は、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。万一、スタート/ストップスイッチまたは、他のスイッチが押されると、ミシンが作動してけがの原因となります。



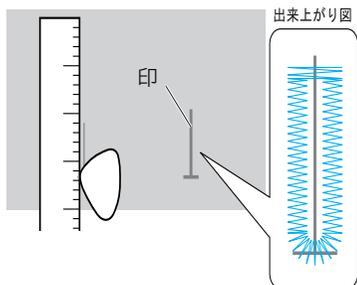
お知らせ

- ボタン穴かがりをするときは、ぬい目の長さや振り幅を確認するため、必ず試しぬいをしましょう。

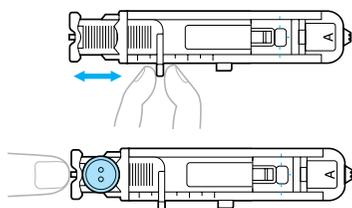
ボタン穴かがりで使用するボタン穴かがり押え <A> の各部の名称は次のとおりです。



- 1 ボタン穴かがりをする位置にチャコペンなどで印を付けます。

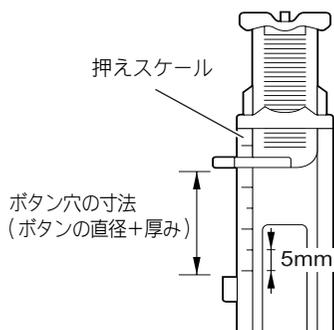


- 2 ボタン穴かがり押え<A>の台皿を引き出し、ボタンをのせてはさみます。

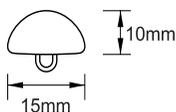


ボタンが台皿にのらないとき

「ボタンの直径+厚み」を、押えスケールの目盛り（1目盛り5mm）に合わせて、ボタンホールの大きさを決めます。



[例] 直径 15mm、厚み 10mm のボタンの場合
→スケールを 25mm に合わせる



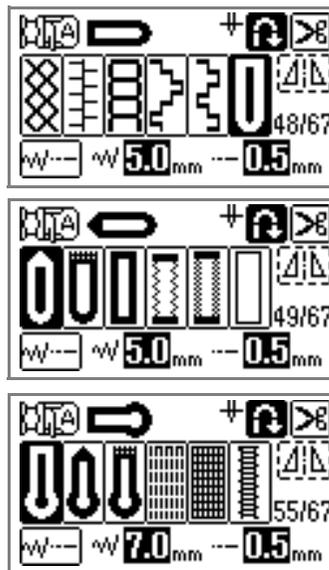
▶ ボタン穴かがりの大きさが決まります。

- 3 ボタン穴かがり押え<A>を取り付けます。

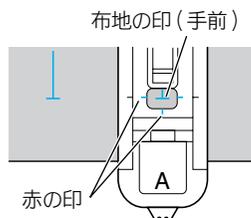
・「押えを交換する」(→ P.44) を参照してください。

- 4 模様を選択します。

・「模様を選ぶ」(→ P.51) を参照してください。



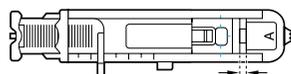
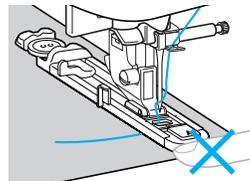
- 5 押えの赤の印と布地の印の手前側を合わせ、押えを下げます。



上糸は押えの穴から押えの下に通しておきます。

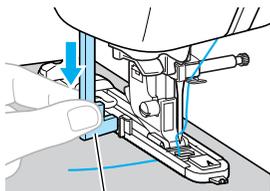
お願い

- 印を合わせるときに、布地に針を刺さないでください。上手くぬえないことがあります。
- 押えを下げるときに、押えの手前部分を押しさないでください。ボタン穴かがりを正確な大きさにぬえません。



すき間をなくさない

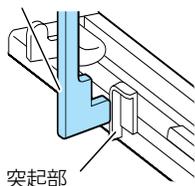
- 6 ミシン本体のボタン穴かがりレバーを一番下まで引き下げます。



ボタン穴かがりレバー

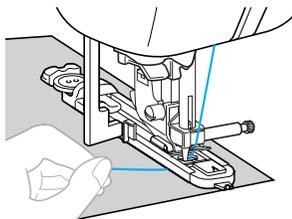
ボタン穴かがりレバーが、押えの突起部の後ろ側になるようにします。

ボタン穴かがりレバー



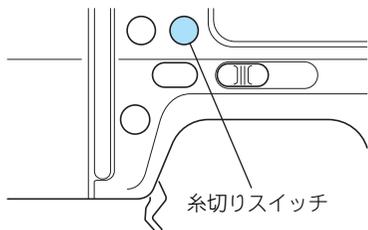
突起部

- 7 左手で上糸を軽く持ち、ミシンをスタートさせます。



▶ 後ろに向かってぬっていきます。ぬい終わると、自動的に止めぬいをしてストップします。

- 8 ぬい終わりの位置で  (糸切りスイッチ) を1回押します。



糸切りスイッチ

▶ 糸が切れ、針が上に上がります。

- 9 押えレバーを上げて、布地を取り出します。

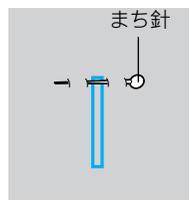


お知らせ

- プログラム糸切りを設定すると、ぬい終わりの位置にきたときに、返しぬいまたは止めぬいをしてから、自動で糸を切ります。詳細は「自動で糸を切る」(→ P.65) を参照してください。
- ミシン本体左側面の糸切り、またははさみを使って糸を切るときは、 (針上スイッチ) を1回押して針を上げてから押えレバーを上げ、次に布地を左へ引いてから、糸を切ります。詳細は「糸切りを使う」(→ P.60) を参照してください。

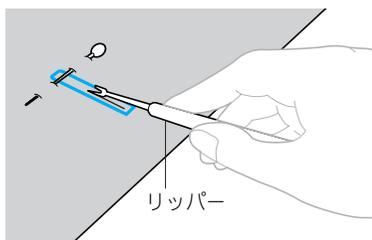
- 10 ボタン穴かがりレバーをもとに戻します。

- 11 ぬった部分を切らないように、かんぬき止めの内側にまち針を刺します。

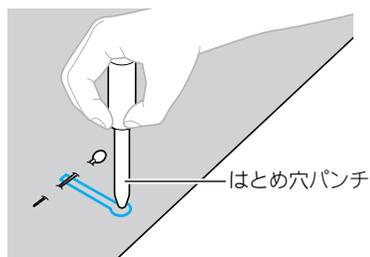


まち針

12 付属のリッパーでボタン穴を切り開きます。



はとめ穴の場合は、付属のはとめ穴パンチで穴をあけてから、リッパーで切り開きます。



お願い

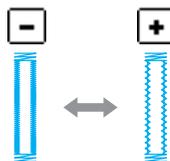
- はとめ穴パンチを使用するときは、布地の下に厚紙などを敷いてください

注意



- リッパーで穴をあける方向に、手や指を置かないでください。すべったときにけがをするおそれがあります。(本来の目的以外での使用はしないでください。)

■ ぬい目のあらさを変えるとき
ぬい目の長さを調節します。

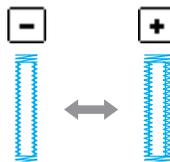


お知らせ

- 「ぬい目の長さを調節する」(→ P.62) を参照してください。
- 厚地の場合などで布地が進まないときは、ぬい目をあらくします。

■ 模様幅を変えるとき

ジグザグの振り幅を調節します。



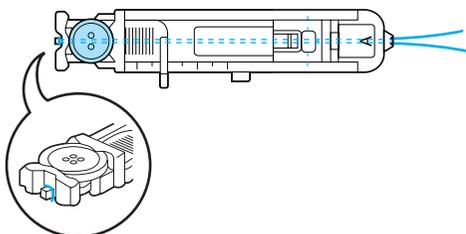
お知らせ

- 「模様幅を調節する」(→ P.61) を参照してください。

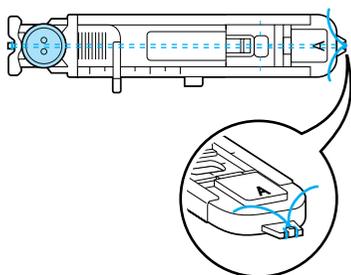
■ 伸びる布地をぬうとき

伸びる布地にボタン穴かがりをするとき、芯ひもを入れてぬいます。

- 1 ボタン穴かがり押え<A>の図の部分に芯ひもをかけます。



- 2 芯ひもの端を反対側のミゾにはさんで軽く結びます。



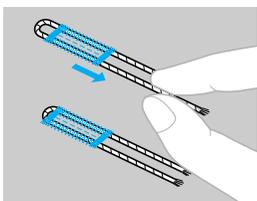
- 3 ボタン穴かがり押え<A>を取り付けます。
・「押えを交換する」(→ P.44)を参照してください。

- 4 模様⁵² または⁵³ を選択します。

- 5 芯ひもの太さより大きめに振り幅を設定します。

- 6 押えレバーとボタン穴かがりレバーを下げて、ミシンをスタートさせます。

- 7 ぬい終わったら、芯ひもを引いてたるみをなくします。

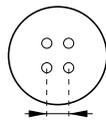


- 8 手ぬい針を使用して布地の裏側に芯ひもを引き出して結びます。

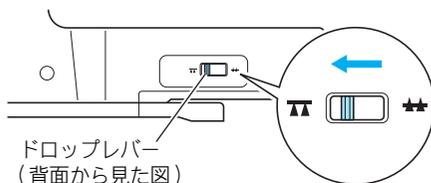
ボタンを付ける

ボタンをぬい付けます。穴が2つまたは4つのボタンが付けられます。

- 1 ぬい付けるボタンの穴の距離を測ります。



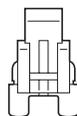
- 2 押えレバーを上げ、ミシン本体背面下側にあるドロップレバーを背面から見て左側(▲)にします。



ドロップレバー
(背面から見た図)

▶ 送り歯が下がります。

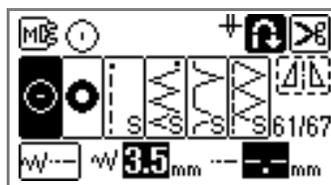
- 3 ボタン付け押え<M>を取り付けます。



・「押えを交換する」(→ P.44)を参照してください。

- 4 模様⁶¹ を選択します。

・「模様を選ぶ」(→ P.51)を参照してください。

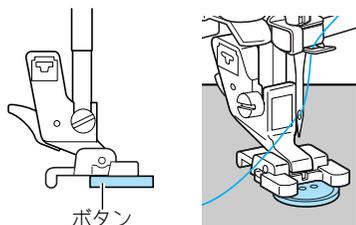


お願い

- あとで糸端を結ぶので、プログラム糸切りは設定しないでください。

5 ジグザグの振り幅を穴の距離に合わせます。

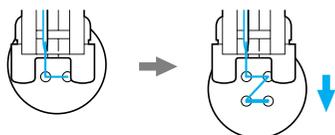
6 ぬい付ける位置にボタンを置き、押えレバーを下げます。



▶ ボタンの位置が固定されます。

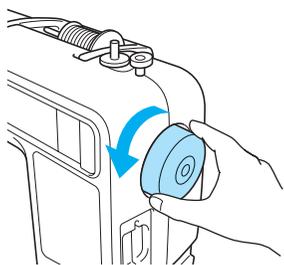
お知らせ

- 4つ穴のボタンを付けるときは、手前の穴を先にぬいます。手前の穴がぬい終わったら、ボタンをずらして後ろの穴に合わせ、もう一度ぬいます。



7 プーリーを手前に回し、針がボタンに当たらずにボタン穴に交互に入るか確認します。

針がボタンに当たりそうな場合は、ボタン穴の距離を計り直します。

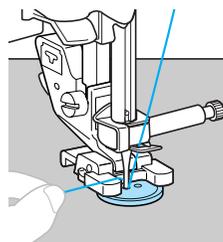


注意



- ぬう際には、ボタンに針が当たらないように注意してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

8 ミシンをスタートさせます。スピードコントロールレバーは「ゆっくり」にします。



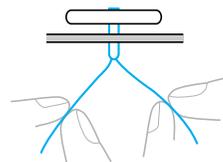
▶ ぬい終わると、自動的に止めぬいをしてストップします。

お願い

- あとで糸端を結ぶので、⊗ (糸切りスイッチ) は使用しないでください。

9 ぬい終わりの上糸を布地の裏に引き出し、下糸と結びます。

ぬい始めの上糸と下糸は、はさみで切ります。



10 ボタン付けが終わったら、ドロップレバーを背面から見て右側 (★★) にし、プーリーを回して送り歯をもとに戻します。

お知らせ

- ドロップレバーは通常、右側にしておきます。

ファスナーを付ける

ファスナーをぬい付けます。

名称	模様	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
			自動	手動	自動	手動	
直線 [中]		ファスナー付け おとしミシンやピンタック	3.5	0.0 ~ 7.0	2.5	0.2 ~ 5.0	I

注意

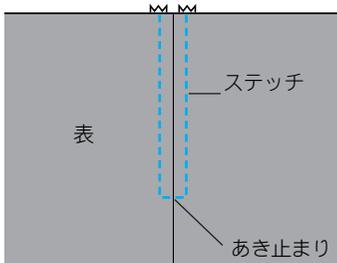


- 押えの交換は、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。万一、スタート/ストップスイッチまたは、他のスイッチが押されると、ミシンが作動してけがの原因となります。

ファスナーの付け方によってぬい方が異なります。ここでは、つき合わせと片返しの場合のぬい方を説明します。

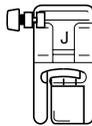
つき合わせ

つき合わせた布地の両方にステッチが入ります。



1 ジグザグ押え<J>を取り付けます。

- ・「押えを交換する」(→ P.44)を参照してください。

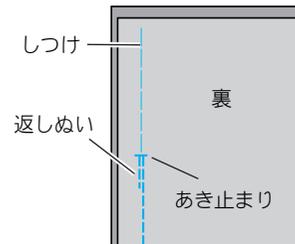


2 あき止まりから下側に地ぬいをします。

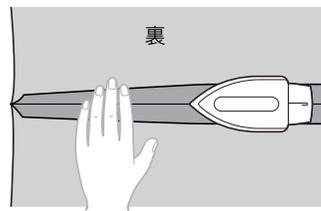
布地は中表にし、あき止まりは返しぬいをします。

- ・「布をぬい合わせる / しつけぬいをする」(→ P.83)を参照してください。

3 ファスナーを付ける部分のでき上がり線にしつけをします。

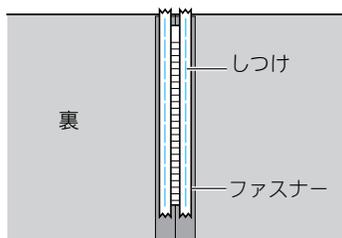


4 ぬいしろを割り、裏からアイロンをかけます。

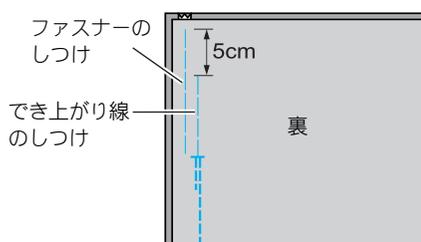


いろいろなぬい方

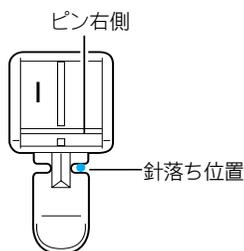
- 5 ぬい目とファスナーの中央を合わせて、しつけをします。



- 6 でき上がり線のしつけを布端から 5cm 程度ほどきみます。



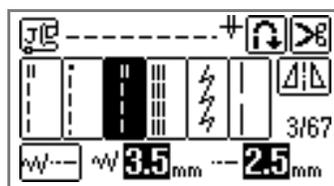
- 7 片押え (D) のピンの右側を押えホルダーに取り付けます。



- ・「押えを交換する」(→ P.44) を参照してください。

- 8 模様³ (I) を選択します。

- ・「模様を選ぶ」(→ P.51) を参照してください。



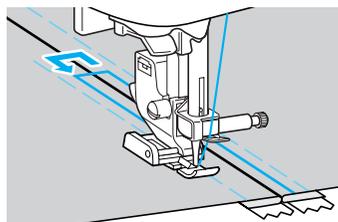
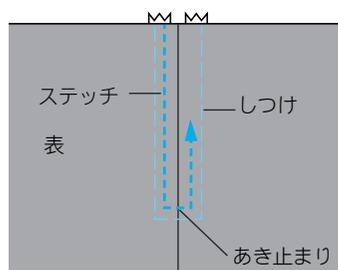
注意



- 片押え (D) を使用するときは、必ず直線 [中] を使用し、プーリーをゆっくりと手前に回して針が押えに当たらないことを確認してください。他の模様を使用すると、針が押えに当たり、折れたり曲がったりするおそれがあります。

- 9 布地の表からステッチをかけます。

ファスナーのスライダーが押えに当たる場合は、スライダーを何回か動かしながらステッチをかけます。



注意

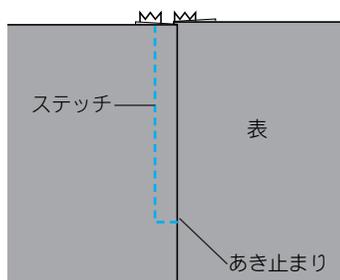


- ぬう際には、ファスナーに針が当たらないように注意してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

- 10 しつけをほどきます。

片返し

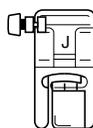
布地の片側にステッチが入ります。脇ファスナーや後ろファスナーのときに使用します。



ここでは、脇ファスナーの場合を例に説明します。

1 ジグザグ押え<J>を取り付けます。

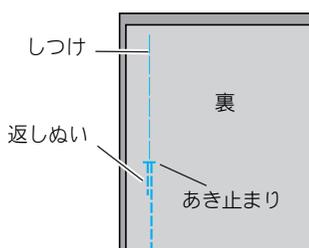
- ・「押えを交換する」(→ P.44)を参照してください。



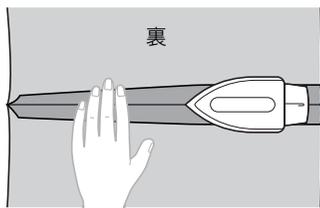
2 あき止まりから下側に地ぬいをします。

- ・「布をぬい合わせる / しつけぬいをする」(→ P.83)を参照してください。

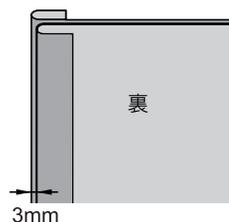
3 ファスナーを付ける部分のでき上がり線にしつけをします。



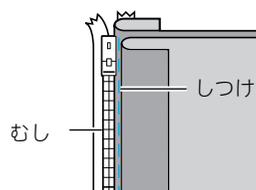
4 ぬいしろを割り、裏からアイロンをかけます。



5 右側(ステッチが入らない方)のぬいしろを3mm出してアイロンをかけます。

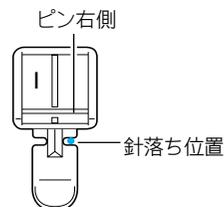


6 3mm出した折り山とファスナーのむしの端を合わせて、しつけまたはまち針で留めます。



7 片押え<I>のピンの右側を押えホルダーに取り付けます。

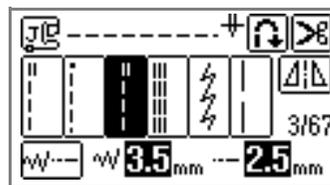
- 例と反対側をぬう場合は、左側のピンを取り付けます。



- ・「押えを交換する」(→ P.44)を参照してください。

8 模様³を選択します。

- ・「模様を選ぶ」(→ P.51)を参照してください。

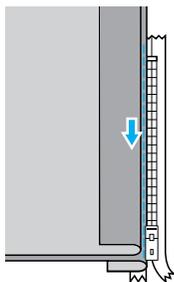


注意



- 片押え<I>を使用するときは、必ず直線[中]を使用し、プーリーをゆっくりと手前に回して針が押えに当たらないことを確認してください。他の模様を使用すると、針が押えに当たり、折れたり曲がったりするおそれがあります。

- 9 3 mm 出した折り山部分を、あき止まりの方からぬいます。



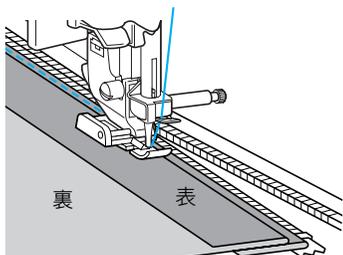
注意



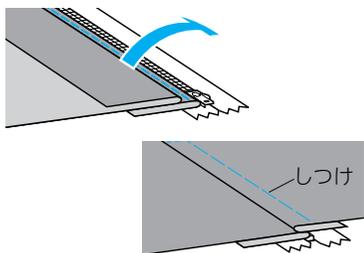
● ぬう際には、ファスナーに針が当たらないように注意してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

- 10 残り 5cm ほどまでぬったらミシンをストップさせ、針を下げたまま押えを上げます。

- 11 ファスナーを開いて続きをぬいます。

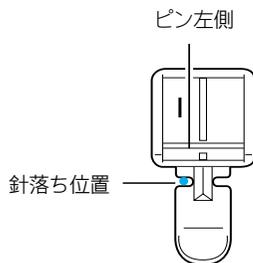


- 12 ファスナーをとじて表に返し、反対側をしつけします。



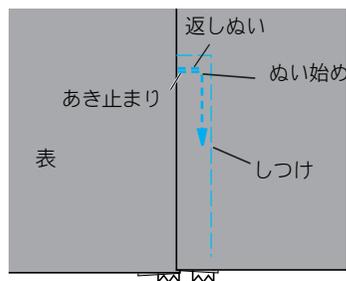
- 13 片押え ① のピンの左側を押えホルダーに取り付けます。

⑦ で左側に取り付けた場合は、右側に取り付けます。



- 14 布地の表からステッチをかけます。

あき止まり側から返しぬいをし、しつけをめやすにしています。



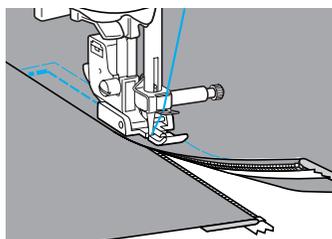
注意



● ぬう際には、ファスナーに針が当たらないように注意してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

- 15 残り 5cm ほどまでぬったらミシンをストップさせ、針を下げたまま押えを上げます。

- 16 でき上がり線のしつけをほどいてファスナーを開き、続きをぬいます。



伸びる布地やゴムテープをぬう

伸びる布地をぬったり、ゴムテープをぬい付けたりします。

名称	模様	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
			自動	手動	自動	手動	
三重ぬい	4 	伸びる布地	0.0	0.0 ~ 7.0	2.5	1.5 ~ 4.0	J
伸縮ぬい	5 	伸びる布地	1.0	1.0 ~ 3.0	2.5	1.0 ~ 4.0	
2点ジグザグ	9 	ゴムテープ付け	5.0	1.5 ~ 7.0	1.0	0.2 ~ 4.0	
3点ジグザグ	10 						
ゴムひもつけ	34 	伸びる布地のゴムテープ付け	4.0	0.0 ~ 7.0			

いろいろなぬい方

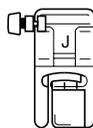
注意



- **押えの交換は、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。** 万一、スタート/ストップスイッチまたは、他のスイッチが押されると、ミシンが作動してけがの原因となります。

伸縮ぬい

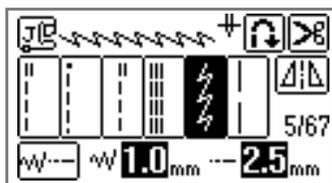
1 ジグザグ押え<J>を取り付けます。



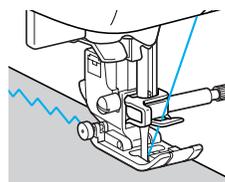
- ・「押えを交換する」(→ P.44) を参照してください。

2 模様 4 または 5 を選択します。

- ・「模様を選ぶ」(→ P.51) を参照してください。



3 布地を伸ばさないようにぬいます。

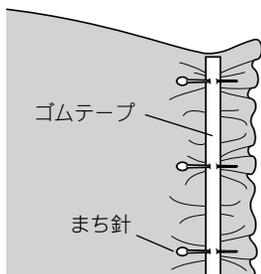


ゴムテープ付け

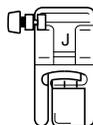
そで口やウエストなどにゴムテープをぬい付ける場合、ゴムテープが縮んでいる状態ができ上がり寸法になります。必要な長さのゴムテープを用意します。

1 まち針で布地の裏側にゴムテープを留めます。

布地とゴムテープが均等になるように数か所留めます。



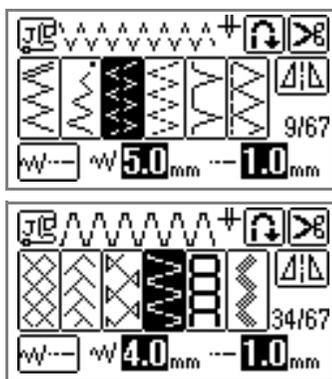
2 ジグザグ押え<J>を取り付けます。



・「押えを交換する」(→ P.44) を参照してください。

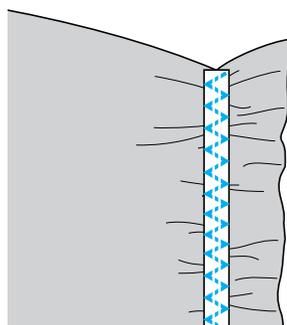
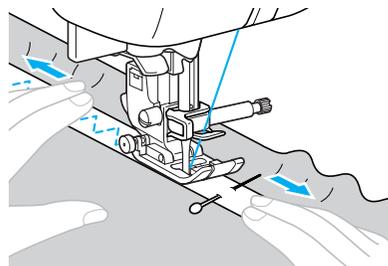
3 模様を選択します。

・「模様を選ぶ」(→ P.51) を参照してください。



4 ゴムテープが布地と同じ長さになるように伸ばしながらぬいます。

左手で後ろ側の布地を引っ張り、右手で押えに一番近いまち針のところを引っ張ります。



注意



● ぬう際には、まち針などが針に当たらないように注意してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

アップリケ／パッチワーク／キルトをぬう

アップリケやパッチワーク、キルトをぬうときに使用する模様について説明します。
キルトをぬうときは、別売のフットコントローラーを使用すると便利です。フットコントローラーの使い方については、「フットコントローラー（別売）を使う」（→P.57）を参照してください。

名称	模様	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
			自動	手動	自動	手動	
ジグザグ		アップリケ布のぬい付け (中基線／返しぬい)	3.5	0.0 ~ 7.0	1.4	0.0 ~ 4.0	J
		アップリケキルト、フリーモーションキルト					
アップリケ		アップリケ布のぬい付け	1.5	0.5 ~ 3.5	1.2	1.0 ~ 4.0	
		アップリケ、バインディング					
ピーシング直線		ピーシング用直線 (押え右端から 7mm のぬいしろ)	5.0	0.0 ~ 7.0	1.6	0.2 ~ 5.0	
		ピーシング用直線 (押え左端から 7mm のぬいしろ)	2.0				
つき合わせ		パッチワーク	4.0	2.5 ~ 7.0	2.5	1.0 ~ 4.0	
							
							
手ぬい風直線		手ぬい風キルト直線	0.0	0.0 ~ 7.0	2.5	1.0 ~ 4.0	
キルティング模様		飾りぬい	7.0				1.0 ~ 7.0



お知らせ

- 液晶画面に「Q」と表示されている模様はキルティング用、「P」はピーシング用の模様です。

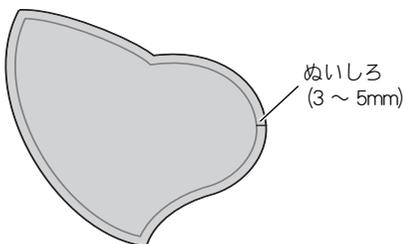
注意



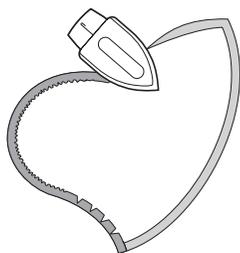
- 押えの交換は、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。万一、スタート/ストップスイッチまたは、他のスイッチが押されると、ミシンが作動してけがの原因となります。

アップリケ

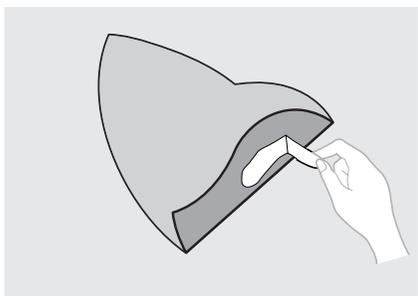
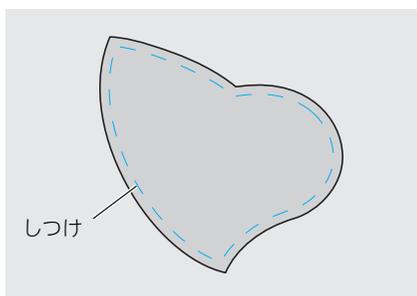
- 1 アップリケ布に3~5mmのぬいしろを付けて裁ちます。



- 2 アップリケ布の裏に厚紙の型紙を置き、アイロンでぬいしろを内側に折ります。カーブの部分は、必要に応じて切り込みを入れます。

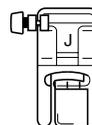


- 3 アップリケ布を表に返し、土台になる布地にしつけまたはのりで留めます。



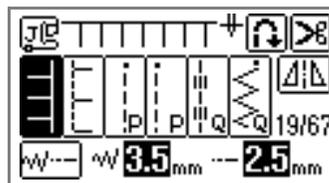
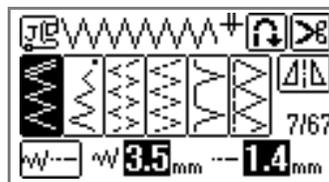
- 4 ジグザグ押え<J>を取り付けます。

・「押えを交換する」(→ P.44) を参照してください。

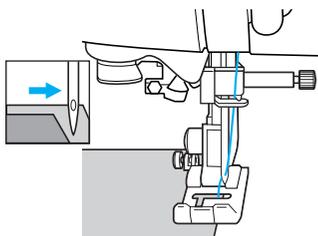


- 5 模様を選択します。

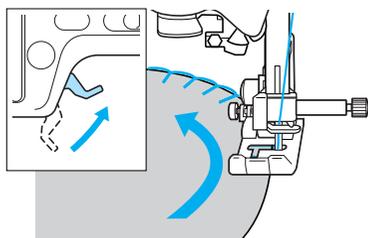
・「模様を選ぶ」(→ P.51) を参照してください。



- 6 プーリーを手前に回し、アップリケ布の端から少し外側に針が刺さるようにしてぬい始めます。

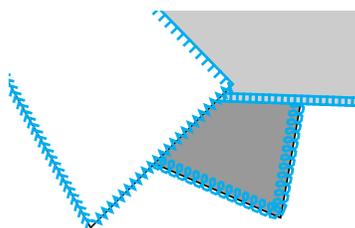
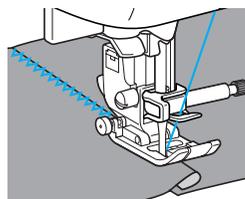


急な角度をぬうときは、アップリケ布の外側に針を刺したまま、押えを上げて少しずつ方向を変えながらぬいます。



パッチワーク (クレイジーキルト)

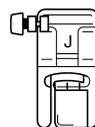
- 1 上側になる布地の端を折って下側の布地と重ねます。
- 2 両方の布地に模様がまたがるようにぬいます。



ピーシング

パッチワークで布と布（ピース）をぬい合わせることを、「ピーシング」といいます。布地は、すべて7mmのぬいしろを付けて裁断します。ピーシング用直線は、押えの右端、または左端から7mmのところをぬいます。

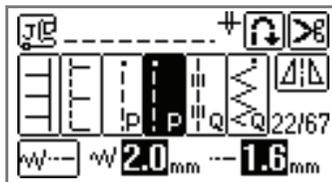
- 1 ピーシングする布地のぬいしろを、しつけまたはまち針で留めます。
- 2 ジグザグ押え〈J〉を取り付けます。



・「押えを交換する」(→ P.44) を参照してください。

3 模様²¹ または²² を選択します。

・「模様を選ぶ」(→P.51) を参照してください。



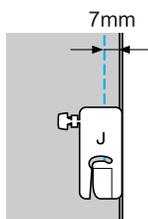
お知らせ

- ピーシング用直線は、液晶画面に「P」と表示されています。

4 押えの端に布端を合わせてぬいます。

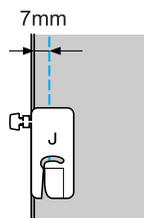
ぬいしろが右側のとき

押えの右端に布端を合わせ、²¹ の模様でぬいます。



ぬいしろが左側のとき

押えの左端に布端を合わせ、²² の模様でぬいます。

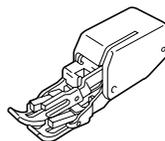


お知らせ

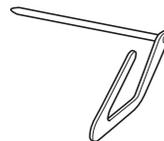
- ぬいしろの幅を変更する(針位置を変更する)場合は、「針位置を変えるとき」(→P.84) を参照してください。

キルティング

表布と裏布の間にキルト綿をはさんでぬい合わせることを、「キルティング」といいます。別売のウォーキングフットやキルターを使用すると、きれいにぬうことができます。



ウォーキングフット
(別売)



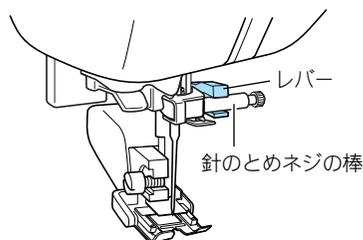
キルター (別売)

1 キルティングする布地をしついで留めます。

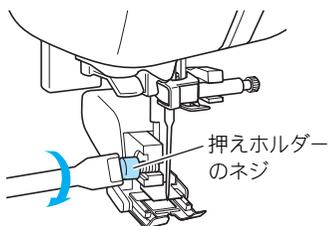
2 押えと押えホルダーを取り外します。

・「押えホルダーを取り外す」(→ P.46) を参照してください。

3 ウォーキングフットのレバーのふたまた部分で、針のとめネジの棒をはさみます。



4 押えレバーを下げ、押えホルダーのネジを差し込んで、ドライバーでしめます。



▶ ウォーキングフットが取り付けられます。

! 注意

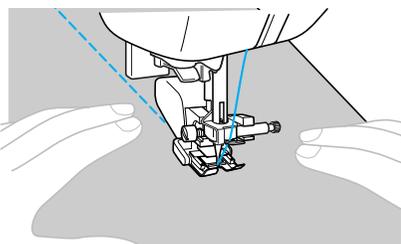


- ネジは付属のドライバーで確実にしめてください。ネジのしめ方がゆるいと、針が押えに当たり、折れたり曲がったりするおそれがあります。
- 必ず、ぬう前にプーリーをゆっくりと手前に回し、針が押えに当たらないことを確認してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

5 模様を選択します。

・「模様を選ぶ」(→P.51)を参照してください。

6 押えの両側に手を置き、布地をしっかりと張ってぬいます。

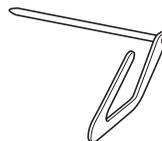


お願い

- ウォーキングフットを使用するときは、手で針に糸を通すか、または糸通しレバーで糸を通した後、ウォーキングフットを取り付けてください。
- ウォーキングフットを使用できる模様は、止めぬい用の直線とジグザグ模様のみです。詳細は、「模様一覧」(→P.72)を参照してください。
- ウォーキングフットを使用するときは、中～低速度でぬってください。
- キルティングをするときは、14番の針を使用してください。

■ キルターを使う

別売のキルターを使用すると、ぬい目を平行にそろえて等間隔にぬうことができます。

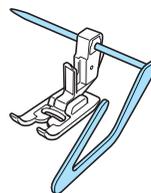


1 ウォーキングフットまたは押えホルダーの穴に、キルターの棒を差し込みます。

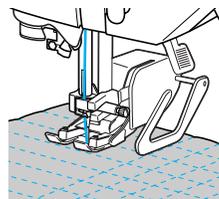
□ ウォーキングフット



□ 押えホルダー



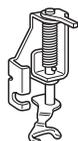
2 ぬい終わったぬい目とキルターのガイドが合うように、棒の長さを調節します。



フリーモーションキルト

フリーモーションキルトをするときは、送り歯を下げて（ドロップフィード）布地が自由に動かせるようにします。

フリーモーションキルトをするときは、別売のオープントウキルト押え<O>を使用します。



オープントウキルト押え<O>
(別売)

注意



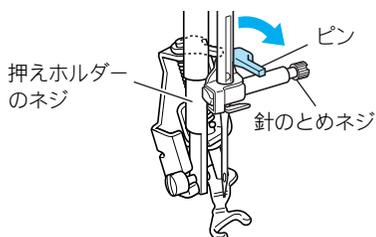
- フリーモーションキルトをするときは、オープントウキルト押え<O>を使用してください。キルト押え (F005N) を使用すると、糸通し装置が故障するおそれがあります。

1 押えと押えホルダーを取り外します。

- 「押えホルダーを取り外す」(→ P.46) を参照してください。

2 オープントウキルト押え<O>を押えホルダーのネジにはめます。

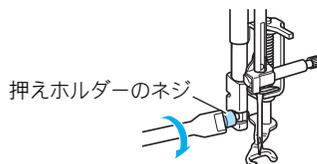
ピンが、針のとめネジの棒の上になるようにします。



お願い

- オープントウキルト押え<O>が傾斜していないことを確認してください。

3 オープントウキルト押え<O>を右手で押さえ、左手でドライバーを回して押えホルダーのネジをしめます。

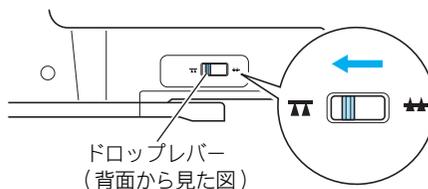


注意



- ネジは、付属のドライバーで確実にしめてください。ネジの締め方がゆるいと針が押えに当たり、折れたり曲がったりするおそれがあります。

4 ミシン本体背面下側にあるドロップレバーを背面から見て左側(▲▲)にします。

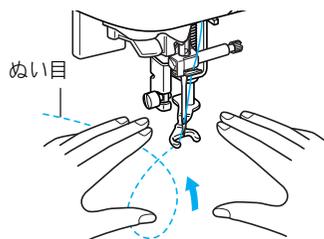


▶ 送り歯が下がります。

5 電源を入れ、模様³ または²⁴を選択します。

- 「模様を選ぶ」(→ P.51) を参照してください。

6 両手で布地を引っ張り、一定の速度で布地を送り、ぬい目の長さが均一に約2.0mm～2.5mmになるようにぬいます。ぬい始めとぬい終わりは、止めぬいをします。



7 ぬい終わったら、ドロップレバーを背面から見て右側(★★)にし、プーリーを回して送り歯をもとに戻します。



お知らせ

- ドロップレバーは通常、右側にしておきます。

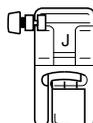
振幅コントロールを使って模様をぬう

ジグザグの振り幅を変化させて、模様をぬうことができます。スピードコントロールレバーの設定を変更して、振り幅の調節が手もとでできるようにします。ぬう速度は、別売のフットコントローラーで調節します。

1 フットコントローラーを取り付けます。

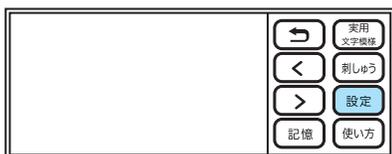
- ・「フットコントローラー（別売）を使う」（→P.57）を参照してください。

2 ジグザグ押え〈J〉を取り付けます。



- ・「押えを交換する」（→ P.44）を参照してください。

3 電源を入れ、操作パネルの [設定]（設定キー）を押します。



- ▶ 設定画面が表示されます。

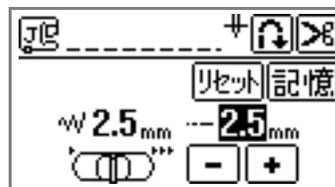
4 振幅コントロールの ON を押します。



- ▶ スピードコントロールレバーでジグザグの振り幅が変更できるようになります。

お知らせ

- 振幅コントロールを ON にすると、糸の設定画面の振り幅の [- +] が [〇] に切り替わります。

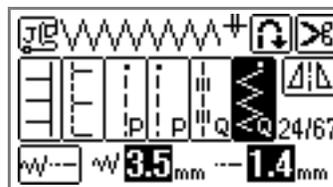


5 [戻るキー] を押します。



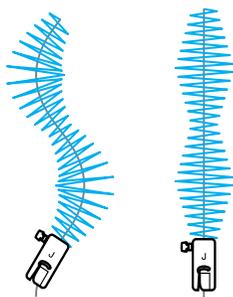
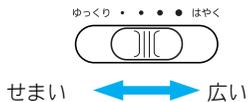
- ▶ もとの画面に戻ります。

6 模様²⁴ を選択します。



- ・「模様を選ぶ」（→P.51）を参照してください。

- 7** ぬいながらスピードコントロールレバーを動かして振り幅を調節します。
レバーを左に動かすと振り幅はせまくなり、右に動かすと広くなります。



- ・ぬう速度は、フットコントローラーで調節します。

お知らせ

- フットコントローラーをミシン本体に接続しているときは、 (スタート/ストップイッチ) は使用できません。

- 8** ぬい終わったら、振幅コントロールをOFFに戻します。

お知らせ

- ぬい目の長さを0.3~0.5mmに設定するとききれいなサテン模様が作れます。(布地の種類や糸の太さによって異なります。)

丈夫にしたいところをぬう

そでぐりや股ぐりなどのぬい目を丈夫にしたり、ポケット口などのあき止まり部分を補強するときに使用します。

名称	模様	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
			自動	手動	自動	手動	
三重ぬい	4	そでや股下などのぬい目を丈夫にする	0.0	0.0 ~ 7.0	2.5	1.5 ~ 4.0	J
かんどめ	60	ポケット口などのあき止まりの補強	2.0	1.0 ~ 3.0	0.4	0.3 ~ 1.0	A
ダーニング	58	普通地のつくりぬい	7.0	2.5 ~ 7.0	2.0	0.4 ~ 2.5	
	59	厚地のつくりぬい					

注意

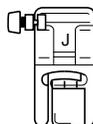


- 押えの交換は、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。万一、スタート/ストップスイッチまたは、他のスイッチが押されると、ミシンが作動してけがの原因となります。

三重ぬい

そでぐりや股ぐりなど、ぬい目を丈夫にしたいところをぬうときに使用します。

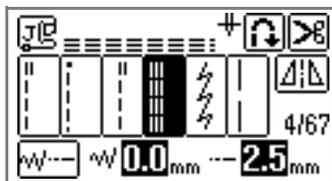
1 ジグザグ押え<J>を取り付けます。



- ・「押えを交換する」(→P.44)を参照してください。

2 模様4を選択します。

- ・「模様を選ぶ」(→P.51)を参照してください。



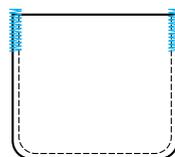
3 ミシンをスタートさせます。

- ・「ミシンをスタートさせる」(→P.56)を参照してください。

かんどめ

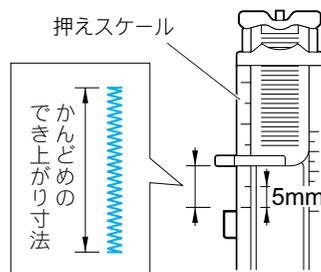
かんどめは、ポケット口やあき止まりなど、力のかかる部分を補強するときに使用します。

ここでは、ポケット口にかんどめをする場合を例に説明します。



1 かんどめの長さを決めます。

ボタン穴かがり押え<A>の押えスケールの目盛り(1目盛り5mm)を合わせて、長さを決めます。



お知らせ

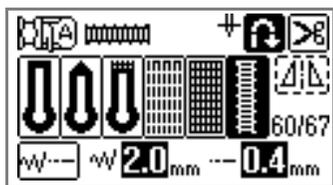
- 最大約 28mm のかんどめができます。

2 ボタン穴かがり押え<A>を取り付けます。

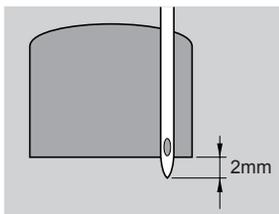
・「押えを交換する」(→P.44)を参照してください。

3 模様⁶⁰を選択します。

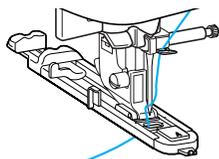
・「模様を選ぶ」(→P.51)を参照してください。



4 ポケット口が手前になる向きに布地を置き、ポケット口より2mm手前に針が刺さる位置で押えを下げます。

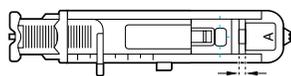
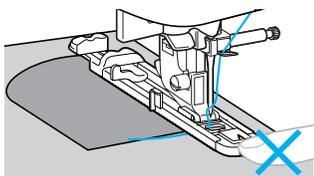


上糸は押えの穴から押えの下に通しておきます。



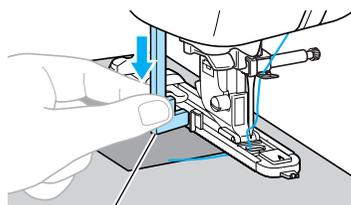
お願い

- 押えを下げるときに、押えの手前部分を押しさないでください。かんだめを正確な大きさにぬえません。



すき間をなくさない

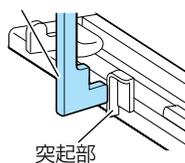
5 ミシン本体のボタン穴かがりレバーを一番下まで引き下げます。



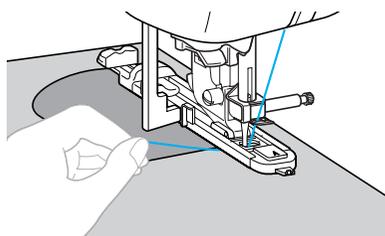
ボタン穴かがりレバー

ボタン穴かがりレバーが、押えの突起部の後ろ側になるようにします。

ボタン穴かがりレバー

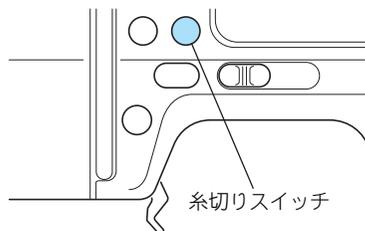


6 左手で上糸を軽く持ち、ミシンをスタートさせます。



▶ ぬい終わると、自動的に止めぬいをしてストップします。

7 ぬい終わりの位置で ⊗ (糸切りスイッチ) を1回押します。



糸切りスイッチ

▶ 糸が切れ、針が上に上がります。

8 押えレバーを上げて、布地を取り出します。



お知らせ

- プログラム糸切りを設定すると、ぬい終わりの位置にきたときに、返しぬいまたは止めぬいをしてから、自動で糸を切ります。詳細は「自動で糸を切る」(→ P.65) を参照してください。
- ミシン本体左側面の糸切り、またははさみを使って糸を切るときは、 (針上スイッチ) を1回押して針を上げてから押えレバーを上げ、次に布地を左へ引いてから、糸を切ります。詳細は「糸切りを使う」(→ P.60) を参照してください。

9 ボタン穴かがりレバーをもとに戻します。

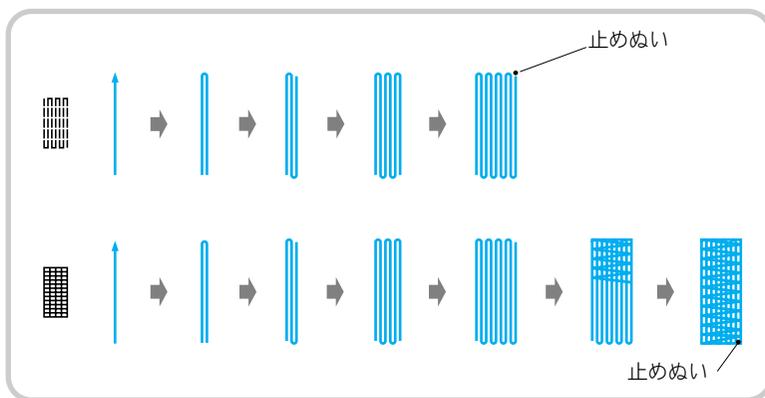


お知らせ

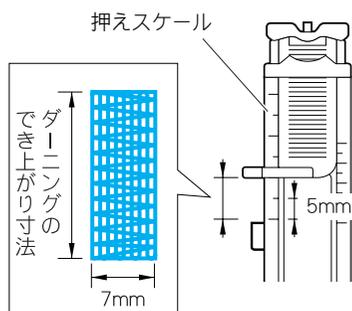
- 厚地などで布地が進まないときは、ぬい目を長く(ぬい目をあらく)します。「ぬい目の長さを調節する」(→ P.62) を参照してください。

つくろいぬい (ダーニング)

布地がやぶれたときなどに、つくろいぬいをします。
ダーニングは、次の順でぬっていきます。



- 1** つくろいぬいをする長さを決めます。
ボタン穴かがり押え<A>の押えスケールの目盛り
(1目盛り5mm)を合わせて、長さを決めます。

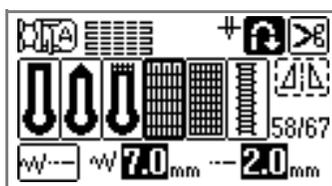


お知らせ

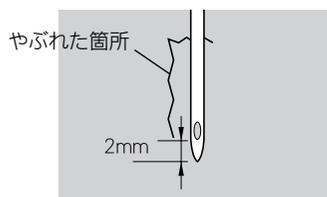
- 最大約28mmのダーニングができます。

- 2** ボタン穴かがり押え<A>を取り付けます。
・「押えを交換する」(→ P.44)を参照してください。

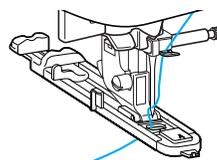
- 3** 模様⁵⁸ または⁵⁹ を選択します。
・「模様を選ぶ」(→ P.51)を参照してください。



- 4** やぶれた箇所から2mm手前に針が刺さるように布地を置き、押えを下げます。

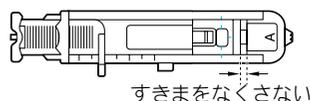
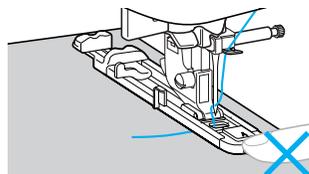


上糸は押えの穴から押えの下に通しておきます。

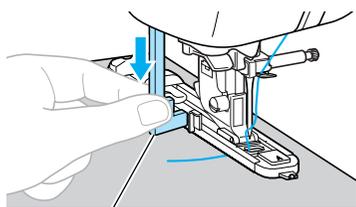


お願い

- 押えを下げるときに、押えの手前部分を押し
ないでください。ダーニングを正確な大き
さにぬえません。

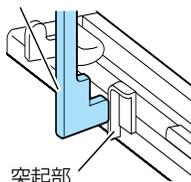


- 5 ミシン本体のボタン穴かがりレバーを一番下まで引き下げます。



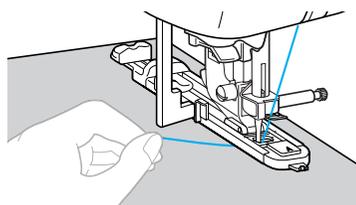
ボタン穴かがりレバー
ボタン穴かがりレバーが、押えの突起部の後ろ側になるようにします。

ボタン穴かがりレバー



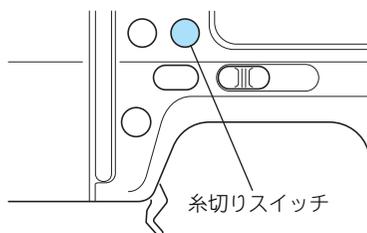
突起部

- 6 左手で上糸を軽く持ち、ミシンをスタートさせます。



▶ ぬい終わると、自動的に止めぬいをしてストップします。

- 7 ぬい終わりの位置で ⊗ (糸切りスイッチ) を1回押します。



糸切りスイッチ

▶ 糸が切れ、針が上に上がります。

- 8 押えレバーを上げて、布地を取り出します。

お知らせ

- プログラム糸切りを設定すると、ぬい終わりの位置にきたときに、返しぬいまたは止めぬいをしてから、自動で糸を切ります。詳細は「自動で糸を切る」(→P.65)を参照してください。
- ミシン本体左側面の糸切り、またははさみを使って糸を切るときは、⊕ (針上スイッチ) を1回押して針を上げてから押えレバーを上げ、次に布地を左へ引いてから、糸を切ります。詳細は「糸切りを使う」(→ P.60)を参照してください。

- 9 ボタン穴かがりレバーをもとに戻します。

お知らせ

- 厚地などで布地が進まないときは、ぬい目を長く (ぬい目をあらく) します。「ぬい目の長さを調節する」(→P.62)を参照してください。

はとめ穴を作る

ベルトの穴などに使用するはとめ穴（アイレット）を作ります。7mm・6mm・5mmの大きさのはとめ穴ができます。

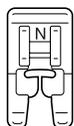
名称	模様	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
			自動	手動	自動	手動	
アイレット		ベルトの穴かがりなど	7.0	7.0/6.0/5.0	7.0	7.0/6.0/5.0	N

注意



- **押えの交換は、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。** 万一、スタート/ストップスイッチまたは、他のスイッチが押されると、ミシンが作動してけがの原因となります。

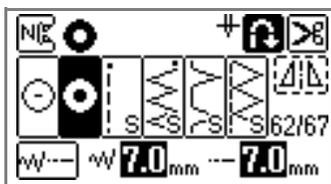
1 模様ぬい押え〈N〉を取り付けます。



- ・「押えを交換する」(→ P.44)を参照してください。

2 模様 を選択します。

- ・「模様を選ぶ」(→ P.51)を参照してください。



3 ジグザグの振り幅、またはぬい目の長さのいずれかを調節して、穴の大きさを選択します。

- ・「ぬい目を調節する」(→ P.61)を参照してください。



7mm

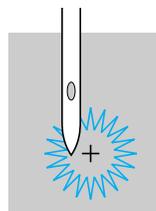


6mm



5mm

4 ぬい始めの位置に針を刺し、押えレバーを下げます。

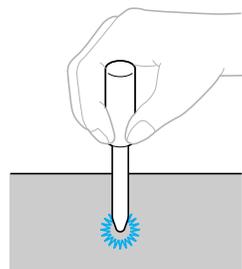


5 ミシンをスタートさせます。

- ▶ ぬい終わると、自動的に止めぬいをしてストップします。

6 付属のはとめ穴パンチで穴をあけます。

布地の下に厚紙などを敷いて穴をあけます。



お知らせ

- 細い糸でぬうと、ぬい目があらかくなる場合があります。その場合は、重ねて2回ぬうときれいにできあがります。

飾りぬいをする

いろいろな飾りぬいができます。

名称	模様	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え	
			自動	手動	自動	手動		
ファゴティング	32 	布地と布地の間を離してかかる	5.0	0.0 ~ 7.0	2.5	1.0 ~ 4.0	J	
	33 			2.5 ~ 7.0				
つき合わせ	28 	飾りぬい	4.0	0.0 ~ 7.0	1.2	0.2 ~ 4.0		
	29 		5.0	2.5 ~ 7.0	2.5	1.0 ~ 4.0		
	30 			1.2	0.2 ~ 4.0			
シェルタック	20 	シェルタック	4.0	0.0 ~ 7.0		2.5		
スモッキング	31 	スモッキング	5.0		2.5	1.6		1.0 ~ 4.0
	32 							
	33 							
スカラップ	27 	サテンスカラップ			0.5	0.1 ~ 1.0		
飾りぬい	39 	レース付け、ふち飾り、ヘアールームなど	3.5	1.5 ~ 7.0	2.5	1.6 ~ 4.0	N	
	40 		6.0		3.0			
	41 	薄地・普通地・平織り布のふち飾り、ヘアールームなど	5.0		3.5	1.5 ~ 4.0		
	42 				4.0			
	43 				2.5			
	44 				2.0			
	45 	ふち飾り、リボン通し、ヘアールームなど			3.0			

いろいろなぬい方

名称	模様	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え	
			自動	手動	自動	手動		
飾りぬい	46	ふち飾り、リボン通し、ヘアールームなど	6.0	1.5 ~ 7.0	1.6	1.0 ~ 4.0	N	
	47		5.0					
	35	飾りぬい	4.0	0.0 ~ 7.0	3.0	2.0 ~ 4.0		J
	36				2.5			
	37		1.6		1.0 ~ 4.0			
	38		5.5					
		5.0	1.5 ~ 7.0	1.0	0.2 ~ 4.0	N		

注意

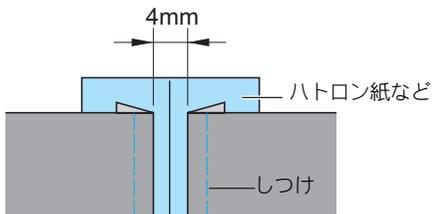


- 押えの交換は、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。万一、スタート/ストップスイッチまたは、他のスイッチが押されると、ミシンが作動してけがの原因となります。

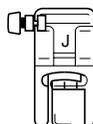
ファゴティング

布地と布地の間を離して糸でかがるぬい方を「ファゴティング」といいます。ブラウスや子供服などに使用します。太い糸を使用するときれいに仕上がります。

- 1 布地をでき上がり線で折って、アイロンをかけておきます。
- 2 ハトロン紙などの薄い紙に4mmの間隔をあけて、布地をしつけます。
ハトロン紙の中央に線を書いておくとぬいやすくなります。



- 3 ジグザグ押え<J>を取り付けます。



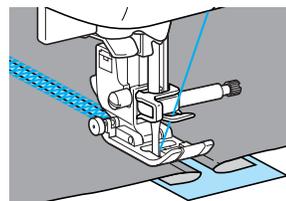
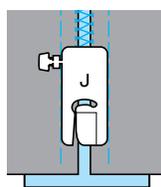
- ・「押えを交換する」(→ P.44) を参照してください。

- 4 模様 または を選択します。

- ・「模様を選ぶ」(→ P.51) を参照してください。



- 5 ジグザグの振り幅を7mmに設定します。
・「模様の幅を調節する」(→ P.61) を参照してください。
- 6 押えの中心を布地と布地の中心に合わせてぬいます。

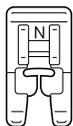


- 7 ぬい終わったら、紙をやぶって取り除きます。

スカラップ

貝殻を並べたような連続した波形の模様を「スカラップ」といいます。ブラウスの衿やハンカチのふち飾りなどに使用します。

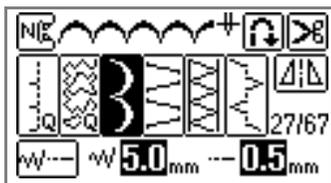
1 模様ぬい押え〈N〉を取り付けます。



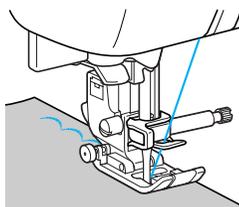
- ・「押えを交換する」(→ P.44) を参照してください。

2 模様²⁷を選択します。

- ・「模様を選ぶ」(→P.51) を参照してください。



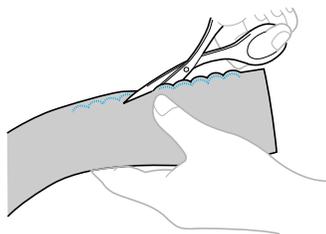
3 模様が布端にかからないように、布端から少し離してぬいます。



お知らせ

- めう前に布地にアイロン用スプレーのりをかけておくと、きれいに仕上がります。

4 めい目に沿って布端を切ります。

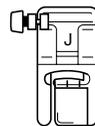


糸を切らないように注意してください。

スマッキング

ギャザーの上に模様や刺しゅうをした飾りぬいのことを「スマッキング」といいます。ブラウスの胸もとやそで口の飾りなどに使用します。

1 ジグザグ押え〈J〉を取り付けます。



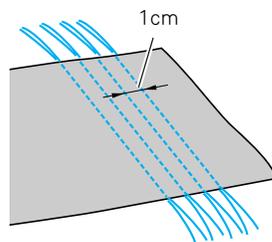
- ・「押えを交換する」(→ P.44) を参照してください。

2 直線を選択し、めい目の長さを4.0mm、上糸調子を弱めにします。

下糸は上に引き出しておきます。

- ・「めい目の長さを調節する」(→ P.62)、「糸調子を調節する」(→P.62)、「下糸を引き出してからぬう」(→P.35) を参照してください。

3 1cmの間隔をあけて、平行に数本ぬいます。



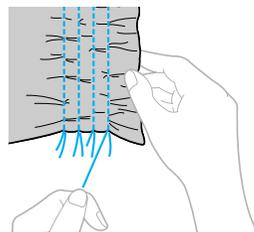
めい終わりは、糸を5cmほど引き出して切ります。



お願い

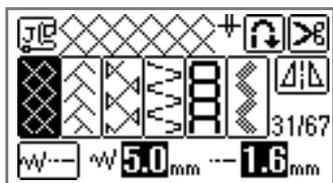
- 返しぬいと糸切りはしないでください。

4 下糸を引いてギャザーを寄せます。アイロンでギャザーを整えておきます。

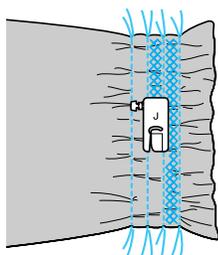


5 模様³¹ または³²、³³を選択します。

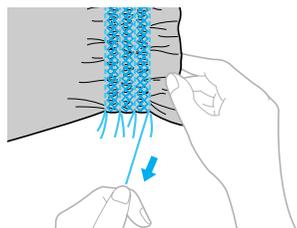
・「模様を選ぶ」(→P.51)を参照してください。



6 直線ぬいの間をぬいます。



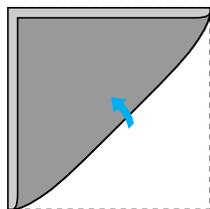
7 直線ぬいの糸を抜き取ります。



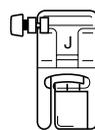
シェルタック

貝殻を並べたような連続したひだを作ることを「シェルタック」といいます。ふちどりや、ブラウスの胸もと、そで口の飾りなどに使用します。薄地の布地を使用します。

1 布地をバイアスに折ります。



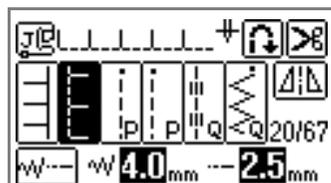
2 ジグザグ押え<J>を取り付けます。



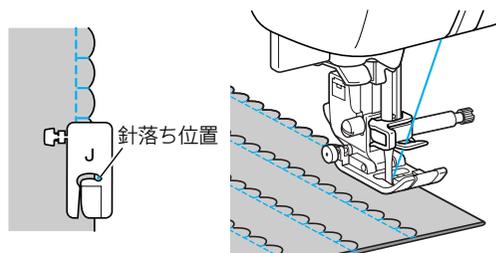
・「押えを交換する」(→ P.44)を参照してください。

3 模様²⁰を選択し、上糸を強めにします。

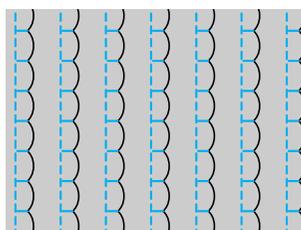
・「模様を選ぶ」(→P.51)、「糸調子を調節する」(→P.62)を参照してください。



4 針が布端から少し外に落ちるようにぬいます。



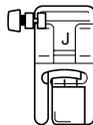
5 布地を開き、折り山を片側に倒してアイロンをかけます。



つき合わせ

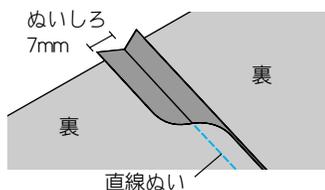
つき合わせたぬいしろ部分の上から飾り模様をぬいます。クレイジーキルトなどに使用します。

1 ジグザグ押え<J>を取り付けます。



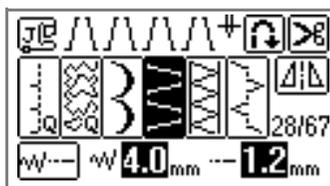
- ・「押えを交換する」(→ P.44) を参照してください。

2 直線ぬいを選択し、布地を中表にしてぬい合わせ、ぬいしろを開きます。

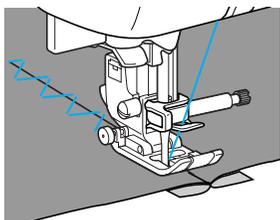


3 模様²⁸²⁹、または³⁰を選択します。

- ・「模様を選ぶ」(→ P.51) を参照してください。



4 布地を表に返し、押えの中心と布地と布地の中心を合わせてぬいます。



ヘアールーム

別売のウィングニードルを使用し、針穴を大きくあけてレース風の飾り模様をぬいます。すその飾りやテールブルクロスなどに使用します。薄地または普通地で、張りのある平織りの布地を用意します。

1 ウィングニードルを取り付けます。

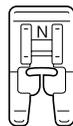


- ・針の取り付け方は、「針を交換する」(→ P.42) を参照してください。

お知らせ

- ウィングニードルは、別売のWN001を使用してください。
- ウィングニードルを取り付けたときは、糸通し装置は使用できません。糸通し装置を使用すると、故障の原因となります。針穴の手前から向こう側に手で糸を通してください。「手で針に糸を通すとき」(→ P.40) を参照してください。

2 模様ぬい押え<N>を取り付けます。

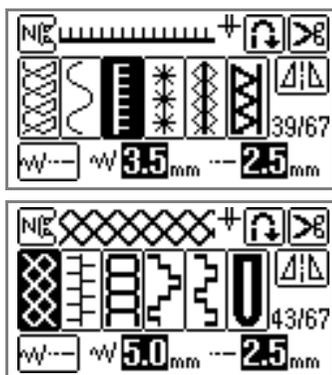


- ・「押えを交換する」(→ P.44) を参照してください。

3 模様を選択します。

模様は³⁹・⁴⁰・⁴¹・⁴²・⁴³・⁴⁴・⁴⁵・⁴⁶・⁴⁷が適しています。

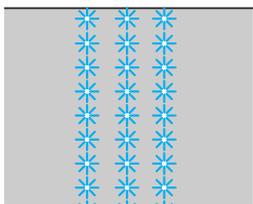
・「模様を選ぶ」(→P.51)を参照してください。



お願い

- ウィングニードルを使用するときは、ジグザグの振り幅を、6.0mm以下に設定してください。

4 ミシンをスタートさせます。



注意

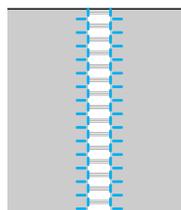


- ウィングニードルを使用するときは、ジグザグの振り幅は、6.0mm以下に設定してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。
- ジグザグの振り幅を調節したときは、プーリーをゆっくりと手前に回し、針が押えに当たらないことを確認してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

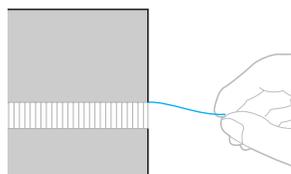
ヘアールームの一種で部分的に糸を抜き取ってかがるぬい方を「ドロンワーク」といいます。織りがゆるい布地を使用すると、きれいに仕上がります。ここではドロンワークのぬい方の例を2つ紹介します。

■ ドロンワーク (例1)

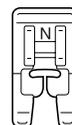
模様を左右反転させて、2回ぬいます。



① 布地の織り糸を数本抜き取ります。



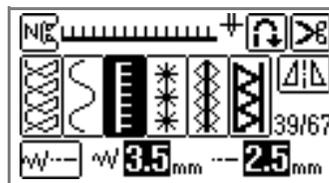
② 模様ぬい押え(N)を取り付けます。



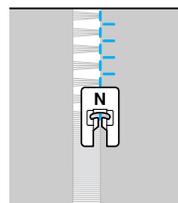
- ・「押えを交換する」(→ P.44)を参照してください。

③ 模様³⁹を選択します。

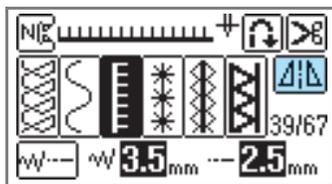
- ・「模様を選ぶ」(→P.51)を参照してください。



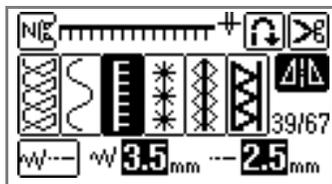
④ 織り糸を抜き取った右端をぬいます。



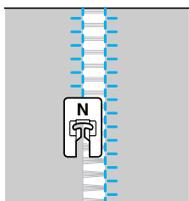
⑤ を押します。



▶ になり、液晶画面上部に表示された模様が反転します。



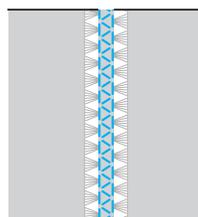
⑥ 模様が対照になるように、反対側をぬいます。



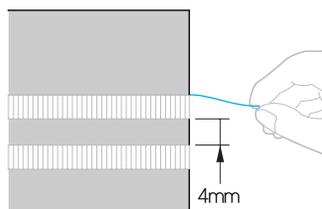
⑦ を押し、模様の反転を解除します。

■ ドロンワーク (例2)

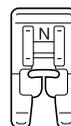
布地の織り糸を抜き取った間をぬいます。



① 布地の織り糸を数本抜き取り、約4mmの間隔をあけて、同様に抜き取ります。



② 模様ぬい押え (N) を取り付けます。



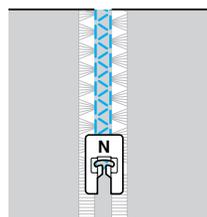
・「押えを交換する」(→ P.44) を参照してください。

③ 模様⁴² を選択します。

・「模様を選ぶ」(→ P.51) を参照してください。



④ 織り糸を抜き取った間の布地の中心をぬいます。



いろいろな模様をぬう

アルファベット（3種類）、ひらがな／カタカナ、飾り模様、サテステッチ、飾りサテン、クロスステッチ、実用飾り模様がぬえます。すべて、模様ぬい押え〈N〉を取り付けてぬいます。

模様をきれいにぬうには

きれいに模様を仕上げるために、以下の点に注意してください。

■ 布地

伸びる布地や薄地、織りがあらい布地は、裏に別売の接着芯を貼るか、またはトレーシングペーパーなどの薄い紙を布地の下に敷いてぬいます。サテステッチをぬうときは、ぬい縮みやぬい詰まりが起きることがあるので、必ず接着芯を貼ってください。

■ 針・糸

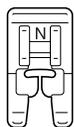
針は、薄地・普通地・伸びる布地のときは、ブラザー専用HG針ニット用、厚地のときは家庭用ミシン針（HA×1）14番を使用します。糸は50～60番を使用します。

■ 試しぬい

布地の種類や厚さ、接着芯などによって模様がくずれることがあります。必ず試しぬいをしてください。また、ぬうときには布地がずれないように、手を添えてぬってください。

模様のぬい方

1 模様ぬい押え〈N〉を取り付けます。

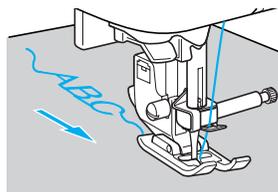


- ・「押えを交換する」（→ P.44）を参照してください。

2 模様を選択します。

- ・「模様を選ぶ」（→ P.51）を参照してください。

3 ミシンをスタートさせます。



- ▶ 模様が矢印の方向にぬわれます。

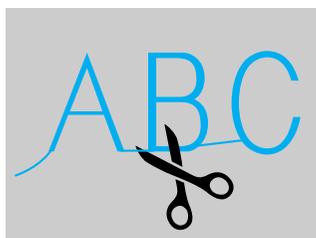
4 止めぬいをします。



お知らせ

- アルファベット・ひらがな・カタカナ・漢字の場合は、1文字ずつ自動的に止めぬいをします。
- 文字以外の模様をぬうときは、あらかじめ自動止めぬいを設定しておくとう便利です。「自動で返しぬい／止めぬいをする」（→ P.64）を参照してください。

5 ぬい終わったら、ぬい始めの糸や模様の間の渡り糸をはさみで切ります。



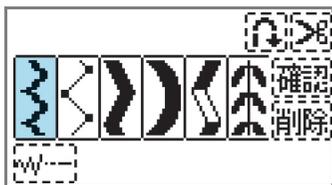
模様の密度を変える

飾りサテンを選択した場合は、模様の密度を変えることができます。

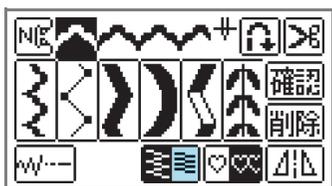
- 1 操作パネルの  (実用文字模様キー) を押してから、 (飾りサテン) を選択します。



- 2 模様を選択します。
・「模様を選ぶ」(→P.51) を参照してください。



- 3  を押して密度を切り替えます。
 はあらく、 は細かくなります。



注意



- 密度を細かく設定すると、糸によってはぬいづまりが起こり、針が折れることがあります。

模様の大きさを変える

アルファベット (ゴシック体・アウトライン) 模様の大きさを大/小に切り替えることができます。その他の模様は、大きさを切り替えることはできません。

- 1 模様を選択します。
・「模様を選ぶ」(→P.51) を参照してください。
- 2  を押して、サイズを切り替えます。



- 3 ① ~ ② をくり返します。

LEAF LEAF



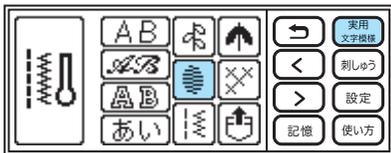
お知らせ

- 通常の大サイズは大です。小に切り替えると、小の模様が連続して組み合わせられます。
- 複数の模様を組み合わせせた場合でも、模様ごとに大きさを変えることができます。

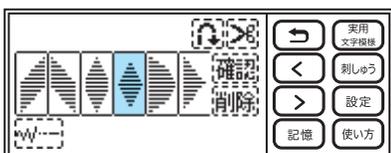
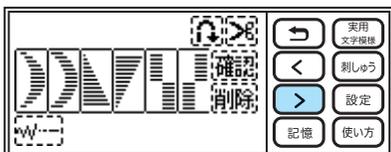
模様の長さを変える

サテステッチ 1 つ分の模様の長さを、5 段階で変えることができます。

- 1 操作パネルの  (實用文字模様キー) を押してから、 (サテステッチ) を選択します。



- 2 模様を選択します。



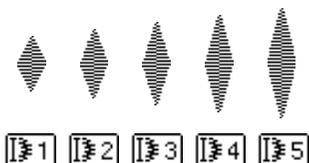
- 3  を押します。



▶  になり、模様が長くなります。



キーを押すごとに、数字が変わります。
 から  の 5 段階から選択できます。



文字間隔を調節する

組み合わせた文字の間隔を調節することができます。

- 1 操作パネルの  (實用 / 文字模様キー) を押して、文字を選択します。



- 2 操作パネルの  (設定キー) を押します。



- 3 文字間調整の   を押します。



 を押すと文字間隔が広く、 を押すと狭くなります。

お知らせ

- 初期値は 0 です。0 より小さい数値は設定できません。
- 文字間隔の調整結果は、すべての文字に適用されます。(入力中の文字だけでなく、入力済の文字およびこれから入力する文字にも適用されます。)

模様を調整する

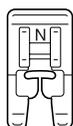
布地の種類やぬう速度などによって、模様が正しくぬえないことがあります。その場合は、実際にぬう布のはぎれを用意し、試しぬいをして模様を調整します。



お知らせ

- 模様の調整ができるのは、クロスステッチと文字模様と実用模様のアイレット模様のみです。

1 模様ぬい押え〈N〉を取り付けます。



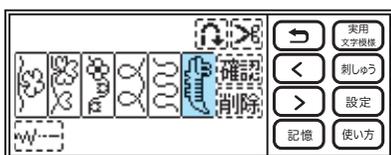
- ・「押えを交換する」(→ P.44)を参照してください。

2 操作パネルの (実用/文字模様キー) を押してから、 (飾り模様) を選択します。



- ▶ 飾り模様の選択画面が表示されます。

3 を押します。



- ▶ 調整用模様が選択されます。

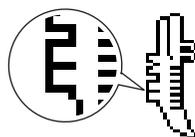
4 ミシンをスタートさせます。



- ▶ 調整用模様がぬわれます。
- ▶ 模様が最後までぬわれると、ミシンがストップします。

5 ぬわれた模様を確認します。

正しい状態のときは、模様の図の部分均等になっています。



正しくぬえなかったときは、次の手順に従って模様を調整します。

6 操作パネルの (設定キー) を押します。

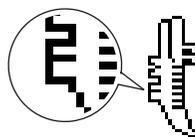


- ▶ 設定画面が表示されます。

7 模様調整の を押します。

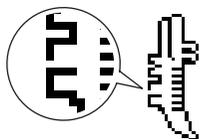


- ▶ ぬわれた模様の状態によって調整します。



を押すごとに表示の値が大きくなり、模様が伸びていきます。





[-] を押すごとに表示の値が小さくなり、模様がつまっていきます。



8 (戻るキー) を押します。



▶ もとの画面に戻ります。

9 もう一度 をぬって、模様を確認します。

▶ 正しくぬえるようになるまで調整します。

模様を組み合わせる

飾り模様、サテンステッチ、クロスステッチ、飾りサテン、文字、実用飾り模様を組み合わせてぬうことができます。模様は70個まで組み合わせることができます。

1 操作パネルの (実用 / 文字模様キー) を押して、模様グループを選択します。



2 1つ目の模様を選択します。

▶ 選択した模様が表示されます。



・この時点でぬうと、ミシンをストップさせるまで1つの模様がくり返されます。

3 次の模様を選択します。

▶ 組み合わせた模様が表示されます。



- ・ 選択した模様を取り消すときは、 (削除) を押します。最後に選択した模様を取り消されます。
- ・ グループを変更するときは、 (戻るキー) を押します。模様グループを選択してから、次の模様を選択してください。

4 模様を選択し終わったら、ミシンをスタートさせます。



- ▶ 液晶画面に表示された順番に、模様がぬわれます。



お知らせ

- 模様は70個まで組み合わせることができます。
- 実用模様は組み合わせられません。
- 複数の模様を組み合わせたときは、液晶画面に表示された模様をぬい終わると、ミシンはストップします。組み合わせた模様をくり返してぬうときは、「模様をくり返しぬう」を参照してください。
- 組み合わせた模様をミシンに記憶させることができます。「組み合わせ模様を記憶させる」(→P.129)を参照してください。

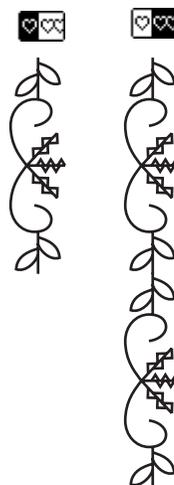
■ 模様をくり返しぬう

単一模様または組み合わせ模様をくり返しぬうことができます。下記は、組み合わせ模様をくり返し縫う手順を示します。

1 組み合わせができたら、 を押します。



- ▶  が  になり、選択した模様がくり返しぬわれます。
- ▶ もう一度押すと、 に変わります。



お知らせ

-  に設定した場合、ミシンをストップさせるまでくり返しぬわれます。
- 電源を切ると、もとの設定に戻ります。

■ 模様を反転させる

模様を左右反転させることができます。

- 1 単一模様を選択した後に、 を押して模様を反転させます。



■ 模様を確認する

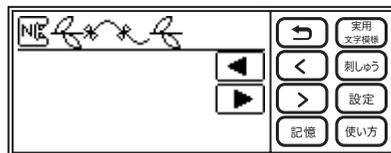
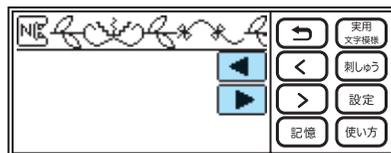
選択した模様が液晶画面に表示しきれないときは、次の手順で模様を確認します。

- 1  を押します。



▶ 模様の確認画面が表示されます。

- 2   で表示を切り替えて、模様を確認します。



- 3  (戻るキー) を押します。

▶ もとの画面に戻ります。

お知らせ

- 組み合わせた模様をミシンに記憶させることができます。「組み合わせ模様を記憶させる」(→P.129) を参照してください。

組み合わせ模様を記憶させる

組み合わせた文字をマシンに記憶させることができます。記憶させた模様は電源を切っても消えないので、いつでも呼び出してぬうことができます。名前などの文字の組み合わせ模様を記憶させると便利です。10組までの模様を記憶させることができます。

■ 組み合わせ模様を記憶させる

① 模様を組み合わせます。

- ・「模様を組み合わせる」(→P.126)を参照してください。

② 操作パネルの **記憶** (記憶キー) を押します。



- ▶ 「記憶中」と表示されます。完了すると、もとの画面に戻ります。

お願い

- 記憶中は、電源を切らないでください。途中で電源を切ると、模様データが消えることがあります。

■ 模様を呼び出す

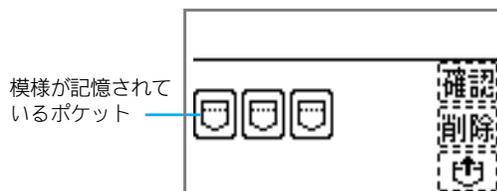
① を押します。



- ▶ ポケットの選択画面が表示されます。

② 呼び出す模様を選択します。

 を押して、表示される模様を確認します。模様がすべて表示されないときは、**確認** を押すと、確認することができます。



- ▶ 選択したポケット  が  になり、模様が表示されます。

③ を押します。

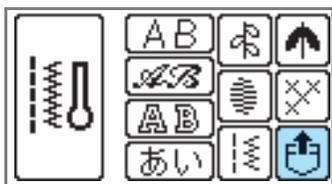


- ▶ 模様が呼び出され、ぬうことができます。



■ 模様を消去する

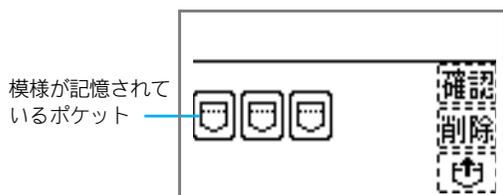
① を押します。



▶ ポケットの選択画面が表示されます。

② 消去する模様を選択します。

を押して、表示される模様を確認します。模様がすべて表示されないときは、を押すと、確認することができます。



選択したポケットがになり、模様が表示されます。

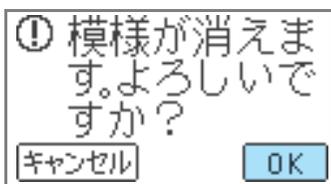
③ を押します。



▶ 確認メッセージが表示されます。

④ を押します。

▶ ポケットに記憶されていた模様とポケットが消去されます。



4

刺しゅう

ここでは、刺しゅうの手順を説明します。

きれいに刺しゅうをするには.....	132
刺しゅう押え <Q> を取り付ける.....	134
刺しゅう機を取り付ける.....	137
布地を用意する.....	140
刺しゅう枠を取り付ける.....	144
刺しゅう模様を選びましょう.....	146
刺しゅうをしてみましょう.....	155
こんなとき.....	160
模様の記憶機能を使う.....	167

きれいに刺しゅうをするには

ここでは、刺しゅうをする前に必要なことを説明します。

用意するもの

刺しゅうをするときは、次のものが必要です。

■ 布地

刺しゅうする布地を用意します。刺しゅう模様の大きさに合わせて、刺しゅう枠より少し大きめの布地を用意します。



お願い

- 布地には、あらかじめブラザー専用接着芯を貼ってください。
- 大きな布地に刺しゅうするときは、ミシンを置いたテーブルから布地が垂れ下がらないようにしてください。布地が垂れ下がった状態で刺しゅうすると、刺しゅう機の動きが悪くなり、模様くずれの原因となります。

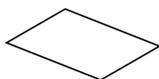
⚠ 注意



- 刺しゅうができる布地の厚さは、布地を張った刺しゅう枠をミシンにセットし、⊕ (針上下スイッチ) を押して針を上げたときに、布地と押えにすきまができるものまでです。それ以上の厚さのものをぬうと、針が折れたり曲がったりするおそれがあります。
- 刺しゅうを重ねると、針が布地に刺さりにくくなり、針が折れたり曲がったりするおそれがありますので、ご注意ください。

■ 接着芯

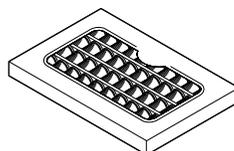
ぬい縮みや模様がくずれることを防ぎ、刺しゅうをきれいに仕上げるために、布地に付属の刺しゅう用接着芯を貼ります。



オーガンジーなどの薄い素材や、タオルなどの起毛している布地には、別売の水で溶ける水溶性シートを使用してください。「別売品」(→P.14)を参照してください。

■ 刺しゅう糸

上糸は、別売のブラザー専用刺しゅう糸(ウルトラパス)、またはカントリー刺しゅう糸を使用してください。



下糸は、別売のブラザー専用刺しゅう下糸を使用してください。



お知らせ

- 上記以外の糸を使用すると、刺しゅうがきれいに仕上がらないことがあります。
- ぬい始める前に、下糸の残量を確認してください。下糸が少ない状態で刺しゅうを続けると、糸がらみなどが起きる場合があります。

■ 針

家庭用ミシン針(HA×1)の11番を使用します。デニム地などの厚地に刺しゅうする場合は、家庭用ミシン針(HA×1)の14番を使用してください。



お知らせ

- 購入時は、11番の針がミシンに取り付けられています。
- 針を交換するときは、「針を交換する」(→P.42)を参照してください。

⚠ 注意



- ブラザーHG針ニット用は、模様ぬいや伸びる布地など、目とびしやすい布地用の針です。刺しゅうぬいには絶対に使用しないでください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

■ その他

別売品として、刺しゅう枠[S]も用意しています。詳細は、「別売品」(→P.14)を参照してください。

刺しゅうの手順

刺しゅうをするときの基本の手順は次のとおりです。

1	押えの取り付け	刺しゅう押え <Q> を取り付けます。 「刺しゅう押え <Q> を取り付ける」 (→ P.134) で説明します。
↓		
2	針の確認	布地に合った針を使用します。 「針を交換する」 (→ P.42) を参照してください。
↓		
3	刺しゅう機の取り付け	刺しゅう機を取り付けます。 「刺しゅう機を取り付ける」 (→ P.137) で説明します。
↓		
4	下系のセット	刺しゅう用の下糸をボビンに巻いてセットします。 「下糸を巻く」 (→ P.28)、「下糸をセットする」 (→ P.33) を参照してください。
↓		
5	布地の用意	布地に接着芯を貼り、刺しゅう枠に張ります。 「布地を用意する」 (→ P.140) で説明します。
↓		
6	刺しゅう枠の取り付け	刺しゅう機に刺しゅう枠を取り付けます。 「刺しゅう枠を取り付ける」 (→ P.144) で説明します。
↓		
7	模様の選択	刺しゅう模様を選択します。 「刺しゅう模様を選びましょう」 (→ P.146) で説明します。
↓		
8	レイアウトの確認	刺しゅうの大きさや位置を確認して調整します。 「模様のレイアウトや大きさを調整する」 (→ P.160) で説明します。
↓		
9	刺しゅう糸のセット	模様に合わせて刺しゅう糸をセットします。 「上糸を通す」 (→ P.36) を参照してください。

刺しゅう押え〈Q〉を取り付ける

刺しゅう押え〈Q〉の取り付け方を説明します。

刺しゅう押え〈Q〉を取り付ける

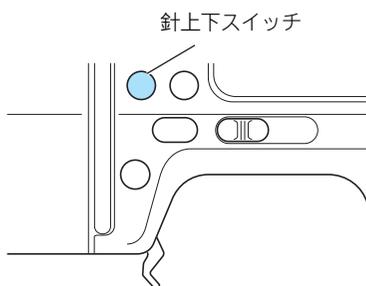
刺しゅうをするときは、刺しゅう押え〈Q〉を取り付けます。刺しゅう押え〈Q〉とドライバーを用意します。



注意

- 刺しゅうをするときは、必ず刺しゅう押え〈Q〉を使用してください。他の押えを使用すると、針が押えに当たり、折れたり曲がったりするおそれがあります。

- 1 (針上下スイッチ)を1回または2回押して、針を上げます。



お願い

- 針が確実に上がっているときは、プーリーの印が真上になります。必ずプーリーの印が真上になっていることを確認してください。

- 2 電源を切ります。

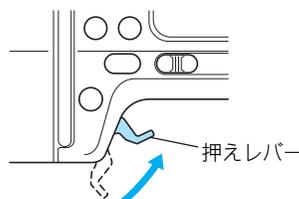


注意



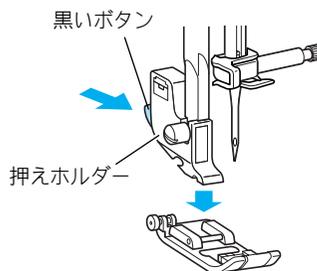
押えの交換は、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。万一、スタート/ストップスイッチまたは、他のスイッチが押されると、ミシンが作動してけがの原因となります。

- 3 押えレバーを上げます。



▶ 押えが上がります。

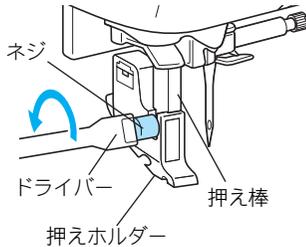
- 4 押えホルダーの後ろ側の黒いボタンを押します。



▶ 押えが押えホルダーから外れます。

5 押えホルダーのネジをゆるめます。

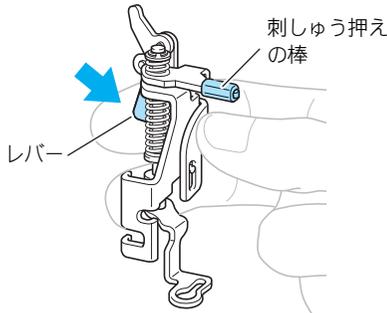
右手で押えホルダーを支え、左手でドライバーを奥に回します。



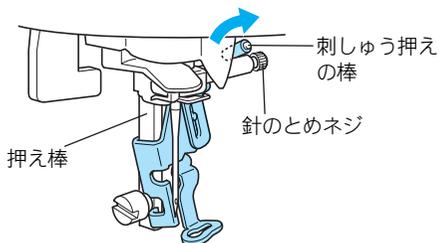
▶ 押えホルダーが押え棒から外れます。

6 図のように、右手で刺しゅう押え〈Q〉を持ちます。

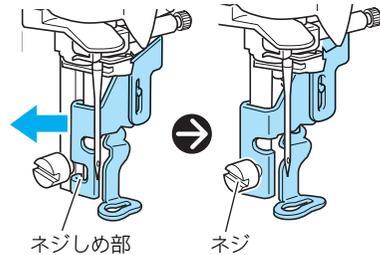
右手の人差し指が押えの後ろ側のレバーにかかるとように持ちます。



7 刺しゅう押え〈Q〉のレバーを指で押しながら、刺しゅう押え〈Q〉の棒が針のとめネジの上にかかるように、刺しゅう押え〈Q〉を奥へ倒して押え棒に合わせます。

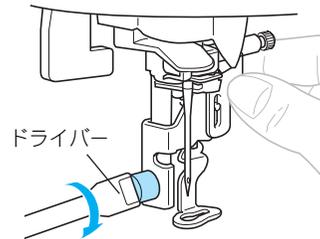


8 刺しゅう押え〈Q〉が垂直になるように、刺しゅう押え〈Q〉を押えホルダーのネジに取り付けます。



9 押えホルダーのネジをしめます。

右手で刺しゅう押え〈Q〉を支え、左手でドライバーを手前に回します。



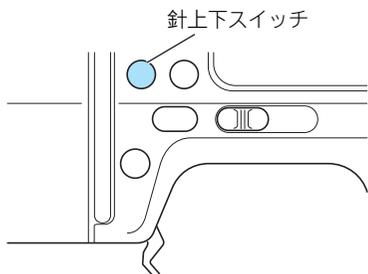
注意



- 刺しゅう押え〈Q〉を取り付けるときは、指や押えが針に当たらないようにしてください。針が折れたり、けがの原因となります。
- ネジは付属のドライバーで確実に締めてください。ネジの締め方がゆるいと、針が押えに当たり、折れたり曲がったりするおそれがあります。
- 必ず、ぬい始める前にプーリーをゆっくりと手前に回し、針が押えに当たらないことを確認してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

刺しゅう押え〈Q〉を取り外す

- 1 ④ (針上下スイッチ)を1回または2回押して、針を上げます。



- 2 電源を切ります。

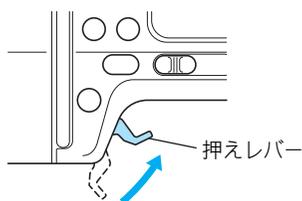


⚠ 注意



押えの交換は、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。 万一、スタート/ストップスイッチまたは、他のスイッチが押されると、ミシンが作動してけがの原因となります。

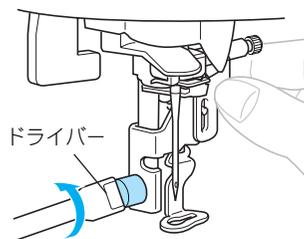
- 3 押えレバーを上げます。



▶ 押えが上がります。

- 4 押えホルダーのネジをゆるめます。

右手で刺しゅう押え〈Q〉を支え、左手でドライバーを奥に回します。



- 5 刺しゅう押え〈Q〉のレバーを右手の人差し指で押しながら、刺しゅう押え〈Q〉を押え棒から取り外します。

- 6 押えホルダーを取り付けます。

・「押えホルダーを取り付けるとき」(→P.46)を参照してください。

刺しゅう機を取り付ける

刺しゅうをするときは、刺しゅう機を取り付けます。

⚠ 注意

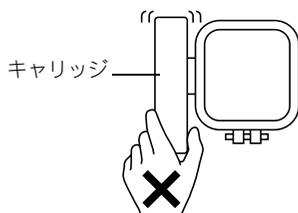


- 刺しゅう機を取り付けたままミシンを移動させないでください。刺しゅう機が落下してけがをするおそれがあります。
- 刺しゅう機のキャリッジや刺しゅう枠が動いているときに、手や物を近づけないでください。けがの原因となります。



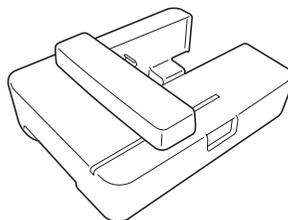
お願い

- ミシン本体の刺しゅう機差し込み口および刺しゅう機のコネクタに触れないでください。コネクタピンが破損し、故障の原因となります。
- 刺しゅう機のキャリッジを持って、刺しゅう機を持ち上げたり無理に動かしたりしないでください。故障の原因となります。



刺しゅう機を取り付ける

刺しゅう機を用意します。



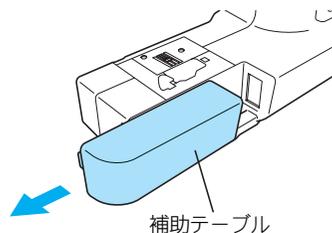
1 電源を切ります。



お願い

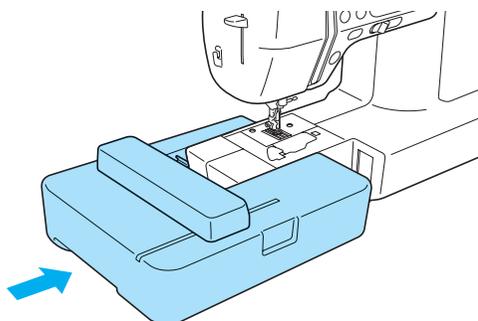
- 刺しゅう機は、必ず電源を切ってから取り付けてください。故障の原因となります。

2 補助テーブルを左へ引いて取り外します。



3 刺しゅう機を右へスライドさせ、刺しゅう機のコネクタをミシン本体の刺しゅう機差し込み口に差し込みます。

カチッと音がするまで刺しゅう機を押し込みます。



▶ 刺しゅう機が取り付けられます。

お願い

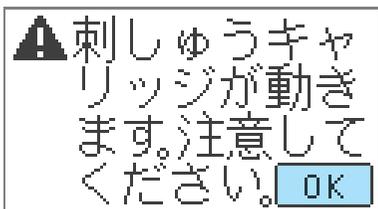
- ミシン本体と刺しゅう機の間にはすきまがあると、模様くずれの原因となります。必ず奥まで確実に差し込んでください。
- 刺しゅう機を取り付けるときは、キャリッジを押さないでください。故障の原因となります。

4 電源を入れます。



▶ 液晶画面にメッセージが表示されます。

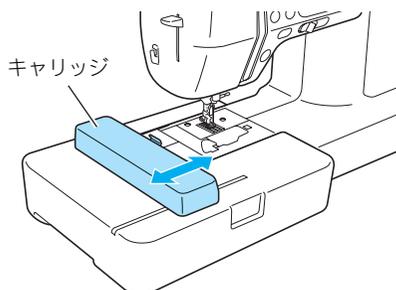
5 刺しゅう機の近くに手や物を置いていないことを確認し、**OK**を押します。



お知らせ

- 液晶画面にアニメーションが表示されているときは、指で液晶画面に触れるとメッセージが表示されます。

▶ 刺しゅう機のキャリッジが初期設定の位置へ移動します。



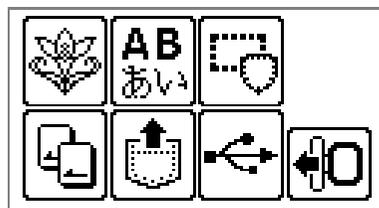
注意

- キャリッジに手や物を近づけないでください。けがの原因となります。

お願い

- キャリッジの近くに手や物を置いたまま初期設定を行うと、液晶画面が初期表示に戻ることがあります。その場合は、キャリッジの近くにあるものを取り除いてから電源を入れ直してください。

▶ 刺しゅう模様グループの選択画面が表示されます。



お知らせ

- 刺しゅう機が取り付けられているときは、実用模様は選択できません。
- 刺しゅう模様については、「刺しゅう模様を選びましょう」(→P.146)で説明します。

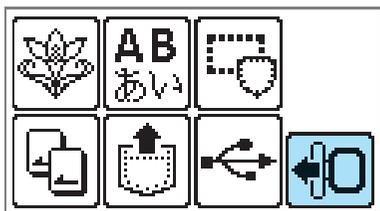
刺しゅう機を取り外す

刺しゅう枠を取り外してから、刺しゅう機を取り外します。

- 1 ミシンが動いていないことを確認し、刺しゅう枠を取り外します。

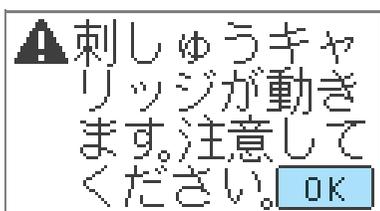
・「刺しゅう枠を取り外す」(→P.145)で説明します。

- 2 を押します。



▶ メッセージが表示されます。

- 3 刺しゅう機の近くに手や物を置いていないことを確認し、を押します。



▶ 刺しゅう機のキャリッジが収納の位置へ移動します。

- 4 電源を切ります。

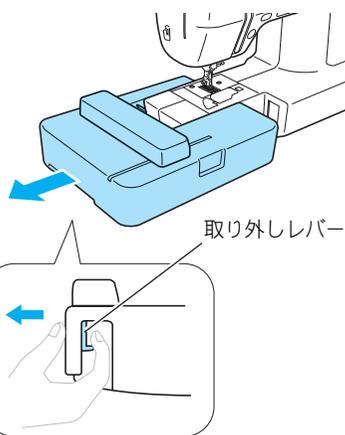


注意



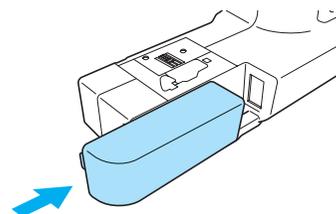
- 刺しゅう機は、必ず電源を切ってから取り外してください。故障の原因となります。

- 5 刺しゅう機左側面の裏側にある取り外しレバーをつかみながら、刺しゅう機をゆっくりと左に引きます。



▶ 刺しゅう機がミシン本体から外れます。

- 6 補助テーブルをもとに戻します。



注意



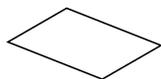
- 刺しゅう機を持ち運ぶときは、キャリッジを持たないでください。故障の原因となります。

布地を用意する

刺しゅうする布地に接着芯を貼ってから、刺しゅう枠に張ります。

布地に接着芯を貼る

ぬい縮みや模様くずれを防ぎ、刺しゅうをきれいに仕上げるために、布地に付属の刺しゅう用接着芯を貼ります。



お知らせ

- オーガンジーなどの薄い素材や、タオルなどの起毛している布地には、別売の水で溶ける水溶性シートを使用してください。「別売品」(→P.14)を参照してください。

注意



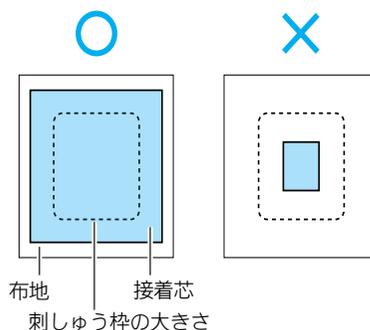
- 刺しゅうをするときは、必ず刺しゅう用接着芯を使用してください。特に、薄地や伸びる布地に接着芯を使用せずに刺しゅうをすると、針が折れたり曲がったりするおそれがあります。また模様くずれの原因となります。



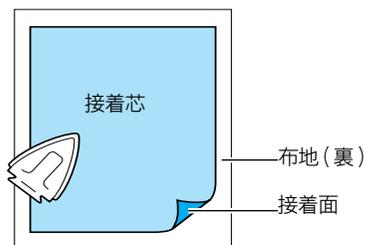
お知らせ

- 付属の接着芯がなくなったときは、別売のブラザー専用接着芯のご使用をおすすめします。「別売品」(→P.14)を参照してください。

- 1 使用する刺しゅう枠より大きめに刺しゅう用接着芯を用意します。



- 2 布地の裏に接着芯の接着面をあて、スチームアイロンをかけて貼ります。



お知らせ

- タオルなどのアイロンがかけられない布地や、アイロンがかけられないところに刺しゅうをするときは、布地の下に接着芯を置いて、接着せずに刺しゅう枠に張ります。



お願い

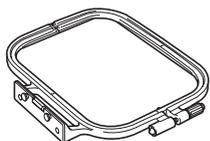
- 刺しゅうが完成したら、接着芯はやぶって取り除いてください。

布地を刺しゅう枠に張る

接着芯を貼った布地と刺しゅう枠を用意し、布地を刺しゅう枠に張ります。

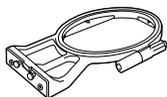
■ 刺しゅう枠 [M]

縦 10 × 横 10cm までの模様を刺しゅうできます。



■ 刺しゅう枠 [S] (別売品)

縦 2 × 横 6cm までの模様を刺しゅうできます。文字などの小さな刺しゅうをするときに使用します。

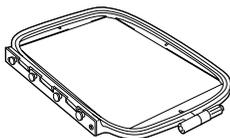


お知らせ

- 模様によっては、刺しゅう枠 [S] が使用できないことがあります。

■ 刺しゅう枠 [L] (別売品)

縦 17 × 横 10cm の範囲内に模様を刺しゅうできます。布地を張り替えずに複数の模様を刺しゅうするときを使用します。

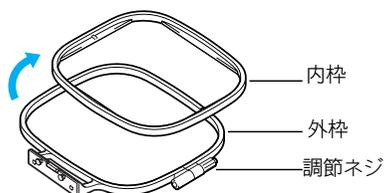


! 注意



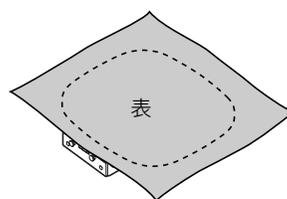
- 刺しゅう枠は、刺しゅうする模様の大きさに合わせて使用してください。誤った大きさの刺しゅう枠を使用すると、刺しゅう枠が押えに当たり、けがや針折れの原因となります。

- 1 刺しゅう枠の調節ネジをゆるめて内枠を外枠から取り外し、平らなところに置きます。



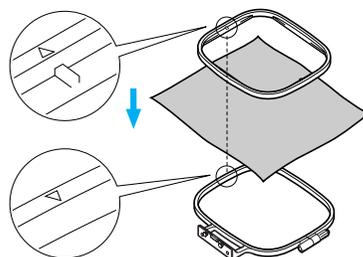
- 2 接着芯を貼った布地を外枠の上に置きます。

布地の表が上になるように置きます。

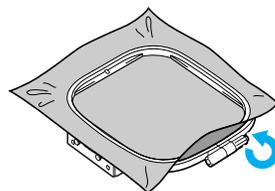


- 3 布地の上から内枠をはめます。

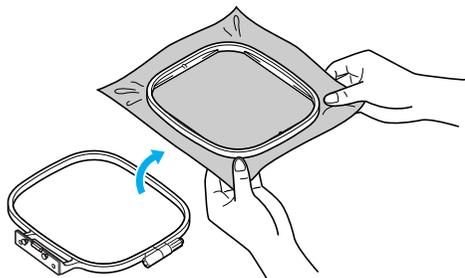
- ・ 内枠の△と外枠の▽の印を合わせます。



- 4 調節ネジを軽くしめ、布地を固定します。



- 5 調節ネジをゆるめずに、布地を外枠から
ていねいに外します。

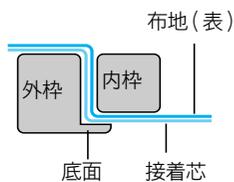
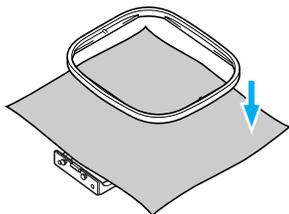


お知らせ

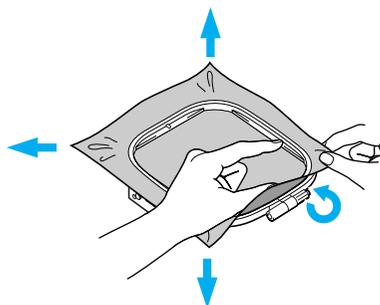
- これにより、刺しゅう中の模様くずれが起こりにくくなります。

- 6 内枠の△と外枠の▽の印を合わせながら、布地の上からもう一度内枠をしっかりと
はめ込みます。

外枠の底面まで内枠をしっかりとめ込みます。



- 7 布地の四方を引っ張ってたるみをなく
し、調節ネジをしめます。



お知らせ

- 布地を軽くたたくと、太鼓のような音がするくらいが目安です。

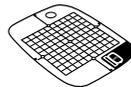


お願い

- 布地がたるんでいると、模様くずれやぬい縮みの原因となります。必ずたるみのないように刺しゅう枠に張ってください。

■ 刺しゅうシートを使う

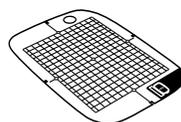
刺しゅうシートを使用すると、布地の正確な位置に刺しゅうすることができます。



刺しゅうシート [M]
(付属)

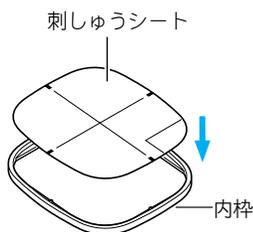


刺しゅうシート [S]
(別売品)

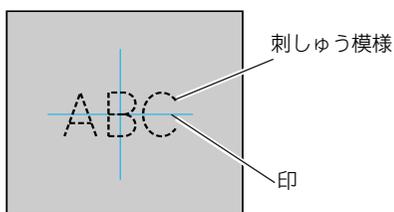


刺しゅうシート [L]
(別売品)

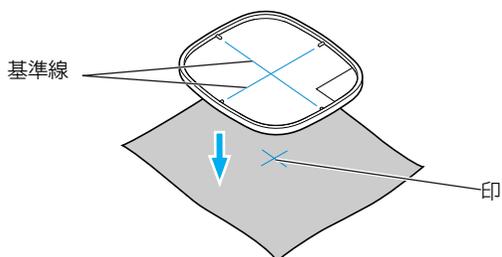
① 内枠の上に刺しゅうシートをのせます。



② 布地の刺しゅうをしたい位置に、チャコペンで印を付けます。



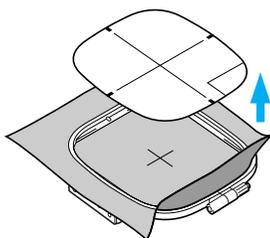
③ 布地の印と刺しゅうシートの基準線を合わせます。



④ 外枠の上に布地と内枠を置き、布地を張ります。

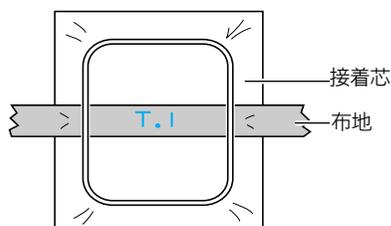
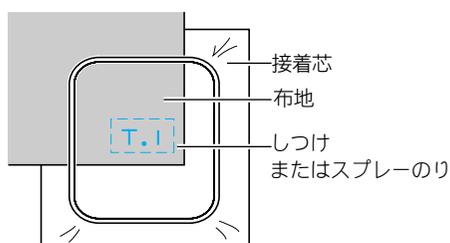
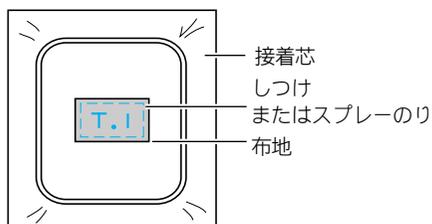
・ 布地の張り方については、「布地を刺しゅう枠に張る」(→P.141)を参照してください。

⑤ 刺しゅうシートを取り外します。



■ 刺しゅう枠に張れない布地に刺しゅうをするとき

刺しゅう枠に張ることができない小さい布地や、テープのような細い布地に刺しゅうをする場合は、付属の接着芯を土台にして刺しゅう枠に張ります。



刺しゅうが終わったら、接着芯をていねいに取り除きます。

刺しゅう枠を取り付ける

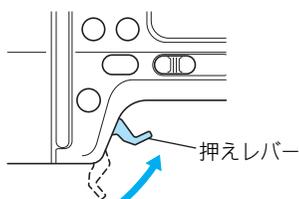
布地を張った刺しゅう枠を刺しゅう機に取り付けます。

刺しゅう枠を取り付ける

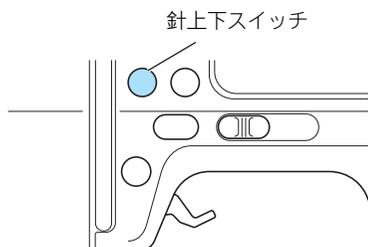
- 1 ブラザー刺しゅう専用下糸をボビンに巻いて、かまにセットします。

・「糸をセットしましょう」(→ P.28) を参照してください。

- 2 押えレバーを上げます。

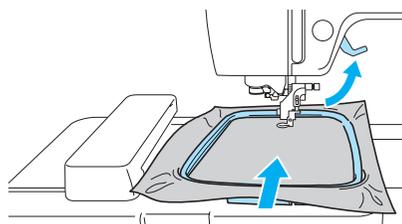


- 3 ⬇ (針上下スイッチ) を1回または2回押して、針を上げます。



- 4 押えレバーをさらに上げて、押えの下に刺しゅう枠を通します。

このとき、押えレバーは固定されません。



注意

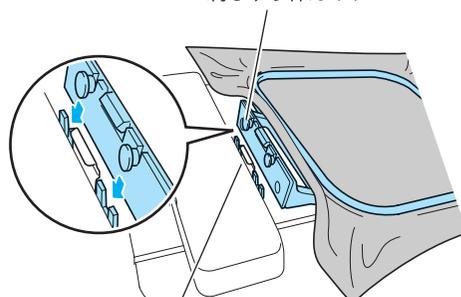


- **操作スイッチには触れないでください。** 操作スイッチに手が接触すると、ミシンが動き、針が折れたり、針で指をさすおそれがあります。

- 5 キャリッジの刺しゅう枠ホルダーに、刺しゅう枠ガイドを上からはめます。

刺しゅう枠ホルダーのミゾと刺しゅう枠ガイドのツメが合うようにし、「カチッ」と止まるまで差し込みます。

刺しゅう枠ガイド



刺しゅう枠ホルダー

▶ 刺しゅう枠が取り付けられます。

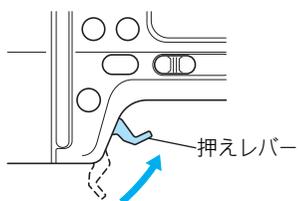
注意



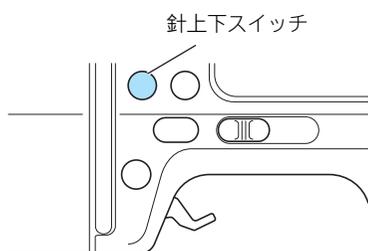
- 刺しゅう枠は、刺しゅう枠ホルダーに正しくセットしてください。正しくセットされていないと、刺しゅう枠が押えに当たり、けがの原因となります。

刺しゅう枠を取り外す

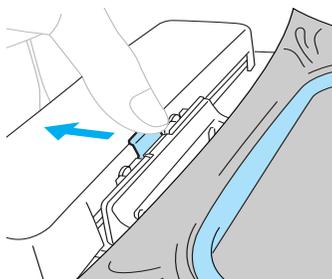
- 1 押えレバーを上げます。



- 2 ① (針上下スイッチ)を1回または2回押して、針を上げます。



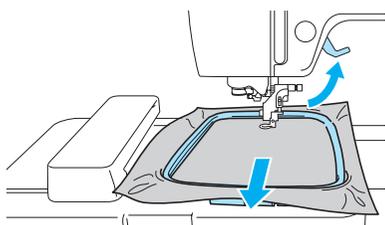
- 3 刺しゅう枠ホルダーの図の部分に左に押し、刺しゅう枠を持ち上げます。



- ▶ 刺しゅう枠が刺しゅう枠ホルダーから外れます。

- 4 押えレバーをさらに上げて、押えの下から刺しゅう枠を取り出します。

このとき、押えレバーは固定されません。



注意



- 操作スイッチには触れないでください。操作スイッチに手が接触すると、ミシンが動き、針が折れたり、針で指をさすおそれがあります。

刺しゅう模様を選びましょう

刺しゅうする模様を選択します。

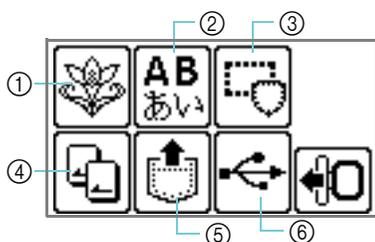


お願い

- ミシン本体や別売の刺しゅうカードに内蔵されている刺しゅう模様は、一般家庭用としてのみご利用いただけます。営利または業務目的で使用することは、著作権法上固く禁じられておりますのでご注意ください。

刺しゅう模様の種類

刺しゅう模様には、次のグループがあります。



- ① **ワンポイント模様**
花や動物など 56 の模様があります。液晶画面に表示される指示に従って上糸を交換しながら刺しゅうを完成させます。模様の選び方については、「ワンポイント模様を選ぶ」(→P.152)を参照してください。
- ② **アルファベット (5 書体)**
大文字/小文字/数字/記号 (13 文字) /ヨーロッパ文字があります。模様の選び方については、「文字模様を選ぶ」(→P.150)を参照してください。
かな (ゴシック体/明朝体/丸文字)
ひらがな/カタカナ/漢字 (27 文字) /数字/記号 (7 文字) があります。模様の選び方については、「文字模様を選ぶ」(→P.150)を参照してください。
- ③ **枠模様**
四角や円などの 10 種類の形と、12 種類のステッチを組み合わせることができます。模様の選び方については、「枠模様を選ぶ」(→P.152)を参照してください。
- ④ **刺しゅうカード**
別売の刺しゅうカードの模様を刺しゅうするときには押します。模様の選び方については、「刺しゅうカードを使う」(→P.153)を参照してください。

- ⑤ **ミシンに記憶させた模様の呼び出し**
よく使用する文字の組み合わせなどの模様をミシンに記憶させて、あとで呼び出して刺しゅうすることができます。12 組までの模様を記憶させることができます。記憶のさせ方と呼び出し方については、「模様を記憶させる」(→P.172)、「模様を呼び出す」(→P.172)を参照してください。
- ⑥ **USB フラッシュメモリー (USB フラッシュドライブ) からの模様の取り込み**
USB フラッシュメモリーから模様を取り込んで刺しゅうすることができます。



お願い

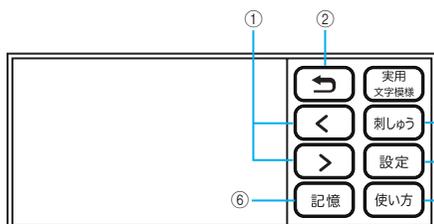
- このミシンの USB ポートには、USB フラッシュメモリー (USB フラッシュドライブ) のみ取り付けることができます。

詳細は「パソコンの模様を呼び出す」(→P.169)を参照してください。

液晶画面の操作

操作パネルの操作キーを使用しながら、液晶画面を操作します。ここでは、刺しゅうをするときのキーの使い方を説明します。

■ 操作キー

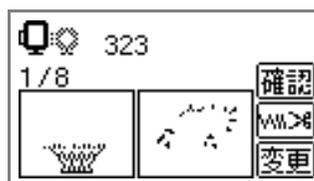
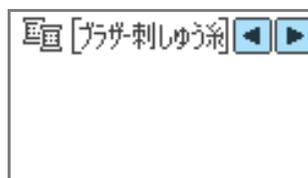


- ① 液晶画面に表示されていない模様が
 あるとき (または が表示されているとき) に、前候補 / 次候補を表示します。
- ② 1つ前の画面に戻ります。
- ③ 刺しゅう模様グループを選択する画面に戻ります。選択していた模様は取り消されます。
- ④ 刺しゅう中に、糸番号 / 糸色名 / 針数のどれを表示するか設定します。「刺しゅう中の表示設定」を参照してください。
- ⑤ 刺しゅう機の取り付け / 取り外し方などを確認します。
- ⑥ 文字の組み合わせなど、よく使用する模様をマシンに記憶させます。

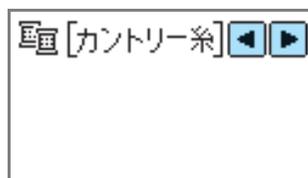
□ 刺しゅう中の表示設定

を押して を押した後、 で刺しゅう中に表示させる項目を選択します。

ブラザー刺しゅう糸：ウルトラポスの色番号



カントリー系：カントリー系の色番号



時間：刺しゅうに必要な時間



針数：針が進んだ数



糸色名：一般的な色の名称



■ 液晶画面のキー

[画面例：アルファベット選択画面]



選択した文字模様の文字列を確認することができます。◀ ▶ で表示を切り替えます。



自動糸切りや糸密度などの糸の設定をします。



自動糸切りを設定／解除します。設定されているときは反転表示されます。



◻ ◻ で糸密度を調節します。
(文字模様と枠模様のみ)



刺しゅうのしかたを設定したり、模様レイアウトを調整したりするときに押します。

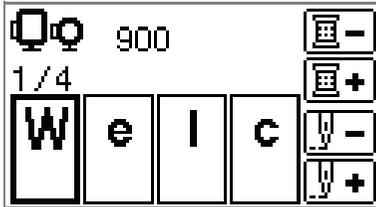


文字模様を1文字ずつ色を替えて刺しゅうするときに押します。1文字刺しゅうするごとにミシンがストップします。色替が設定されているときは反転表示されます。





ぬい目を戻したり進めたりします。特定の糸色のみ 刺しゅうしないときや、ミシンの電源を切ったあと、途中から再開するとき 사용합니다。詳細は、「刺しゅうし直したいとき」(→P.164) で説明します。



1 色戻る



1 色進む



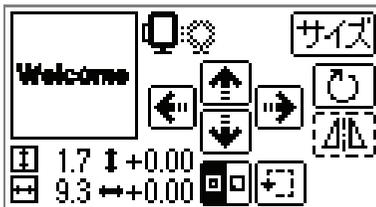
1 針戻る (押したままにすると、9 針→30 針ずつ戻ります。)



1 針進む (押したままにすると、9 針→30 針ずつ進みます。)



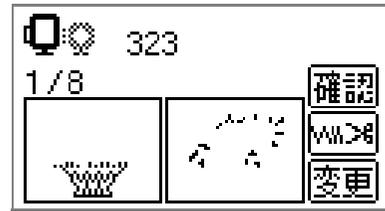
刺しゅう枠内の模様を確認したり、模様のおおきさや角度を變更したりします。詳細は、「模様のおレイアウトやおおきさを調整する」(→P.160) で説明します。



お知らせ

- 液晶画面のキーが点線でお表示されているとき (例: ) は、その機能は使用できません。

[画面例：ワンポイント模様選択画面]



選択した模様のお色替の順番を確認することができます。  で表示を切り替えます。



文字模様を選ぶ

刺しゅうする文字を選択します。

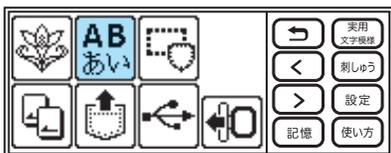


お知らせ

- 「模様が枠からはみだします。」と表示されたときは、それ以上文字を選択することはできません。
- 異なるグループ（アルファベットとかな、ゴシック体と明朝体など）の文字を組み合わせることはできません。
- 組み合わせた文字をマシンに記憶させることができます。詳細は、「模様を記憶させる」（→P.172）で説明します。

1

AB
あい を押します。



2

文字グループを選択します。



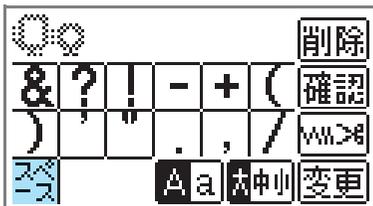
3

文字を選択します。



お知らせ

- 誤って文字を選択したときは、**削除** を押します。
- 文字と文字の間にスペースを入れたい場合
 - ・ アルファベットのとき を押します。
 - ・ ひらがな / カタカナのとき を押してから、 を押します。



□ [例] 「Welcome」 を選択する場合

Aa 大文字 / 小文字切り替え

大中小 大 / 中 / 小切り替え



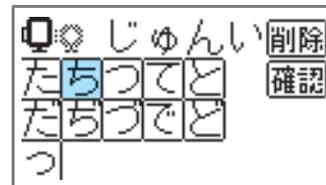
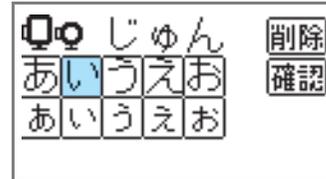
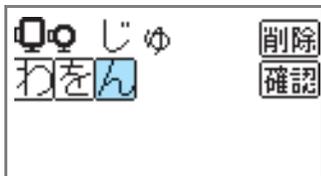
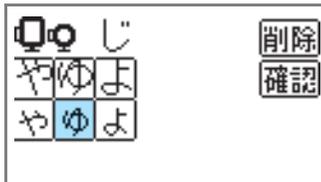
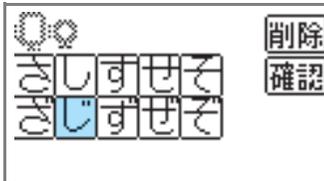


□ [例] 「じゅんいち」を選択する場合

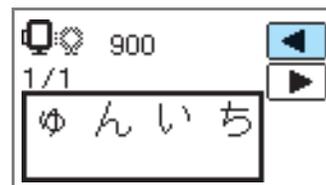
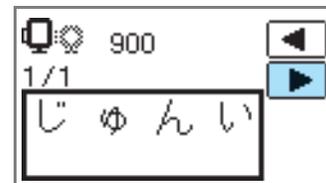
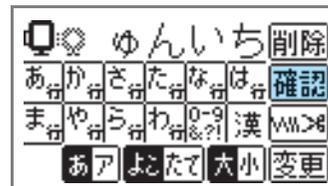
あア ひらがな/カタカナ切り替え

大 小 大/小切り替え

よたて 縦書き/横書き切り替え



選択した文字を確認するときは、**確認** を押します。



ワンポイント模様を選ぶ

花や動物など、56のワンポイント模様が内蔵されています。



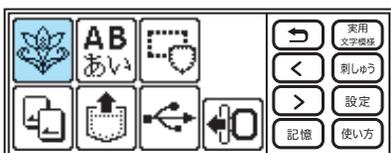
ワンポイント模様 (56)



お知らせ

- 模様のできあがり見本と使用する糸については、操作早見表の「刺しゅう模様一覧」を参照してください。

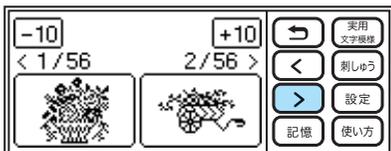
1 ワンポイント模様を選択します。



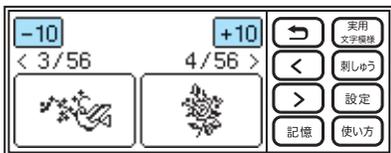
▶ 模様を選択画面が表示されます。

2 模様を選択します。

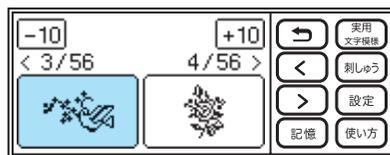
[<] (前ページキー) [>] (次ページキー) で画面を切り替えます。



[-10] [+10] を押すと、- 10 番目 / + 10 番目の模様を表示することができます。



希望の模様が表示されたら、画面上の模様を押して選択します。



▶ 縫製画面が表示されます。



枠模様を選ぶ

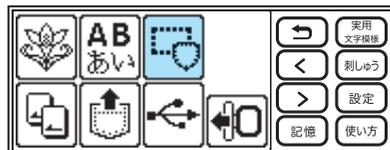
四角や円などの10種類の形と、12種類のステッチを組み合わせることができます。



お知らせ

- 枠の形とステッチについては、操作早見表の「刺しゅう模様一覧」を参照してください。

1 [] を押します。



▶ 枠の形の選択画面が表示されます。

2 枠の形を選択します。

[<] (前ページキー) [>] (次ページキー) で画面を切り替えて、10種類の中から選択します。



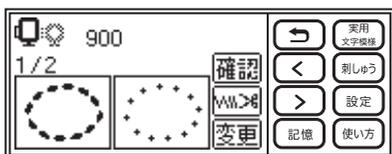
▶ 枠のステッチの選択画面が表示されます。

3 枠のステッチを選択します。

 (前ページキー)  (次ページキー)
で画面を切り替えて、12種類の中から選択します。



▶ 縫製画面が表示されます。



刺しゅうカードを使う

ミシン本体に内蔵されている模様以外に、別売の刺しゅうカードの模様を刺しゅうすることができます。刺しゅうカードには、テーマ別にいろいろな模様があります。



お願い

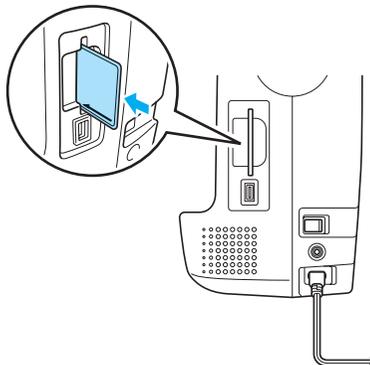
- 刺しゅうカードは、必ず電源を切って抜き差ししてください。
- 刺しゅうカードは、刺しゅうカード差し込み口に正しい方向に差し込んでください。
- 刺しゅうカード差し込み口に、刺しゅうカード以外のものを入れないでください。
- 刺しゅうカードを使用しないときは、収納ケースに入れて保管してください。
- 当社の刺しゅうカード以外のカードを使用すると、ミシンが誤作動するおそれがあります。必ず、当社正規の刺しゅうカードを使用してください。
- 外国で販売されている刺しゅうカードは使用できません。
- 刺しゅうカードに内蔵されている大きな模様は、液晶画面で見にくい場合があります。ご了承ください。

1 電源を切ります。

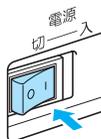


2 ミシン本体右側面の刺しゅうカード差し込み口に刺しゅうカードを差し込みます。

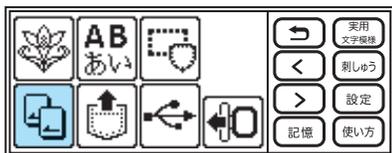
刺しゅうカードに記されている矢印を手前にして、まっすぐにいっぱいまで差し込みます。



3 電源を入れます。



4  を押します。



▶ 模様を選択画面が表示されます。

お知らせ

- 「刺しゅうカードを入れてください。」と表示される場合は、刺しゅうカードが正しく差し込まれていません。ミシンの電源を切り、刺しゅうカードを抜いて、**2** からやり直してください。

5 模様を選択します。

「ワンポイント模様を選ぶ」(→P.152)と同様に操作します。



■ 漢字カードの場合

漢字カードに添付されている文字コード表を参照して、4桁の数字を入力します。



お知らせ

- 数字をまちがえたときは、**削除** を押します。

▶ 入力した文字コードの漢字が表示されます。



お知らせ

- 文字を組み合わせるときは、続けて次の文字の文字コードを入力します。

刺しゅうをしてみましょう

準備ができたら刺しゅうしてみましょう。ここでは、ワンポイント模様の場合を例に説明します。

刺しゅうする前に模様を確認する

刺しゅう枠が動いて刺しゅうする位置を示します。刺しゅう枠の動きを見て正しい位置に刺しゅうされるかを確認してください。

1 模様を選択してから、**変更**を押します。

▶ 模様画面が表示されます。

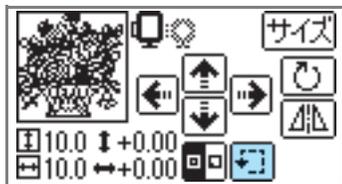


2 **レイアウト**を押します。

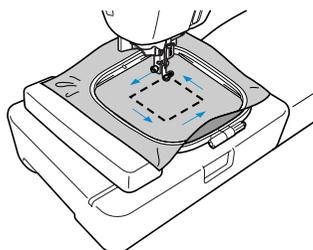


▶ レイアウト調整画面が表示されます。

3 **実行**を押します。



▶ 刺しゅう枠が動き、刺しゅうの範囲を示します。



注意



- 刺しゅう枠が動いているときは、針を絶対に下げないで下さい。針が折れたり曲がったりすると、けがの原因になります。

ワンポイント模様を刺しゅうする

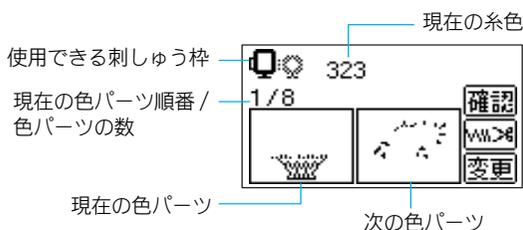
ワンポイント模様は、1色ごとに糸色を替えて刺しゅうします。



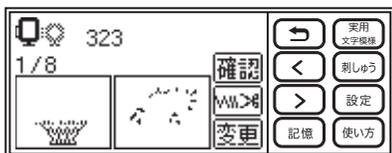
お願い

- 下糸は、必ず刺しゅう用の下糸を使用してください。

1 液晶画面に表示される色の刺しゅう糸を用意します。



液晶画面の糸色表示は、**設定** (設定キー) を押して、ブラザー刺しゅう糸番号/カントリー糸番号/ぬい時間/針数/糸色名の間で切り替えることができます。糸色表示の切り替え方については、「刺しゅう中の表示設定」(→P.147)を参照してください。



[例] 糸色名で表示する場合



2 刺しゅう糸をセットし、針に糸を通します。

- ・「上糸を通す」(→P.36)を参照してください。

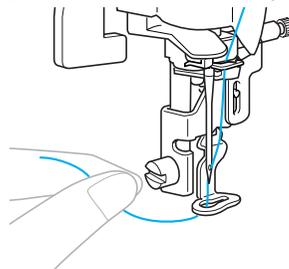


お願い

- 糸通し装置を使用するときは、必ず押えを下げてください。

3 刺しゅう押え<Q>の穴に糸を通し、左手で軽く持ちます。

糸にたるみを持たせておきます。

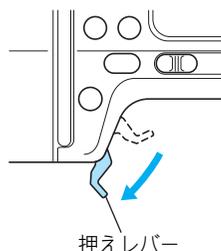


注意

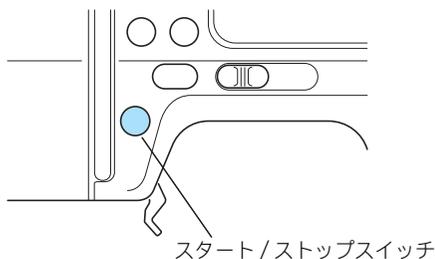


- 糸を引っ張りすぎると、針が折れたり曲がったりするおそれがあります。
- 縫製中に手や物がキャリッジに当たらないようにしてください。模様がくずれるおそれがあります。

4 押えレバーを下げます。



- 5  (スタート/ストップスイッチ) を押します。



! 注意

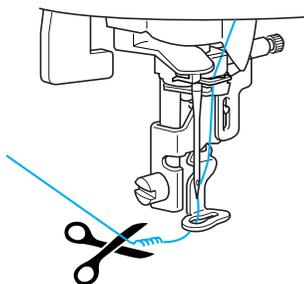


- 使用できないサイズの刺しゅう枠で刺しゅうをすると、針が刺しゅう枠に当たり、針折れやけがの原因となります。使用できるサイズの刺しゅう枠が取り付けられていることを確認してから、刺しゅうをしてください。

- 6 5~6針ぬったら  (スタート/ストップスイッチ) を押して、ミシンをストップさせます。

- 7 ぬい始めの余分な糸をはさみで切ります。

ぬい目のきわで糸を切ります。



お願い

- ぬい始めの余分な糸を残したまま刺しゅうを続けると、模様の中に糸がぬい込まれてきれいに始末しにくくなります。ぬい始めの糸は、1色ごとにはさみで切ってください。

- 8  (スタート/ストップスイッチ) を押して、刺しゅうを再開します。

- ▶ 1色目を刺しゅうし終わると、自動的に止めぬいをしてストップします。自動糸切りを設定しているときは、糸が切れます。

- 9 次の色の刺しゅう糸を用意し、 ~  を繰り返します。

- ▶ 最後の色を刺しゅうし終わると、「ぬい終わりました」と表示されます。 を押すと、もとの画面に戻ります。

- 10 余分な渡り糸を切ります。



お知らせ

- 自動糸切りの設定については、「液晶画面のキー」(→P.148) を参照してください。

アップリケをする

アップリケ刺しゅうをする時の基本の手順は次のとおりです。

1. アップリケピースを作る
↓
2. 土台の布地にアップリケの位置をぬう
↓
3. アップリケピースを土台用の布地に貼り付ける
↓
4. 残りのパーツをぬいあげる

■ 用意するもの

- ・ アップリケピース用の布
- ・ アップリケ土台用の布
- ・ 刺しゅう用接着芯
- ・ 手芸用のり
- ・ 刺しゅう糸

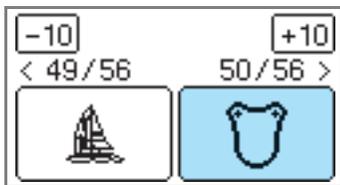


お願い

-  (設定) (設定キー) を押して、糸色表示を「糸色名」、「プラザー刺しゅう糸」、「カントリー刺しゅう糸」のいずれかに設定してください。
- 液晶画面の糸色が「アップリケピース」「アップリケノイチ」[アップリケ]と表示されるときは、使用する糸色名・糸番号が表示されませんので、アップリケ模様合った糸色を選択してください。

1. アププリケピースを作る

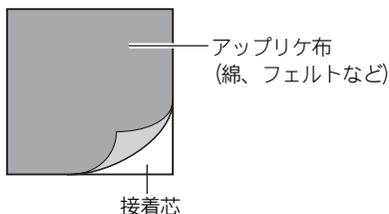
1 アププリケ模様を選択します。



▶ 液晶画面に「アププリケピース」と表示されます。

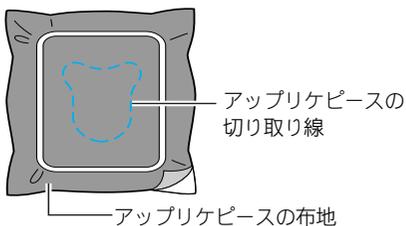


2 アププリケピースの布地の裏に接着芯を貼ります。布地を刺しゅう枠に張り、刺しゅう機にセットします。

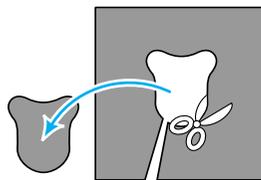


3 刺しゅう糸をセットし、押えレバーを下げ、(スタート/ストップスイッチ) を押し、アププリケピースの切り取り線をぬいます。

▶ アププリケピースの切り取り線をぬってミシンが止まります。液晶画面の糸色表示が「アププリケノイチ」に変わります。



4 アププリケピースの布地を刺しゅう枠から取り外し、ぬい目の上をていねいに切り取ります。



お願い

- ぬい目よりも内側を切るとアププリケをぬうときに布地に糸がかからなくなりますので、必ずぬい目の上をていねいに切り取ってください。
- アププリケピースを切り取った後、糸はきれいに取り除いてください。

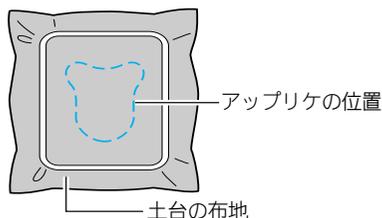
2. 土台の布地にアププリケの位置をぬう

1 アププリケの土台になる布地の裏側に接着芯を貼ります。布地を刺しゅう枠に張り、刺しゅう機にセットします。

2 刺しゅう糸をセットし、押えレバーを下げ、(スタート/ストップスイッチ) を押し、アププリケの位置をぬいます。



▶ アププリケの位置をぬってミシンが止まります。液晶画面の糸色表示が「アププリケ」に変わります。



- 3 刺しゅう枠を刺しゅう機から取り外します。

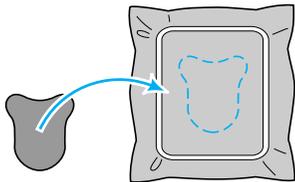


お願い

- 土台用の布は、模様をすべてぬい終わるまで刺しゅう枠から外さないでください。

3. アププリケピースを土台用の布地に貼り付ける

- 1 アププリケピースの裏側に手芸用のりを薄く付け、「2 土台の布地にアププリケの位置をぬう」の②でぬった「アププリケの位置」の輪かく線に合わせてしっかり貼り付けます。



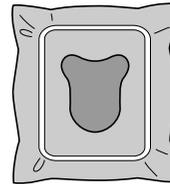
お願い

- アププリケピースを土台布にしっかり貼り付けていないと、ぬっているあいだにピースが浮き上がり、模様とピースがずれてしまうおそれがあります。
- 手芸用のりでアププリケピースを土台布にしっかり固定できない場合は、しつけ糸で仮止めぬいをしてピースを固定してください。

- 2 アププリケピースを貼り付けたら、刺しゅう枠をミシンにセットします。刺しゅう糸をセットし、押えレバーを下げ、 (スタート/ストップスイッチ) を押し、アププリケ部分をぬいます。

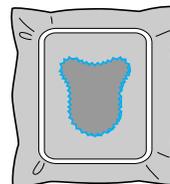


- ▶ アププリケピースを土台の布地にぬって、ミシンがストップします。



4. 残りのパーツをぬいあげる

- 1 糸替えの順番に従って、刺しゅう糸を交換しながら残りのパーツを刺しゅうします。



お知らせ

- 押えや針、針板にのりが付くことがありますので、アププリケ模様の刺しゅうが終わったら、のりをきれいに拭き取ってください。
- きれいに仕上げるために、糸替えごとに余分な糸は切ってください。

こんなとき

ここでは、模様レイアウト調整のしかたや他の便利な機能を説明します。

模様のレイアウトや大きさを調整する

模様を選択すると、刺しゅう枠の中心に配置されます。刺しゅうを始める前にレイアウトを確認し、位置や大きさを変更することができます。

1 刺しゅう模様を選択したら、**変更**を押します。

▶ 模様画面が表示されます。

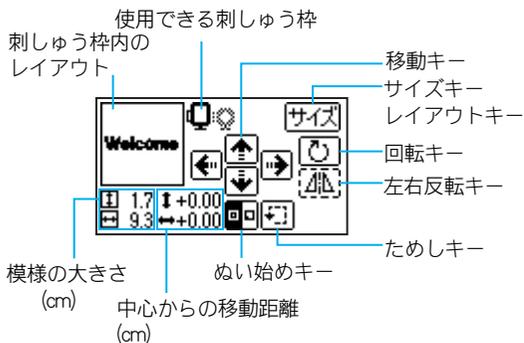


2 **レイアウト**を押します。



▶ レイアウト調整画面が表示されます。

3 レイアウトや大きさを確認し、調整します。



刺しゅう枠のサイズ

使用できる刺しゅう枠のサイズを表します。小さい方のマークがうすく表示されているときは、刺しゅう枠[S] (別売品) は使用できません。模様を移動させたりして、使用できる刺しゅう枠のサイズが変わると、マークが点滅します。

注意

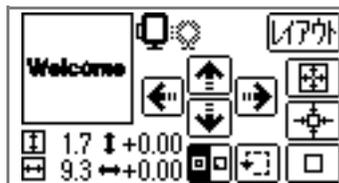


- 使用できないサイズの刺しゅう枠で刺しゅうをすると、押えが刺しゅう枠に当たり、針折れやけがの原因となります。使用できるサイズの刺しゅう枠が取り付けられていることを確認してから、刺しゅうをしてください。



サイズキー

模様を拡大／縮小します。押すと、**レイアウト**に変わります。**レイアウト**を押すと、もとの画面に戻ります。



縮小



- ・ もとの大きさに戻す
- ・ もとの位置に戻す



拡大



移動キー

模様を上下左右に移動させます。

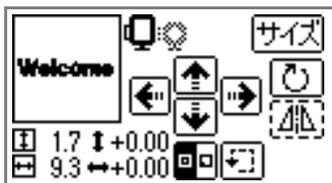


お知らせ

- 模様を移動させると、移動した模様は元の位置へ戻ります。サイズ変更や左右反転をしてから模様を移動させてください。
- 模様を移動させると、移動した模様は元の位置へ戻ります。サイズ変更や左右反転をしてから模様を移動させてください。
- 模様を移動させると、移動した模様は元の位置へ戻ります。サイズ変更や左右反転をしてから模様を移動させてください。

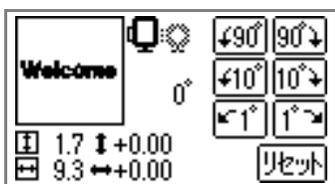
レイアウト

レイアウトキー
模様を回転させたり、左右反転させたりします。



回転キー
模様を1°ずつ、10°ずつ、または90°ずつ回転させます。

(戻るキー)を押すと、もとの画面に戻ります。



90° 反時計回りに90°回転

90° 時計回りに90°回転

10° 反時計回りに10°回転

10° 時計回りに10°回転

1° 反時計回りに1°回転

1° 時計回りに1°回転

リセット もとの角度 (0°)に戻す



お知らせ

- 刺しゅうの範囲が10cm×10cmをはみ出している場合、角度の微調整ができないことがあります。



左右反転キー
模様を左右反転させます。



お知らせ

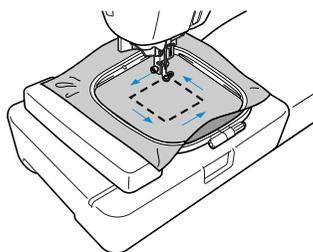
- 左右反転は、ワンポイント模様と枠模様のみ可能です。



ぬい始め位置切り替えキー
ぬい始めの位置を中心、または左下に切り替えます。(戻るキー)を押すと、もとの画面に戻ります。



ためしキー
刺しゅう機のキャリッジが移動し、刺しゅうの範囲を確認できます。



注意



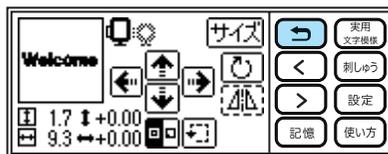
- 刺しゅう枠が動いているときは、針を絶対に下げないでください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。



- レイアウトを調整したあとは、必ず使用できる刺しゅう枠のサイズを確認してください。使用できないサイズの刺しゅう枠を使用すると、刺しゅう枠が押えに当たり、けがの原因となります。

4

(戻るキー)を押して、もとの画面に戻ります。



お知らせ

- 液晶画面のキーが点線で表示されているとき(例: **レイアウト**)は、その機能は使用できません。
- レイアウトを調整した模様をミシンに記憶させることができます。詳細は、「模様を記憶させる」(→P.172)を参照してください。
- 電源を切ると、調整した模様のレイアウトや大きさは、元の設定に戻ります。
- 刺しゅうを始めた後も、**レイアウト**を押すと、模様の高さや中心からの移動距離を確認できます。

糸調子を調節する

糸調子が正しく設定されていないと、刺しゅうを失敗したときに、糸をほどくことが難しく、布地をいためることがあります。刺しゅうを始める前に、同じ布地のはぎれを使用して糸調子などを確認してください。

上糸の糸調子は、本体の糸調子ダイヤルで調節します。刺しゅうぬいの時は、ダイヤルに色がついている2～6の範囲で糸調子を調節してください。



お知らせ

- 表側の刺しゅう糸がたるんで糸の締りがゆるい場合や、表側に糸のループができてしまう場合は、糸調子ダイヤルを1目盛りほど強くしてぬい直します。

■ 正しい糸調子

布地の裏に上糸が少し見えます。



■ 上糸が強いとき

布地の表に下糸が見えている場合は、上糸を弱くします。



■ 上糸が弱いとき

上糸がたるんでいる場合は、上糸を強くします。



お願い

- 下糸セットと上糸通しが正しく行われていない場合、糸調子が合わないことがあります。糸調子を調節しても糸調子が合わないときは、下糸セットと上糸通しをやり直してください。
- 糸調子ダイヤルを極端に弱く設定すると、途中でミシンが停止する場合がありますが故障ではありません。糸調子ダイヤルを少し強めにセットしてぬい直してください。

長い文字をつなげてぬう

組み合わせた文字が刺しゅう枠内に入りきらないときは、以下の手順でぬいます。

■ [例] “ABC” と “DEF” をつなげてぬう場合

- 1 "ABC" を選択し、 を押します。



- 2 を にして、自動糸切りを解除します。



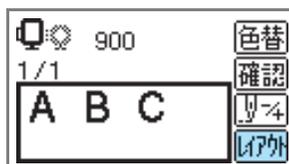
- 3 (戻るキー) を押します。



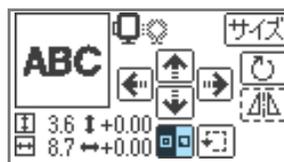
- 4 を押します。



- 5 を押します。



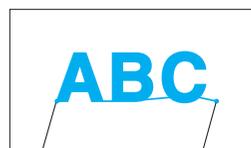
- 6 を押して にします。



▶ ぬい始めの針位置が左下になります。

- 7 押えを下げ、 (スタート/ストップスイッチ) を押してぬいます。

- 8 ぬい終わりの糸を長めに切り、次の“DEF” がぬえる位置に布地を張り替えます。



ぬい始めの位置 ぬい終わりの位置

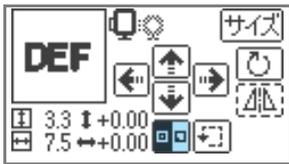
- 9 “DEF” を選択し、 を押します。



- 10 を押します。

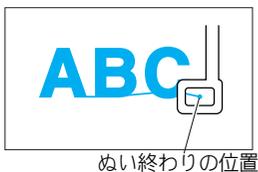


- 11  を押して  にします。



▶ めい始めの針位置が左下になります。

- 12  を押し、“ABC” のめい終わりの位置に針を合わせます。



- 13 押えを下げ、 (スタート/ストップスイッチ) を押してぬいます。



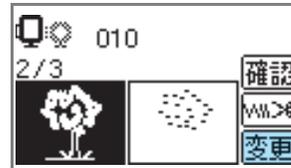
- 14 めい終わったら糸を切ります。

刺しゅうし直したいとき

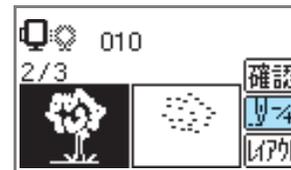
上糸の色を誤って刺しゅうしたときは、正しい色の上糸をセットして刺しゅうし直します。

- 1  (スタート/ストップスイッチ) を押してミシンをストップさせます。

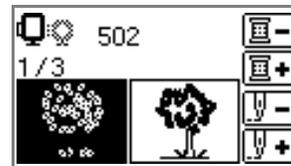
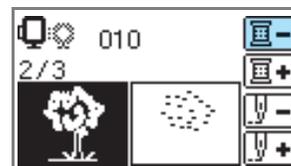
- 2  を押します。



- 3  を押します。



- 4  (1色戻る) を押して、色を誤ったパーツの先頭に戻します。もう一度  を押すとさらに前の色に戻ります。



- 5 正しい色の上糸をセットします。

- 6  (スタート/ストップスイッチ) を押して刺しゅうを再開します。

途中で糸がなくなったとき

刺しゅうの途中で上糸または下糸がなくなると、ミシンが自動的にストップします。その場合は、10針ほど前に戻して重ねてぬいます。

1 上糸または下糸をセットします。



お知らせ

- 下糸がなくなった場合は、糸を切って刺しゅう枠を外してから、下糸を交換してください。

2 変更を押します。



お知らせ

- 針数が表示されていないときは、針数を表示させてください。詳細は、「刺しゅうを中断するとき」(→P.165)を参照してください。

3 W+を押します。



4 W- (1針戻る) を押して、ミシンがストップしたところより10針ほど前まで針数を戻します。

針数を進めるときは、W+ (1針進む) を押します。



5 刺しゅうを再開します。



刺しゅうを中断するとき

刺しゅうを中断するときは、電源を切る前に現在の針数やレイアウト設定を確認しておきます。



お知らせ

- 電源を切ると、模様の大さやレイアウトはもとに戻ります。レイアウトを変更した場合は、再び設定を行ってください。

1 (スタート/ストップスイッチ) を押してミシンをストップさせます。

2 液晶画面に表示されている現在の針数を控えます。



針数が表示されていないときは、設定 (設定キー) を押して表示を切り替えます。戻る (戻るキー) を押すと、もとの画面に戻ります。

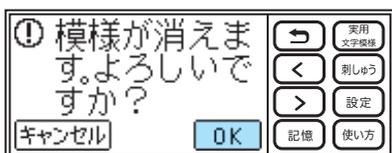


3 **刺しゅう** (刺しゅうキー) を押します。



▶ 確認メッセージが表示されます。

4 **OK** を押します。



▶ 選択した模様が消え、模様を選択画面に戻ります。

5 **電源を切ります。**



お願い

- ミシンを移動させるときは、必ず刺しゅう機を取り外してください。

6 **電源を入れ、模様を選択します。**



お知らせ

- 模様の高さやレイアウトを変更して刺しゅうをしていた場合は、再び中断前と同様に設定を行ってください。詳細は、「模様の高さやレイアウトを調整する」(→ P.160) を参照してください。

7 **変更** を押します。



8 **レイアウト** を押します。



9 **色進む** (1色進む) を押して、刺しゅうする色パーツの先頭に進めます。



10 **針進む** (1針進む) を押して、針数を進めます。

針進む を押したままにすると、1針→9針→30針ずつ進みます。



中断したところより10針ほど前まで針数を進めます。



11 **刺しゅうを再開します。**

模様記憶機能を使う

刺しゅうデータに関する注意

このミシンで作成・記憶させたデータ以外の刺しゅうデータを扱うときは、次の点に注意してください。

⚠ 注意

- 弊社正規の模様以外の刺しゅうデータを使用する際は、糸密度が細かすぎる場合や3回以上の重ねぬいをする場合があります。糸切れや針折れが発生するおそれがあります。そのような場合は、弊社正規の刺しゅうソフト（刺しゅう PRO など）で刺しゅうデータを修正して使用してください。

■ 使用可能な刺しゅうデータの種類

- ・ このミシンで扱える刺しゅうデータは、.pen、.pes、.dst ファイルのみです。.pen ファイルはコピー防止機能付きの刺しゅうデータ、.pes ファイルは当社正規のデータ作成装置（刺しゅう PRO など）で作成された刺しゅうデータです。
- ・ 当社正規のデータ作成装置またはミシンで作成された模様以外のデータを扱うと、ミシンが誤動作するおそれがあります。
- ・ .pen ファイルについては、当社インターネットの刺しゅうデータダウンロードサイト「ハートステッチズ」 (<https://sewco-world.brother.co.jp/heartstitches/index.aspx>) で今後掲載される情報をご参照ください。

■ 使用可能な USB メディアの種類

USB フラッシュメモリー（USB フラッシュドライブ）（どの容量でも可）が使用可能です。

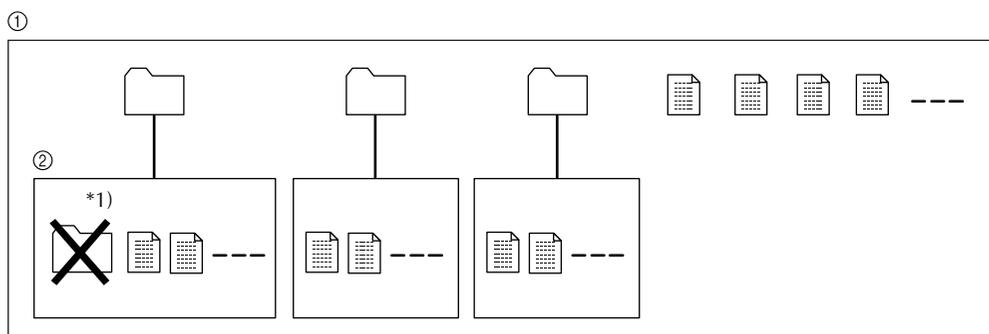
🌟 お願い

- このミシンの USB ポートコネクタには、USB フラッシュメモリー（USB フラッシュドライブ）以外は接続することができません。
- USB フラッシュメモリーの中には、このミシンに対応できないものもあります。対応機種については、弊社のウェブサイトをご覧ください。
- アクセスインジケータ付 USB フラッシュメモリーを使用する場合は、パソコンやミシンに USB フラッシュメモリーを挿入したときに、アクセスインジケータが点滅し始め、USB フラッシュメモリーが認識されるまで約 5～6 秒かかることがあります。（USB フラッシュメモリーの種類によって、認識されるまでの時間が異なります。）
- その他の情報については、お持ちの USB フラッシュメモリーに付属の取扱説明書を参照してください。

■ パソコンで作成・保存するときの注意

- ・ 刺しゅうデータのフォルダー名またはファイル名に特殊記号等を使用すると、ミシンがそれを認識できないために模様が表示されないことがあります。その場合は、ファイル名を変更してください。アルファベット（大文字と小文字）、数字（0～9）、「-」、「_」のみの使用をおすすめします。
- ・ 針数、色数、組み合わせ模様数の制限を越えてデザインされた .pes ファイル、.pen ファイルは使用できません。弊社正規の刺しゅうソフト（刺しゅう PRO など）で、制限内のデザインに修正して使用してください。
- ・ 刺しゅう機が取り付けられていなくても、ミシンは刺しゅうデータを認識することができます。

- 刺しゅうデータは、USB フラッシュメモリーのルートフォルダーに直接保存するか、またはサブフォルダー内に直接保存してください。もし刺しゅうデータをサブフォルダー内のフォルダーに保存した場合、ミシンからファイルを読み出すことはできません。
下図を参考に、刺しゅうデータファイルを USB フラッシュメモリーに保存してください。



- ① USB フラッシュメモリーのルートフォルダー
- ② サブフォルダー

 : フォルダー

 : 刺しゅうデータファイル

*1) サブフォルダー内には、フォルダーを作成しないでください。

- ミシンで呼び出すことのできる USB フラッシュメモリー内の刺しゅうデータファイルとフォルダーの合計数は、最大で 200 個です。(例えば、5 個のフォルダーと 195 個の刺しゅうデータファイルを読み出すことができます。) 201 個以上のファイル (フォルダーも含む) を保存した場合、ミシンが USB フラッシュメモリーの内容を認識できなくなるため、模様を読み出すことができません。そのような場合は、保存したファイル (フォルダーも含む) の数を減らしてください。
- 刺しゅうデザインの色数が多すぎる場合 (色数はデザインによって変わります)、USB フラッシュメモリー内のファイル (フォルダーも含む) の数が 200 個以内であっても、ミシンが刺しゅう模様を読み出すことができなくなることがあります。そのような場合も、保存したファイル (フォルダーも含む) の数を減らしてください。

お知らせ

- フォルダー名とファイル名には、半角文字と半角数字のみ使用することができます。フォルダー名またはファイル名を半角 8 文字以内にすれば、画面に名前がフルネームで表示されます。もし 8 文字以上にした場合は、最初の 6 文字と、続いて「～」と数字のみが表示されます。この現象は、フォルダー名と .dst 刺しゅうデータファイル名のみ起こります。

■ タジマフォーマット (.dst) の刺しゅうデータについて

- ・ .dst データは模様一覧画面にファイル名で表示されます。(実際の絵柄は表示されません。) 実際の絵柄を表示するには、 を押してください。

パソコンの模様を呼び出す

USB フラッシュメモリーを使用して、パソコンに保存された模様をマシンへ呼び出すことができます。以下の手順に従って進めてください。

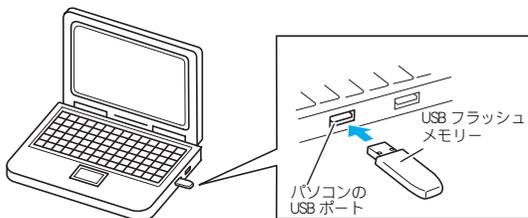
- 1 「刺しゅうデータに関する注意」(→ P.167 ~ 168) をよく読んでから、パソコン内に刺しゅうデータを準備します。



お願い

- 「刺しゅうデータに関する注意」(→ P.167 ~ 168) にあるすべての注意事項をよく読み、理解してください。理解しない状態で進めると、模様データをマシンに正しく呼び出せないおそれがあります。

- 2 パソコンのUSBポートにUSBフラッシュメモリーを差し込みます。



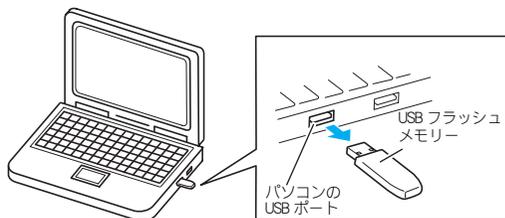
- 3 パソコンで「コンピュータ (マイコンピュータ)」を開き、「リムーバブルディスク」を選択します。



- 4 「リムーバブルディスク」内に、刺しゅうデータ (フォルダー・模様データ) をコピーします。



- 5 パソコンのUSBポートからUSBフラッシュメモリーを注意して取り外します。(下記「注意」参照。)



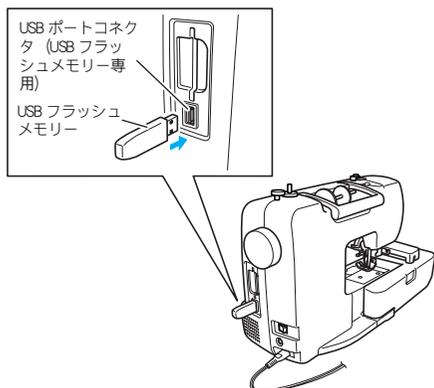
注意

- USBフラッシュメモリーを取り外す前に、Windows® XP/Windows Vista®/Windows® 7のタスクバーにある「ハードウェアの安全な取り外し」をクリックしてください。取り外しの安全が確認されたら、パソコンからUSBフラッシュメモリーを取り外してください。

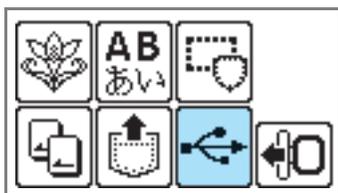
Windows Vista® の場合



6 ミシンのUSBポートコネクタにUSBフラッシュメモリーを差し込みます。



7  を押します。



- ▶ USBフラッシュメモリーのルートフォルダー内にあるフォルダー、または模様データが表示されます。

 **お知らせ**

- 最初にフォルダー名が  のアイコン上にアルファベット順に表示され、次に .pes ファイル、.pen ファイル、.dst ファイルが  のアイコン上にアルファベット順にて表示されます。



- .pes ファイル、.pen ファイルには模様の絵柄が表示され、.dst ファイルにはファイル名・ファイルフォーマット・ファイルサイズが表示されます。

 **お願い**

- USBフラッシュメモリーに含まれている模様数が201個以上（フォルダーも含む）ある場合、または（模様数が201個以上なくても）刺しゅうデザインの色数が多すぎる場合は、「模様を減らしてください」というエラーメッセージが表示されます。その場合は、ミシンからUSBフラッシュメモリーを取り外し、パソコン上で模様数を減らしてください。ミシンのエラーメッセージを消して、手順 **6** からやり直してください。

8 呼び出す模様データが入ったフォルダー、または模様ファイルを選択します。

◀ (前ページキー) ▶ (次ページキー) で画面 (ページ) を切り替えます。

現在表示されているページ/総ページ数



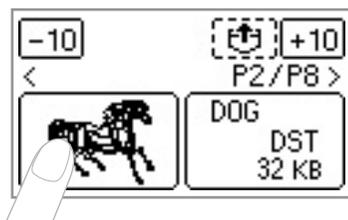
・ ◀ / ▶ を押すと、10 個前または 10 個後のフォルダー・模様表示に切り替えます。

■ フォルダーを選択したとき



▶ フォルダー内の模様データが表示されます。手順 9 に進んでください。

■ 模様ファイルを選択したとき



▶ 模様が反転表示されます。手順 10 に進んでください。

9 呼び出す模様を選択します。



① フォルダー名 (フォルダーを選択したときは、6 文字まで表示)

・ ルートフォルダーに戻るには、◀ を押します。

10 ◀ を押します。



*1) この部分の表示は手順 8 の操作によって異なります。

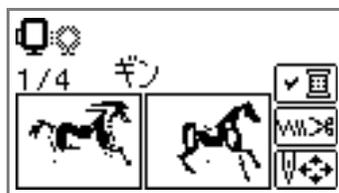
▶ 模様が呼び出されます。

▶ 刺しゅう画面が表示されたら、準備完了です。

11 ミシンに模様を記憶したい場合は、記憶 を押します。



12 必要に応じて模様を調整してから刺しゅうをはじめます。



模様を記憶させる

名前などのよく使用する文字の組み合わせや、大きさや位置を調整した模様などをミシンに記憶させることができます。一度記憶した模様はミシンの電源を切っても消えることはありませんので、いつでも模様を呼び出すことができます。12組までの模様または512KBまでのデータ量を記憶させることができます。

- 1 記憶させる模様を選択したら、**記憶**（記憶キー）を押します。



- ▶ 「記憶中」と表示されます。完了すると、もとの画面に戻ります。



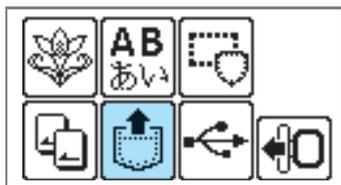
お願い

- 記憶中は、ミシンの電源を切らないでください。途中で電源を切ると、模様データが消えることがあります。

模様を呼び出す

模様をミシンに記憶させた模様を呼び出して、刺しゅうすることができます。

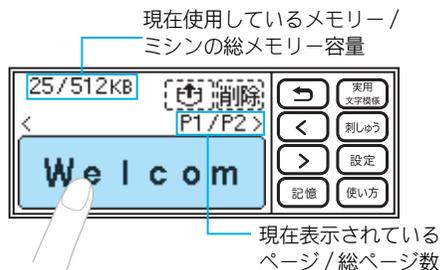
- 1 **呼び出し** を押します。



- ▶ ミシンに記憶させた模様が表示されます。

- 2 呼び出す模様を選択します。

左（前ページキー） **右**（次ページキー）で画面を切り替えて、呼び出す模様のキーを押します。



- ▶ 模様が反転表示されます。

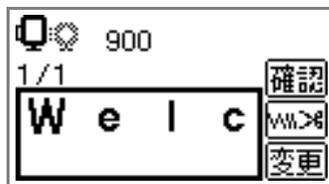
- 3 **削除** を押します。

削除 を押すと、選択した模様を消去します。



- ▶ 模様が呼び出され、縫製画面が表示されます。

- 4 必要に応じて模様を調整してから、刺しゅうします。



5

付録

ここでは、ミシンのお手入れ方法と困ったときの対処方法などを紹介します。

お手入れ.....	174
困ったとき.....	176
USB フラッシュメモリーを使ってのアップグレードの方法.....	194
本体仕様.....	195
さくいん.....	196

お手入れ

簡単なミシンのお手入れ方法を説明します。

注油に関して

お客様ご自身による本製品への注油は行わないでください。故障の原因となります。

本製品の動作に必要な油はあらかじめ十分に塗布されて出荷されていますので、定期的に注油する必要はありません。

万一、プーリーを回すと重い、異常な音がするなどの症状が発生した場合は、ただちに使用をやめて、お買い上げの販売店またはお客様相談室（ミシン 119 番）にご相談ください。

ミシンを保管するときのご注意

以下の場所にミシンを保管しないでください。結露によるさびの発生など、故障の原因となります。

- ・ 温度が著しく高くなる場所
- ・ 温度が著しく低くなる場所
- ・ 急激に温度が変化する場所
- ・ 湿気、湯気の多い場所
- ・ 火気や熱器具、冷暖房機器などに近い場所
- ・ 屋外や直射日光の当たる場所
- ・ ほこり、油煙の多い場所



お願い

- 本製品を末永くご愛用いただくために、ときどき電源を入れて、縫製してください。長期間保管したまま使用しない状態が続くと、ミシンの性能を損なうおそれがあります。

本体表面の掃除

ミシン本体表面の汚れを取るときは、中性洗剤をうすめて布に浸して固くしぼり、ふき取ります。洗剤でふいたあとは、乾いた布でふき取ります。

注意



- 必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。けが・感電の原因となります。

かまの掃除

針板の下にあるかまを掃除します。かまには糸くずやほこりがたまりやすく、縫製不良になる場合があります。定期的に掃除してください。

1 電源を切ります。



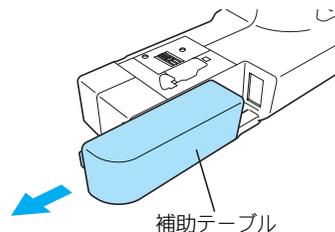
2 電源プラグをコンセントから抜きます。

注意

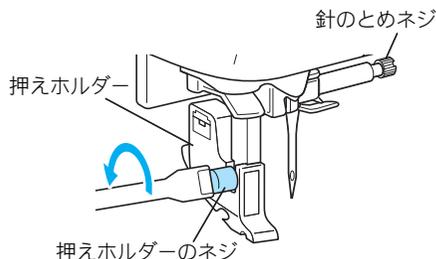


- 必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。けが・感電の原因となります。

3 補助テーブルを左へ引いて取り外します。



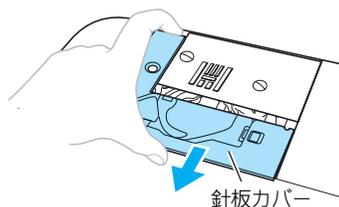
4 付属のドライバーで、押えホルダーのネジをゆるめて押えホルダーを外し、針のとめネジをゆるめて針を抜きます。（→ P.42）



- 5 付属のネジ回しで針板カバーのネジを外します。

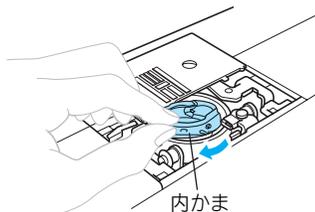


- 6 針板カバーの向こう側に指を引っかけ、手前にスライドさせます。

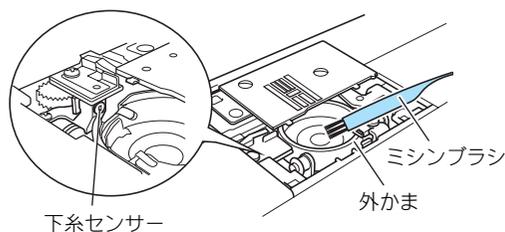


▶ 針板カバーが外れます。

- 7 内かまを取り出します。
内かまの手前部分を持って、上に引き出します。



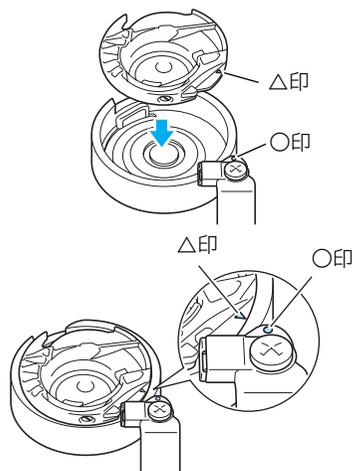
- 8 付属のミシンプラシや掃除機で、外かま周辺の糸くずやほこりを取り除きます。



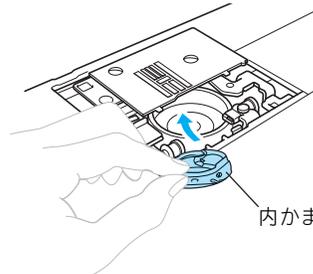
お願い

- 内かまに油をささないでください。
- 糸くずやほこりが下系センサー部分にたまると、センサーが正常に作動しないことがあります。

- 9 下図のように△印と○印が合うように、内かまを取り付けます。

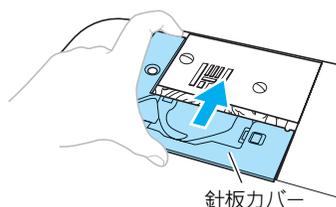


・ △印と○印を合わせます。



・ 合わせる位置を確認してから、取り付けを行ってください。

- 10 針板カバーのツメの部分針板に差し込んでから、奥にスライドさせます。



- 11 ネジ回して針板カバーのネジをしめ、補助テーブルをもとに戻します。

注意



- キズが付いた内かまは使用しないでください。万一、使用すると、上糸がからみ、針折れや縫製不良の原因となります。内かまは最寄りの販売店でお買い求めください。
- 内かまは正しい位置に取り付けてください。針折れの原因となります。

困ったとき

ミシンが思いどおりに動かないときは、修理を依頼する前に次の項目および弊社サポートページ、ブラザーソリューションセンター（<http://solutions.brother.co.jp>）のQ&Aを確認してください。それでも改善されない場合は、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」（フリーダイヤル 0120-340-233）にご相談ください。

よくあるご相談

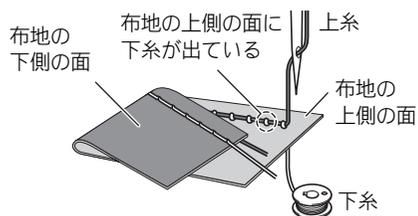
以下のよくあるご相談については、詳しい原因と対処方法を記載しております。お問い合わせの前にご確認ください。

■ 上糸がつる	(→ P.176)
■ 布裏で糸がからまる	(→ P.177)
■ 糸調子が合わない	(→ P.179)
■ 布がミシンに入り込んでとれなくなった	(→ P.180)

上糸がつる

■ こんなとき

- ・ 上糸がピンと一本線になっている。
- ・ 布地の上側の面に下糸がポツポツと出ている（イラスト参照）。
- ・ 上糸がつっていて、引くと抜けてしまう。
- ・ 上糸がつっていて、布にしわがよってしまう。
- ・ 上糸が強く、糸調子を調節しても直してもまったく変わらない。



■ 原因

下糸のセットがまちがっている

下糸のセットがまちがっていると、下糸に適正な張力が加わらず、上糸が引き上げられる際に布地まで一緒に引っぱられてしまいます。そのため、布地の上に糸が出てしまいます。

■ 対処方法／確認内容

下糸を正しくセットしなおします。

- 1 電源を切ります。
- 2 いったんボビンを内かまから取り出します。
- 3 糸が正しい方向から出るように、ボビンを内かまにセットします。

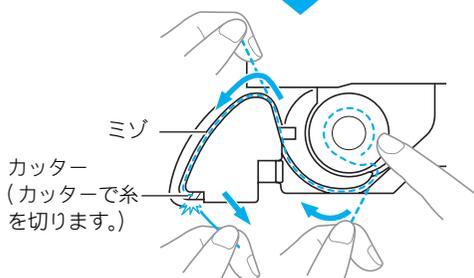
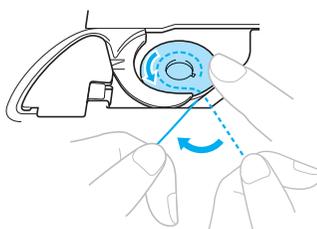
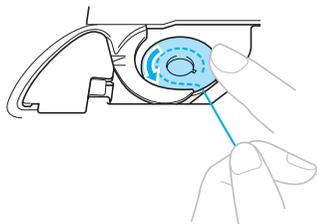
- ・ 糸が必ず左巻きになるように、右手でボビンを持ち、左手で糸端を持ちます。そのまま右手でボビンを内かまに入れます。



糸が逆方向から出た状態でボビンをセットすると、正しい糸調子で縫うことができません。

4 ボビンを指で押さえながら糸を針板のミゾに通します。

- ・ 右手でボビンを押さえ、左手で巻き終わりの糸をツメに引っかけます。糸を引っぱりながら針板のミゾにそって糸を通し、最後に手前に引いてカッターで糸を切ります。

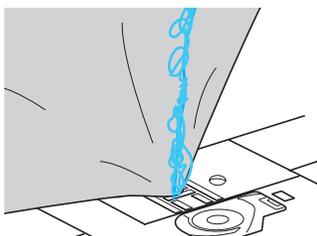


内かまにボビンの糸を正しくセットしなければ、正しい糸調子でぬうことができません。

布裏で糸がからまる

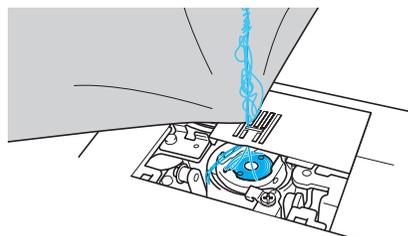
■ こんなとき

- ・ 布の下側で糸がグチャグチャにからんでしまう。



- ・ ぬい始めるとすぐにガタガタと音がして進まなくなる。

- ・ 布地の下側を見ると、かまの中まで糸が何重にもからまっている。



■ 原因

上糸のセットがまちがっている

上糸のセットがまちがっていると、布地を貫通した上糸をしっかりと引き上げることができず、かまの中に上糸がたまり、グチャグチャにからんでしまいます。

■ 対処方法/確認内容

からんだ糸を取り除き、上糸をセットしなおします。

1 からんだ糸を取り除きます。取れない場合は、はさみで糸を切ります。

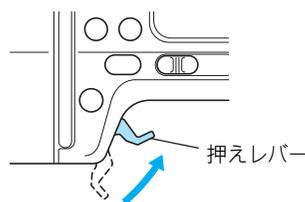
- ・ 「かまの掃除」(→ P. 174)を参照してください。

2 いったん上糸をミシンから取り外します。

3 以下の手順に従って、上糸をもう一度セットしなおします。

- ・ ボビンを内かまから取り出した場合は、「下糸をセットする」(→ P. 33)と「上糸がつる」(→ P. 176)の対処方法/確認内容を参照して、セットしなおしてください。

4 押えレバーを上げます。

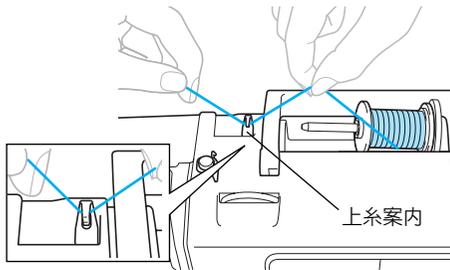


押えが下がった状態では、上糸を正しくセットできません。

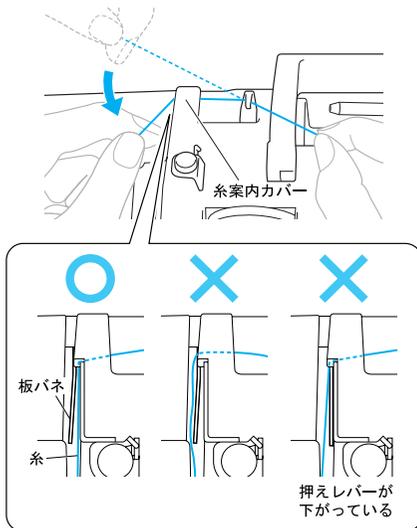
- 5** ⊕ (針上下スイッチ)を1回または2回押し、針を上上げます。
針上下スイッチで針を上上げていなければ、上糸を正しくセットできません。



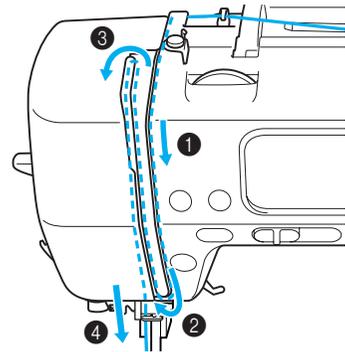
- 6** 糸こまから糸を引き出し、上糸案内のツメ部分に糸をかけます。



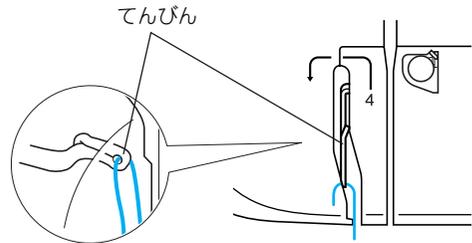
- 7** 糸を糸案内カバーの奥から手前にかけてます。
引き出した糸がたるまないように右手で糸を持ち、左手で糸案内カバーにかけます。



- 8** 下図に示されているように、上糸をかけます。

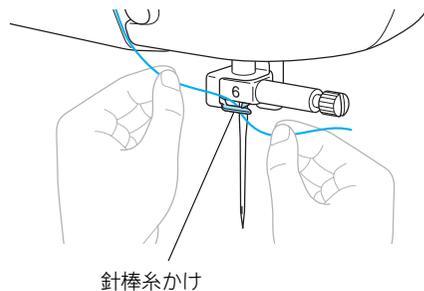


- 9** 図のようにてんびんの右側から左側へ糸がかかっていることを確認します。
てんびんに糸がしっかりとかかっていることが、ぬうことができません。



- ・ 確実にてんびんに糸がかかっていることを確認してください。

- 10** 針棒糸かけに糸を通します。
左手で糸を保持し、右手で糸かけを行うと糸かけがやすくなります。



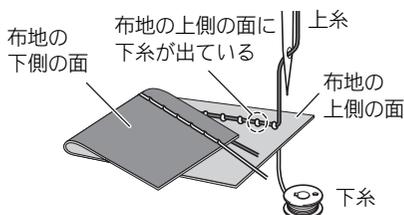
- 11** 「上糸を通す」の⑭～⑰(→P.39～40)に従って針に糸を通します。

糸調子が合わない

■ こんなとき

- ・ 症状① 布地の上側にポツポツと下糸が出ている。
- ・ 症状② 布地の上側で上糸が直線になる。
- ・ 症状③ 布地の下側にポツポツと上糸が出ている。
- ・ 症状④ 布地の下側で下糸が直線になる。
- ・ 症状⑤ 布地の下側のぬい目がゆるい、またはたるむ。

□ 症状①



□ 症状③



■ 原因／対処方法／確認内容

□ 原因 1

糸が正しくミシンにセットされていない。
<上記の症状①、②に該当する場合>
下糸が正しくセットされていません。
上糸調子ダイヤルを標準に戻し、「上糸がつる」(→ P. 176)を参照してセットし直します。

<上記の症状③～⑤に該当する場合>
上糸が正しく通っていません。
上糸調子ダイヤルを標準に戻し、「布裏で糸がからまる」(→ P. 177)を参照して糸をかけ直します。

□ 原因 2

布地に合った糸や針を使用していない。
ミシン針は布地の種類や糸の太さによって使い分けが必要です。
布地に合った糸と針を使用しないと、糸調子が合わなかったり、布地にしわが寄ったり、目とびの原因になったりします。

- ・ 「布地と糸の種類による 針の使い分け」(→ P. 41)の一覧表を参照して、布地に合った糸と針を使用しているか確認してください。

□ 原因 3

上糸調子ダイヤルの数値が適正でない。
上糸調子ダイヤルを回して、適正な糸調子になるように調節します。
使用する布地／糸の種類やぬい方によって、適正な糸調子は異なります。
※ 実際にお使いになる布地の端切れで試しぬいをして、糸調子を調節してください。



お願い

- 上糸の通し方や下糸のセットが正しくされていない場合は、糸調子ダイヤルを回しても糸調子の調節が正しく行えません。上糸かけ、下糸セットの確認を先に行ってから、糸調子の調節を行ってください。
- 布地の上側に下糸が見える場合
上糸調子ダイヤルを数字が小さくなる方向(左方向)に回します。(糸調子を弱くします。)
- 布地の下側に上糸が見える場合
上糸調子ダイヤルを数字が大きくなる方向(右方向)に回します。(糸調子を強くします。)



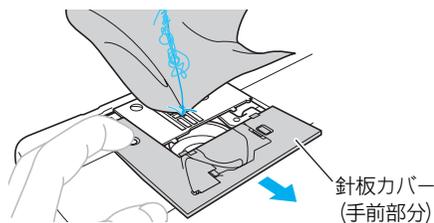
布がミシンに入り込んでとれなくなった

布がミシンに入り込んでとれない場合、糸が針板の下でからんでいることがあります。以下の手順で、布をミシンから取り外してください。

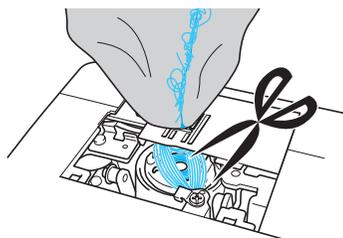
操作が手順どおりに進まない場合は、無理に作業を続けず、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」（フリーダイヤル 0120-340-233）にご相談ください。

■ 布をミシンから取り外す

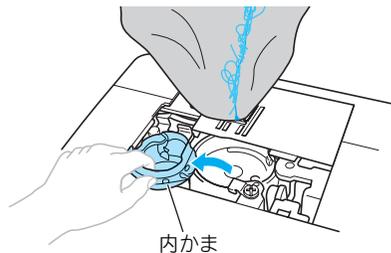
- 1 直ちにミシンを停止させます。
- 2 電源を切ります。
- 3 針を取り外します。
針が布に刺さっている場合は、プーリーを奥側に回して針を布から外してから、針を取り外してください。
・「針を交換する」(→P. 42)を参照してください。
- 4 押えレバーを上げて、押えと押えホルダーを取り外します。
・「押えを交換する」(→P. 44)、「押えホルダーを取り外す」(→P. 46)を参照してください。
- 5 布を持ち上げて、布の下の糸を切ります。
ここで布を取り外すことができる場合は、取り外してください。かまの掃除をするために引き続き、次の手順へお進みください。
- 6 針板カバーを外します。



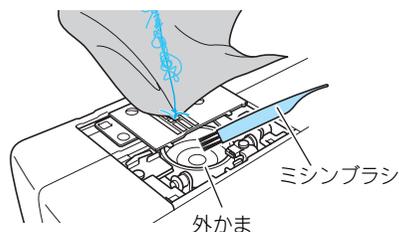
- 7 からんだ糸を切ってポピンを取り出します。



- 8 内かまを取り出します。
内かまに糸が残っている場合は、取り除いてください。

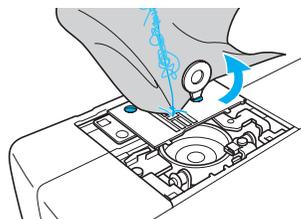


- 9 付属のミシンブラシや掃除機で、外かま周辺の糸くずやほこりを取り除きます。



ここまでの手順で布を取り外せた場合	→ 手順 16 に進む
ここまでの手順で布が取り外せない場合	→ 手順 10 に進む

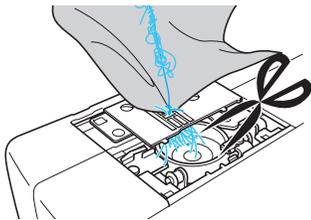
- 10 付属のネジ回しを使って、針板の二つのネジを取り外します。



お願い

- 取り外したネジを、ミシンの中に落とさないように注意してください。

- 11 針板を少し持ち上げ、絡んだ糸を切って、針板を取り外します。
針板から布と糸を取ります。



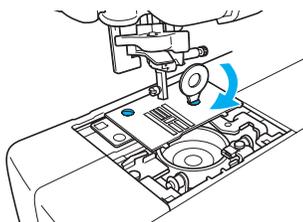
ここまでの手順を終えても布が取り外せない場合は、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」（フリーダイヤル 0120-340-233）にご相談ください。

- 12 かまや送り歯のまわりの糸を取り除きます。

- 13 プーリーを回して、送り歯を上にはげます。

- 14 針板の 2 つのネジ穴を針板取付け部の 2 つの穴に合わせながら、ミシンに針板をはめ込みます。

- 15 針板の右側のネジを手で軽くしめます。次に、左側のネジをネジ回しでしっかりしめます。最後に右のネジもしっかりしめます。



プーリーを回して、送り歯が針板のミゾの端に当たらず、スムーズに動くことを確認してください。



正しい送り歯の位置



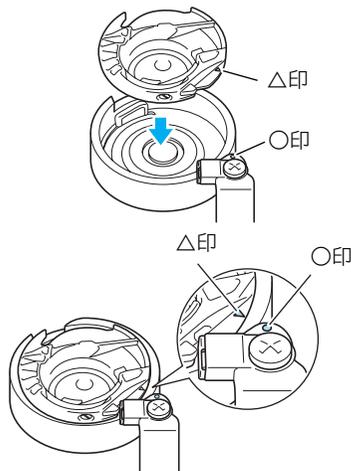
正しくない送り歯の位置



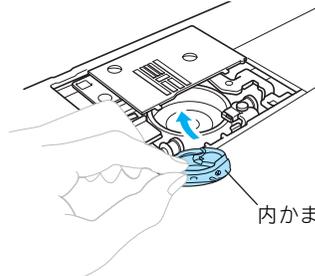
お願い

- 取り外したネジを、ミシンの中に落とさないように注意してください。

- 16 下図のように△印と○印が合うように、内かまを取り付けます。



- ・ △印と○印を合わせます。



- ・ 合わせる位置を確認してから、取り付けを行ってください。

注意



- キズが付いた内かまは使用しないでください。万一、使用すると、上糸がからみ、針折れや縫製不良の原因となります。内かまは最寄りの販売店でお買い求めください。



- 内かまは正しい位置に取り付けてください。針折れの原因となります。

- 17 「かまの掃除」の 10 ~ 11 (→P.175) に従って針板カバーを取り付けます。

18 針の状態を確認して、針をミシンに取り付けます。

曲がっているなど針が悪くなっている場合は、必ず新しい針を取り付けてください。

- ・「正しい針の見分け方」(→P. 42)、「針を交換する」(→P. 42)を参照してください。

注意



- 曲がった針は絶対に使用しないでください。針折れの原因になります。



お願い

- ここまでの手順を終えたあとは、ミシンが正しく動くように、以降の「ミシンの動作を確認する」の手順を続けてください。



お知らせ

- 布がミシンに入り込んだ際に、針が損傷しているおそれがありますので、新しい針に交換することをお勧めします。

■ ミシンの動作を確認する

いったん針板を取り外したあとは、正しく取り付けられていることを確認するために、ミシンの動作確認をしてください。

1 電源を入れます。

2 中基線の模様³ を選択します。

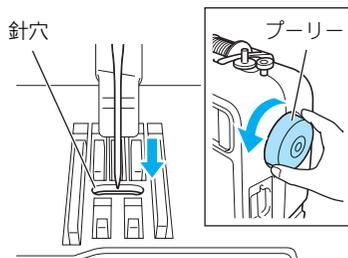


お願い

- 押えと糸は、まだミシンにセットしないでください。

3 プーリーをゆっくりと手前に回し、針が針穴の中央に落ちることを左右前後から見て確認します。

針が針板に当たる場合は、もう一度針板を取り外し、「布をミシンから取り外す」の手順¹³(→P.181) からやり直してください。



4 ジグザグ模様⁷ を選択します。このとき、ぬい目の長さとし振り幅を最大にしてください。

- ・設定の変更については、「模様⁷の幅を調節する」(→P. 61)、「ぬい目の長さを調節する」(→P. 62)を参照してください。

5 プーリーをゆっくりと手前に回し、針棒と送り歯が正しく動くことを確認します。

針や送り歯が針板に当たる場合は、ミシンの故障が考えられますので、お買い上げの販売店、または「お客様相談室(ミシン 119 番)」「フリーダイヤル 0120-340-233)」にご相談ください。

6 電源を切ってから、ボビンと押えをセットします。

- ・「下糸をセットする」(→P. 33)、「押えを交換する」(→P. 44)を参照してください。

7 上糸をかけなおします。

- ・上糸のかけ方については、「上糸を通す」(→P. 36)を参照してください。



お願い

- 上糸が正しくセットされていないと、糸がらみの原因になります。正しく上糸をセットしてください。

8 普通地で試しぬいをします。



お願い

- 正しくぬえない場合、原因として、上糸が正しくセットされていないことや薄い布地を使用していることが考えられます。試しぬいの仕上がりが良くない場合は、上糸のかけ方やお使いの布地を確認してください。

こんなときには

■ めう前の準備

こんなとき	原因	対処	参照ページ
下糸がボビンにきれいに巻けない	下糸巻き案内に糸がしっかりかかっていない。	下糸巻き案内に糸をしっかりとかける。	P. 30
	引き出した糸を正しく巻き付けていない。	引き出した糸は、時計回りに5～6回ボビンに巻き付けます。	P. 30
	ボビンの回転が遅い。	スピードコントロールレバーを「はやく」にします。	P. 30
下糸巻き中、ボビン受け座の下に下糸が巻かれた	下糸の巻き方がまちがっている。	受け座の下に巻かれた糸をほどいた後、下糸を正しく巻きます。	P. 32
針穴に糸が通らない	針が正しい位置にない。	針上下スイッチで針を上げます。	P. 37
	針が正しく取り付けられていない。	針を正しく取り付けます。	P. 42
糸通しレバーが下まで降りない	針が正しい位置にない。	針上下スイッチで針を上げます。	P. 37
ランプが点灯しない	ランプが故障した。	お買い上げの販売店、または「お客様相談室(ミシン 119 番) (フリーダイヤル 0120-340-233)」にご相談ください。	-
	電源が入っていない。	電源を入れます。	P. 23
液晶画面に何も表示されない	液晶画面の明るさが明るすぎる、または暗すぎる。	液晶画面の明るさを調整します。	P. 193
スイッチを押しても動かない	液晶画面にアニメーションが表示されている。	液晶画面に指で触れてアニメーションを消去します。	P. 24
刺しゅうキーを押しても動かない	刺しゅう機が取り付けられていない。	刺しゅう機を取り付けます。	P. 137

■ ぬっているとき

こんなとき	原因	対処	参照ページ
ミシンが動かない	電源が入っていない。	電源を入れます。	P. 23
	スタート/ストップスイッチを押していない。	スタート/ストップスイッチを押します。	P. 56
	押えレバーが上がっている。	押えレバーを下げます。	P. 55
	フットコントローラーを接続した状態で、スタート/ストップスイッチを押している。	フットコントローラーを接続しているときは、スタート/ストップスイッチは使用できません。スタート/ストップスイッチを使用する場合は、フットコントローラーを取り外します。	P. 56
	下糸巻きを行った後、下糸巻き軸が右側のままになっている。	下糸巻き軸を左側に戻します。	P. 31
針が折れる	針が正しく取り付けられていない。	針を正しく取り付けます。	P. 42
	針のとめネジがゆるんでいる。	ドライバーでとめネジをしっかりしめめます。	P. 43
	針が曲がっている。針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	P. 42
	針が布地や糸に合っていない。	布地に合った糸と針を使用します。	P. 41
	模様にあった押えを使用していない。	模様にあった押えを取り付けます。	P. 44
	上糸調子が強すぎる。	上糸調子を弱くします。	P. 62
	布地を無理に引っ張っている。	布地は軽く押さえます。	-
	糸こまや糸こま押えが正しく取り付けられていない。	糸こまと糸こま押えを正しく取り付けます。	P. 29
	針板の穴の周囲にキズがある。	針板を交換します。お買い上げの販売店、または「お客様相談室(ミシン 119 番)」(フリーダイヤル 0120-340-233)にご相談ください。	-
	押えの穴の周辺にキズがある。	押えを交換します。お買い上げの販売店、または「お客様相談室(ミシン 119 番)」(フリーダイヤル 0120-340-233)にご相談ください。	-
	内かまにキズがある。	内かまを交換します。お買い上げの販売店、または「お客様相談室(ミシン 119 番)」(フリーダイヤル 0120-340-233)にご相談ください。	-
	本製品純正のポピンを使用していない。	本製品純正のポピンを使用してください。	P. 33
上糸のセットがまちがっている。	上糸を正しくセットします。	P. 36	

こんなとき	原因	対処	参照ページ
上糸が切れる	糸こまが正しくセットされていない。	糸こまを正しく取り付けます。	P. 29
	糸こま押えの大きさが合っていない。	糸こまの大きさに合った糸こま押えを使用します。	P. 29
	針棒糸かけから糸が外れている。	針棒糸かけに糸を正しく掛けます。	P. 38
	糸に結び目やこぶがある。	その部分を取り除きます。	-
	針が糸に合っていない。	糸に合った針を使用します。	P. 41
	上糸調子が強すぎる。	上糸調子を弱くします。	P. 62
	糸がからまって、かまなどに詰まっている。	からんだ糸を取り除きます。かまに詰まっていた場合は、掃除します。	P. 174
	針が曲がっている。針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	P. 42
	針が正しく取り付けられていない。	針を正しく取り付けます。	
	針板の穴の周囲にキズがある。	針板を交換します。 お買い上げの販売店、または「お客様相談室(ミシン 119 番) (フリーダイヤル 0120-340-233) にご相談ください。	-
	押えの穴の周辺にキズがある。	押えを交換します。 お買い上げの販売店、または「お客様相談室(ミシン 119 番) (フリーダイヤル 0120-340-233) にご相談ください。	-
内かまにキズがある。	内かまを交換します。 お買い上げの販売店、または「お客様相談室(ミシン 119 番) (フリーダイヤル 0120-340-233) にご相談ください。	-	
本製品純正のポピンを使用していない。	本製品純正のポピンを使用してください。	P. 33	
下糸がからまる 下糸が切れる	下糸のセットがまちがっている。	下糸を正しくセットします。	P. 33
	ポピンにキズがあり、回転がなめらかでない。	ポピンを交換します。	-
	糸がからまっている。	からんだ糸を取り除き、かまを掃除します。	P. 174
	本製品純正のポピンを使用していない。	本製品純正のポピンを使用してください。	P. 33
布地にしわがよる	上糸または下糸のセットがまちがっている。	上糸、下糸を正しくセットします。	P. 33 P. 36

こんなとき	原因	対処	参照ページ
布地にしわがよる	糸こまが正しく取り付けられていない。	糸こまを正しく取り付けます。	P. 29
	布地に糸や針が合っていない。	布地に合った糸と針を使用します。	P. 41
	針が曲がっている。針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	P. 42
	薄地の場合に、ぬい目があらずぎる。	ぬい目を細かくします。または布地の下にハترون紙などを敷いてぬいます。	P. 62 P. 69
	糸調子が合っていない。	糸調子を調節します。	P. 62
ぬい目がとぶ	上糸のセットがまちがっている。	上糸を正しくセットします。	P. 36
	布地に糸や針が合っていない。	布地に合った糸と針を使用します。	P. 41
	針が曲がっている。針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	P. 42
	針の取り付け方がまちがっている。	針を正しく取り付けます。	P. 42
	針板の下やかまにほこりなどがたまっている。	針板ふたを取り外してかまを掃除します。	P. 174
ぬっているときの音が高い ガタガタと音がする	送り歯やかまにほこりがたまっている。	かまを掃除します。	P. 174
	上糸のセットがまちがっている。	上糸を正しくセットします。	P. 36
	内かまにキズがある。	内かまを交換します。 お買い上げの販売店、または「お客様相談室(ミシン 119 番)」(フリーダイヤル 0120-340-233)にご相談ください。	-
	本製品純正のポピンを使用していない。	本製品純正のポピンを使用してください。	P. 33
布地を送らない	送り歯が下がっている。	ドロップレバーを右に動かします。	P. 106
	ぬい目が細かすぎる。	ぬい目の長さを長くします。	P. 62
	模様にあった押えを使用していない。	模様にあった押えを取り付けます。	P. 44
	糸がからまって、かまなどに詰まっている。	からんだ糸を取り除きます。かまに詰まっていた場合は、掃除します。	P. 174
布地が逆方向に送られる	送り機構が故障した。	お買い上げの販売店、または「お客様相談室(ミシン 119 番)」(フリーダイヤル 0120-340-233)にご相談ください。	-
刺しゅう機が動かない	模様を選択していない。	模様を選択します。	P. 146
	刺しゅう機が正しくセットされていない。	刺しゅう機を正しくセットします。	P. 137

■ 仕上がり

こんなとき	原因	対処	参照ページ
布裏で糸がからまる	上糸のセットがまちがっている。	上糸を正しくセットします。	P. 36
糸調子が合わない	上糸のセットがまちがっている。	上糸を正しくセットします。 糸案内カバー左にあるバネに糸が正しくかかっていることを確認します。	P. 36 P. 38
	下糸のセットがまちがっている。	下糸を正しくセットします。	P. 33
	布地に糸や針が合っていない。	布地に合った糸と針を使用します。	P. 41
	押えホルダーが正しく取り付けられていない。	押えホルダーを正しく取り付けます。	P. 46
	糸調子が合っていない。	糸調子を調節します。	P. 62
	本製品純正のポピンを使用していない。	本製品純正のポピンを使用してください。	P. 33
上糸がつる	下糸のセットがまちがっている。	下糸を正しくセットします。	P. 33
模様がきれいにぬえない	模様にあった押えを使用していない。	模様にあった押えを取り付けます。	P. 44
	糸調子が合っていない。	糸調子を調節します。	P. 62
	糸がからまって、かまなどに詰まっている。	からんだ糸を取り除きます。かまに詰まっていた場合は、掃除します。	P. 174
きれいに刺しゅうできない	刺しゅう枠に布地がきちんと張られていない。布地の張り方がゆるい。	刺しゅう枠に布地を正しく張ります。	P. 141
	接着芯を貼っていない。	刺しゅう用接着芯を貼ります。	P. 140
	糸がからまって、かまなどに詰まっている。	からんだ糸を取り除きます。かまに詰まっていた場合は、掃除します。	P. 174
	糸調子が合っていない。	糸調子を調節します。	P. 162
	上糸のセットがまちがっている。	上糸を正しくセットします。 糸案内カバー左にあるバネに糸が正しくかかっていることを確認します。	P. 36 P. 38
	下糸のセットがまちがっている。	下糸を正しくセットします。	P. 33
	キャリッジや刺しゅう枠の周辺にものが置いてある。	刺しゅう機のキャリッジや刺しゅう枠がものにぶつくと、模様がくずれます。刺しゅう枠が動く範囲には、ものを置かないようにしてください。	P. 138

こんなとき	原因	対処	参照ページ
きれいに刺しゅうできない	刺しゅう枠からはみ出した布地が、じゃまになっている。	刺しゅう枠からはみ出した布地がじゃまにならないように布地を張り替え、模様を回転させて刺しゅうをします。	-
	重たい衣類に刺しゅうしていて、テーブルから布地が垂れ下がっている。	布地がテーブルから垂れ下がった状態で刺しゅうをすると、刺しゅう機の動きが悪くなります。布地が垂れ下がらないようにしてください。	-
	布地がひっかかっている。はさみ込まれている。	ミシンをストップさせて、布地を正しい状態にします。	-
	刺しゅうの途中で、刺しゅう枠を取り外したり取り付けたりしたときに、キャリッジを動かした。	途中でキャリッジを動かすと、模様くずれの原因となります。刺しゅう枠を取り外したり取り付けたりするときは、注意してください。	-

液晶画面のメッセージ表示

誤った操作をしたときのメッセージや操作のアドバイスが、液晶画面に表示されます。表示された内容に従ってください。

以下に記載のないメッセージが表示された場合は、お買い上げの「販売店」または「お客様相談室（ミシン 119 番）」までお問い合わせください。

表示	原因
<p>▲ 説明書のエラーメッセージをみてください。 <input type="button" value="閉じる"/></p>	<p>上糸がかまにからんだ、針が曲がって針板に当たったなどでミシンが停止した。(→ P.183)</p>
<p>① 上糸が切れていないか確かめてください。 <input type="button" value="閉じる"/></p>	<p>上糸が切れた。 上糸が正しくセットされていない。 上糸がなくなった。</p>
<p>① 押えレバーを上げてください。</p>	<p>押えが下がった状態で、刺しゅう機の初期設定を行おうとした。</p>
<p>① 押えレバーを下げてください。 <input type="button" value="閉じる"/></p>	<p>押えが上がった状態で、スタート/ストップスイッチ・返しぬいスイッチ・糸切りスイッチのいずれかを押した。</p>
<p>記憶中</p>	<p>模様の記憶中。</p>
<p>① このカードは使用できません。 <input type="button" value="閉じる"/></p>	<p>本製品で使用できない刺しゅうカードをセットして、カードの模様を選択しようとした。 別売の刺しゅう PRO を使用してオリジナルカードに模様を書き込む際、本製品に適さない刺しゅう枠サイズを選択し、そのカードの模様を選択しようとした。 セットしたオリジナルカードに模様が保存されていなかった。</p>
<p>① この画面ではぬえません。 <input type="button" value="閉じる"/></p>	<p>縫製画面以外で、スタート/ストップスイッチまたは返しぬいスイッチを押した。</p>
<p>① この模様は使えません。 <input type="button" value="閉じる"/></p>	<p>このミシンで使用できない模様を選択しようとした。</p>

表示	原因
<p>① これ以上組合せできません。</p> <p><input type="button" value="閉じる"/></p>	71文字以上の文字を組み合わせようとした。
<p>① 刺しゅうカードを入れてください。</p> <p><input type="button" value="閉じる"/></p>	刺しゅうカードがセットされていないときに、液晶画面の  を押した。
<p>① 刺しゅう機がついていない時には使えません。</p> <p><input type="button" value="閉じる"/></p>	刺しゅう機が取り付けられていないときに、刺しゅうキーを押した。
<p>① 刺しゅう機がついている時には使えません。</p> <p><input type="button" value="閉じる"/></p>	刺しゅう機が取り付けられているときに、使用できない機能を使用しようとした。
<p>▲ 刺しゅうキャリッジが動きます。注意してください。</p> <p><input type="button" value="OK"/></p>	刺しゅう機を取り付けた。
<p>① 下糸が少なくなりました。下糸を巻いてください。</p> <p><input type="button" value="閉じる"/></p>	下糸がなくなった。 下糸が残り少なくなった。
<p>① 下糸巻き軸を左に戻してください。</p> <p><input type="button" value="閉じる"/></p>	下糸巻き軸を右にした状態で、返しぬいスイッチ・針上下スイッチ・糸切りスイッチのいずれかを押した。
<p>下糸巻き中</p>	下糸巻き装置で下糸巻き動作中。
<p>① 設定条件を記憶します。よろしいですか？</p> <p><input type="button" value="キャンセル"/> <input type="button" value="OK"/></p>	実用模様の設定を変更して、 <input type="button" value="記憶"/> を押したとき。

表示	原因
<p>① 電源を切って刺しゅう機を取り外して「閉じる」ください。</p>	<p>刺しゅう機が取り付けられているときに、実用/文字模様キーを押した。</p>
<p>① 針が下の時にはこのスイッチは使えませ「閉じる」ん。</p>	<p>針が下がった状態で、刺しゅう模様の選択やレイアウトの変更をしようとした。</p>
<p>① 針上下スイッチで針を上「閉じる」げてください。</p>	<p>針が下がっているときに、ミシンが動く動作をしようとした。</p>
<p>① フットコントローラーを「閉じる」はさずしてください。</p>	<p>刺しゅうのときに、フットコントローラーを使用しようとした。フットコントローラーが取り付けられた状態で、スタート/ストップスイッチを押した。</p>
<p>① 振幅コントロールをOFF「閉じる」にしてください。</p>	<p>振幅コントロールがONの状態、フットコントローラーを接続せずにスタート/ストップスイッチを押した。振幅コントロールが使用できない模様を選択した。(→P.107)</p>
<p>① 模様が消えます。よろしいですか？ 「キャンセル」 「OK」</p>	<p>模様を選択した状態で、戻るキーまたは刺しゅうキーを押した。</p>
<p>① ボタン穴かがりレバーを「閉じる」上げてください。</p>	<p>ボタン穴かがりレバーが下がった状態で、ボタン穴かがり・かんどめ・ダーニング以外の模様を選択してスタート/ストップスイッチまたは返しぬいスイッチを押した。</p>
<p>① ボタン穴かがりレバーを「閉じる」下げてください。</p>	<p>ボタン穴かがりレバーが上がった状態で、ボタン穴かがり・かんどめ・ダーニングを選択してスタート/ストップスイッチを押した。</p>
<p>① 模様を選んでください。 「閉じる」</p>	<p>模様を選択していない状態で、スタート/ストップスイッチまたは返しぬいスイッチを押した。</p>

表示	原因
<p>① 模様を枠からはみだします。</p> <p><input type="button" value="閉じる"/></p>	<p>刺しゅう枠に入りきれない文字数を設定しようとした。</p>
<p>① 容量がたりません。模様を消してください。</p> <p><input type="button" value="キャンセル"/> <input type="button" value="削除"/></p>	<p>記憶エリアがいっぱいのときに、さらに記憶させようとした。</p>
<p>① 模様を呼び出してください。</p> <p><input type="button" value="閉じる"/></p>	<p>ミシンに記憶した模様または USB ポートから入力した刺しゅう模様を選択した後、呼び出しキーを押さずにスタート/ストップスイッチを押した。</p>
<p>① 模様を減らしてください。</p> <p><input type="button" value="閉じる"/></p>	<p>USB フラッシュメモリー (USB フラッシュドライブ) に 201 個以上の模様データ (フォルダーも含む) が入っているときに、模様を呼び出そうとした。</p> <p>または、保存データが 200 個以内であっても、色数の多い模様データが入っているときに、模様を呼び出そうとした。</p>
<p>① USBメディアを入れてください。</p> <p><input type="button" value="閉じる"/></p>	<p>USB フラッシュメモリーを接続せずに、模様を呼び出した。</p> <p>対応機種ではない USB フラッシュメモリーを使おうとした。</p>
<p>① USBメディアを読み込んでいる最中に交換しないでください。</p> <p><input type="button" value="閉じる"/></p>	<p>USB フラッシュメモリーを読み込んでいる状態で、USB フラッシュメモリーを抜き、再び挿して模様を選択しようとした。</p>
<p>F1 ~ F7</p>	<p>ミシンが故障していることを考えられますので、お買い上げの販売店またはお客様相談室 (0120-340-233) までお問い合わせください。</p>

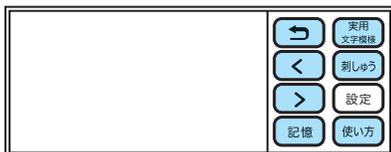
液晶画面に何も表示されな いとき

電源を入れても液晶画面に何も表示されないときは、液晶画面の明るさが明るすぎる、または暗すぎるからです。その場合は、次の操作をしてください。

1 電源を切ります。



2 操作パネルの **設定** (設定キー) 以外のキーを押しながら、電源を入れます。



3 **-** **+** を押して、画面の明るさを調整します。



4 もう一度電源を切って、電源を入れ直します。

電子音

キーを操作しているときや、誤った操作をしたときなどに、電子音が鳴ります。

■ 正しい操作をしたとき

「ピッ」と鳴ります。

■ 誤った操作をしたとき

「ピッピッ」または「ピッピッピッピッ」と鳴ります。

■ 糸がからむなど、ミシンがロックしたとき

「ピッピッピッ・・・」と4秒間鳴り続け、ミシンは自動的に止まります。OK ボタンを押すと、操作可能な状態に戻ります。

必ず原因を確認して改善してから、再開してください。

■ 電子音を消したいとき

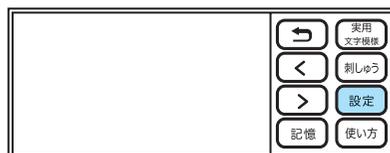
購入時は、操作パネルのキーを操作すると音が鳴るように設定されています。この音を鳴らないように変更できます。

1 電源を入れます。



▶ 液晶画面が点灯します。

2 操作パネルの **設定** (設定キー) を押します。



3 **>** (次ページキー) を2回押します。

4 ブザーの OFF を押します。



5 **←** (戻るキー) を押します。



▶ もとの画面に戻ります。

USB フラッシュメモリーを使ってのアップグレードの方法

USB フラッシュメモリーとパソコンを使用して、ミシンにインストールされているソフトウェアをアップグレードすることができます。アップグレード情報がブラザーソリューションセンター (<http://solutions.brother.co.jp/>) に掲載されましたら、ウェブサイトに記載の手順と下記内容に従ってダウンロードしてください。



お願い

- USB フラッシュメモリーを使ってソフトウェアをアップグレードするときは、USB フラッシュメモリー内にアップグレードファイルだけを保存してください。それ以外のデータが含まれていると、正しくアップグレードすることができません。
- USB フラッシュメモリーはどの容量のものでも使用できます。



お知らせ

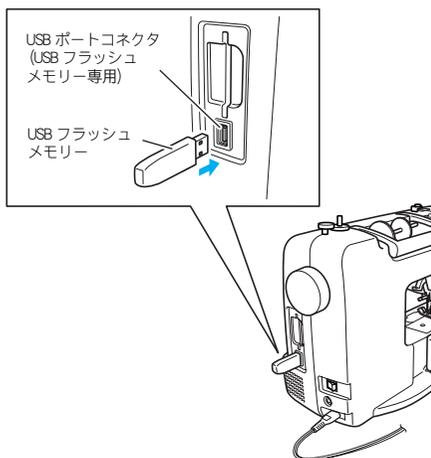
- アップグレードを行うと、記憶した文字または飾り模様を組み合わせ模様データが消去されます。なお、記憶した刺しゅう模様データは消去されません。

1 操作パネルの 設定 (設定キー) を押しながら、電源を入れます。

- ▶ 次の画面が表示されます。

アップグレードファイルが保存されたUSBメディアを接続してください。取り込み

2 ミシンのUSBポートコネクタにUSBフラッシュメモリーを差し込みます。アップグレードファイルのみ保存されているUSBフラッシュメモリーを使用してください。



お知らせ

- アクセスインジケータ付 USB フラッシュメモリーを使用する場合は、パソコンやミシンにUSBフラッシュメモリーを挿入したときに、アクセスインジケータが点滅し始め、USBフラッシュメモリーが認識されるまで約5～6秒かかることがあります。(USBフラッシュメモリーの種類によって、認識されるまでの時間が異なります。)

3 取り込み を押します。

- ▶ 次の画面が表示されます。

ファイルを
書き込んでいます。
電源を切らないで
ください。



お願い

- エラーが発生すると、エラーメッセージが表示されます。その場合は、電源を切り、もう一度①からやり直してください。

4 次の画面が表示されたら、アップグレードは完了です。

アップグレードが
完了しました。

5 USBフラッシュメモリーを取り外し、ミシンの電源を入れ直します。

本体仕様

項目	仕様	
本体寸法	幅 395mm × 高さ 278mm × 奥行 175mm	
本体質量	ミシン本体 : 6.2kg 刺しゅう機 : 1.4kg	
液晶画面	バックライト拡散式	
操作パネル	タッチパネル	
使用ミシン針	家庭用ミシン針 HA × 1	
ランプ	白色 LED	
ぬい速度	毎分 70 ~ 710 針	
定格電圧 / 消費電力	100V / 42W 50 / 60Hz	
搭載模様	実用 : 67 飾り : 30 サテンステッチ : 16 クロスステッチ : 7 飾りステッチ : 9 実用飾り : 39 アルファベット : 55 × 3 書体 ひらがな : 80 カタカナ : 81 数字・記号 : 28 漢字 : 15	
模様の組み合わせ記憶	10 組	
最大振り幅	7.0mm	
最大送り幅	5.0mm	
刺しゅう	刺しゅう範囲	100mm × 100mm
	刺しゅう速度	毎分最大 400 針
	最小ピッチ	0.1mm
	搭載模様	ワンポイント模様 : 56 枠模様 : 10 種、12 ステッチ アルファベット : 5 書体 かな・カナ : 3 書体
	記憶	12 組

さくいん

U	か
USB フラッシュメモリー (USB フラッシュドライブ) 17, 167, 170, 194	カーブをぬう 68
USB ポートコネクタ 17, 170, 194	回転キー 161
あ	返しぬい 58
アーム 47	返しぬいスイッチ 18
アイレット 114	確認 148
あき止まり 109	飾りぬい 115
アップグレード 194	片押え 11, 96
アップリケ 102, 157	片返し 97
厚地をぬう 68	カタカナ 51, 53
アルファベット 51, 52	型紙 12
安全にお使いいただくために 1	カッター 30, 34
い	かま 175
糸案内皿 17	皮をぬう 70
糸案内カバー 16	換気口 17
糸色 156	カントリー糸 15
糸切り 16	かんどめ 109
糸切りスイッチ 18	ガイド付まつりぬい押え 14, 70
糸こま押え 10, 28, 37	ガイドミゾ 30
糸こまネット 10, 29	画面調整 25
糸たて棒 16	画面の明るさ 25, 193
糸調子 62, 162	かんたん操作ガイド 12
糸調子ダイヤル 16	き
糸通しレバー 16, 39	記憶 162
色替 148	記憶キー 19
う	基線 84
ウィングニードル 14, 119	キャリッジ 137
ウォーキングフット 14, 105	キルター 14, 105
薄地をぬう 69	キルティング 104
ウルトラボス 15	ギャザー 117
上糸案内 16	く
上糸を通す 36	組み合わせ 126
え	くり返し 127
液晶画面 16, 19	クレイジーキルト 103
液晶画面の操作 24, 147	こ
エラーメッセージ 189	コンセント 23
お	ゴムテープ付け 100
オープニング画面 25	さ
オープントゥキルト押え 106	サイズキー 160
送り歯 17	サイドカッター押え 14, 81
押え 11, 17	三重ぬい 109
押え固定ピン 11, 69	サンフェロン 11
押えの交換 44	し
押えホルダー 17, 46	シェルタック 118
押えレバー 16, 17	刺しゅう 132
お手入れ 174	刺しゅう糸 132
	刺しゅう押え 12, 134
	刺しゅうカード 15, 153

刺しゅうカード差し込み口	17
刺しゅう機	12, 137
刺しゅうキー	19
刺しゅう機差し込み口	16, 138
刺しゅうシート	12, 142
刺しゅうの記憶	167
刺しゅうの中断	165
刺しゅう範囲	161
刺しゅう模様	146
刺しゅう用水溶性シート	15
刺しゅう用接着芯	11, 15, 132
刺しゅう枠	141, 144
下糸	28
下糸のセット	33
下糸巻き案内	16
下糸巻き軸	31
下糸巻き装置	16
下糸を引き出す	35
しつけぬい	83
伸縮ぬい	99
ジグザグ押え	11, 80, 83, 95, 97, 99, 100, 102, 103, 107, 109, 116, 118, 119
ジグザグの振り幅	61
実用/文字模様キー	19
実用模様	51
自動糸切り	65
自動返しぬい/止めぬい	64
次ページキー	19

す

スカラップ	117
すそ上げをする	85
スタート	56
スタート/ストップスイッチ	18
スピードコントロールレバー	18
スモッキング	117

せ

接着芯	140
設定キー	19
設定の確認・変更	25
設定の記憶	67
前面	16

そ

操作音	193
操作スイッチ	18
操作早見表	12
操作パネル	16, 19
掃除	174
ソーイングネットチラシ	13
速度	56
側面	17
そで付け	109

た

たち目かがり	72, 80, 81
たち目かがり押え	11, 79
タッチペン	12

試しぬい	68
ダーニング	112
ダウンロードガイド	13

ち

直線ぬい	83
著作権	146

つ

使い方	27
使い方キー	19
使いこなしDVD	12
つき合わせ	95, 119
つくるいぬい	112
筒もの	47

て

手で針に糸を通す	40
てんびん	16
電源	23
電源コード	10, 23
電源コンセント	23
電源ジャック	17
電源スイッチ	17, 23
電子音	193

と

特長	9
途中で糸がなくなったとき	165
止めぬい	59
とめネジ	43
トラブル	176
取り外しレバー	139
ドライバー	10, 43
ドロップレバー	17
ドロンワーク	120

ぬ

ぬい方	50
ぬいしろの始末	79
ぬいしろの幅をそろえる	70
ぬい目の長さ	62
布地のセット	55
布をぬい合わせる	83

ね

ネジ回し	10, 175
------	---------

の

伸びる布地をぬう	70
----------	----

は

背面	17
はさみ	11
はとめ穴	114

はとめ穴パンチ	10, 114
針板	17
針板カバー	17
針板ふた	17
針位置	84
張りが強い糸	29
針上下スイッチ	18
針数	148, 165
針停止位置	25
針の交換	41, 42
針の種類	41
針のとめネジ	17
針棒糸かけ	17, 38
反転	128, 161
ハンドル	17
パッチワーク	103
パソコンからの模様の呼び出し	169

ひ

表示言語	25
ひらがな	51, 53
ビニールをぬう	70
ピーシング	103

ふ

ファゴティング	116
ファスナー付け	95
付属品	10
フットコントローラー	14, 57
フットコントローラージャック	17
フリーアーム	47
フリーモーションキルト	106
振り幅	61
振幅コントロール	107
プーリー	17
プログラム糸切り	65
プロダクト NO.	25

へ

ヘアールーム	119
--------------	-----

ほ

方向を変える	68
補強	109
補助テーブル	16, 47
ほつれ止め	79
ボタン穴かがり	89
ボタン穴かがり押え	11, 89, 110, 112
ボタン穴かがりレバー	17, 91
ボタン付け	93
ボタン付け押え	11, 93
ポピン	11, 28
ポピン受け座	32
ポケット口	109

ま

前ページキー	19
まつりぬい	85

まつりぬい押え	86
---------------	----

み

ミシンカバー	10
ミシンの使い方	27
ミシン針	41
ミシン 119 番	176, 189
ミシンブラシ	10

め

メッセージ表示	189
面ファスナー	69

も

文字間隔	124
文字模様の選択	150
戻るキー	19
模様	122
模様ぬい押え	11, 114
模様の位置	160
模様の大きさ	123
模様の確認	128
模様の記憶	129, 172
模様の組み合わせ	126
模様のくり返し	127
模様の種類	51
模様の消去	130
模様の調整	121
模様の長さ	124
模様の幅	61
模様の反転	66, 128
模様の密度	123
模様の呼び出し	129, 172

よ

呼び出し	129, 169, 172
------------	---------------

り

リップパー	11, 92
-------------	--------

れ

レイアウトの調整	160
----------------	-----

わ

粹模様	152
ワンポイント模様	152

アフターサービス

修理を依頼するときや部品を購入するときは、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン119番）」にお問い合わせください。

■ 保証書について

- ご購入の際、保証書にお買い上げ日、販売店名などが記入してあるかご確認の上、販売店で受け取ってください。保証書の内容をよくお読みいただき、大切に保管してください。
- 当社はこのミシンの補修用性能部品を、製造打ち切り後最低8年間保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- 修理については、お買い上げの販売店、または下記の「お客様相談室（ミシン119番）」へご相談ください。

■ お客様相談室（ミシン119番） 0120-340-233

本製品についての、使い方やアフターサービスにご不明の場合は、お買い上げの「販売店」または「お客様相談室（ミシン119番）」までお問い合わせください。

〒467-8577 愛知県名古屋市瑞穂区苗代町15-1

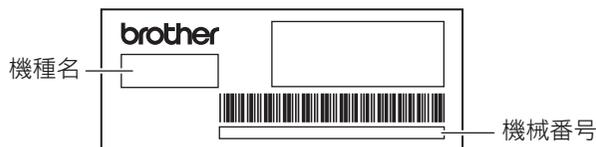
お客様相談室（ミシン119番） Tel：0120-340-233

Fax：052-824-3031

受付時間：月曜日～金曜日 9：00～17：30

休業日：土曜日、日曜日、祝日およびブラザー販売株式会社の休日

- お客様相談室（ミシン119番）は、ブラザー販売株式会社が運営しています。
- 機能および操作方法が機種によって異なるため、お問い合わせの際に「機種名」と「機械番号」をご連絡いただきますと、スムーズにお答えすることができます。ミシン背面の定格ハリマーク（銀色シール）の下記部分をご確認ください。



- ブラザー製品についてのご意見、ご要望は、お買い上げの販売店、または上記「お客様相談室（ミシン119番）」にご連絡ください。
- 上記の電話番号、住所および受付時間は、都合により変更する場合がありますので、ご了承ください。

■ ホームページ

ブラザーのホームページでは、家庭用ミシンに関する様々な情報を掲載しております。

" <http://www.brother.co.jp/> "

ブラザーソリューションセンターでは、家庭用ミシンに関するサポート情報を掲載しております。

" http://solutions.brother.co.jp/sewing_support/index.html "

brother

ブラザー工業株式会社

愛知県名古屋市瑞穂区苗代町15-1 〒467-8561

114-V81
Printed in China



XF5699-001